

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人 北海道武蔵女子学園

## 目 次

|  |    |
|--|----|
| (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況.....                                  | 4  |
| ① 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析.....                              | 4  |
| ② 地域・社会的動向等の現状把握・分析.....   | 5  |
| ③ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等.....                                       | 6  |
| ④ 学生確保の見通し.....  | 8  |
| ア) 定員充足の見込み.....   | 8  |
| イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....                                       | 10 |
| I. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向」.....                  | 10 |
| II. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の大学進学率の動向」.....                   | 11 |
| III. 「北海道および札幌市の大学（学部）入学者数」.....                                   | 12 |
| IV. 「全国の経営・経済・商学系の志願者数等動向推移」.....                                  | 14 |
| V. 「全国における商学・経済学関係の女子学生数推移」.....                                   | 16 |
| VI. 「競合校の志願動向」.....  | 17 |
| VII. 「外部機関によるアンケート調査結果」.....                                       | 20 |
| VIII. 「外部機関による新規アンケート調査結果」.....                                    | 28 |
| IX. 「既設短期大学の学生確保の状況」.....  | 35 |
| X. 「中長期的な志願者確保の見通し」.....   | 38 |
| ⑤ 学生確保に向けた具体的な取り組み状況.....  | 40 |
| ア) 「学生確保に向けた広報活動計画」.....   | 40 |
| イ) 「開学後の中長期的な広報活動計画」.....  | 43 |
| ウ) 「既設の北海道武蔵女子短期大学における収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科の要因分析<br>および今後の取り組み」..... | 44 |

|   |    |
|---|----|
| ⑥ 3年次編入学に係る学生確保の見通し .....                       | 47 |
| ア) 「内部進学を促進するための対策」 .....                       | 47 |
| イ) 「既設短期大学の卒業生への対策」 .....                       | 48 |
| ウ) 「既設短期大学の広報活動における対策」 .....                    | 49 |
| エ) 「北海道内の短期大学への広報」 .....                        | 49 |
| オ) 「北海道内の専修学校への広報」 .....                        | 51 |
| (2) 人材需要の動向等社会の要請 .....                         | 53 |
| ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 .....                 | 53 |
| ア) 北海道武蔵女子大学の教育研究上の目的 .....                     | 53 |
| イ) 北海道武蔵女子大学の養成する人材像 .....                      | 53 |
| ウ) 北海道武蔵女子大学経営学部の特徴 .....                       | 53 |
| ② 上記①が社会的、地理的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 ..... | 55 |
| ア) 全国的に社会で活躍できる現代女性を養成する必要性 .....               | 55 |
| イ) 北海道における女性の社会進出状況と社会で活躍できる現代女性を養成する必要性....    | 56 |
| ウ) PBLを通じた協働を促進する力を養成する必要性 .....                | 58 |
| エ) 全国・北海道におけるデジタル社会の進展に伴う情報教育の必要性 .....         | 59 |
| オ) 予測困難な時代に必要な能力を養成していく必要性.....                 | 60 |
| カ) 養成する人材像の妥当性についての企業へのヒアリング結果.....             | 60 |
| キ) 外部機関によるアンケート調査結果 .....                       | 61 |

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

#### ① 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

北海道武蔵女子短期大学は、開学以来、「すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲」という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性を養成することを教育理想としている。北海道のさまざまな分野で活躍する有為な女性を多数輩出しており、令和3年度までの卒業生数は20,000人を超えている。北海道札幌圏を中心に約2,500社の企業との関係を構築し、礼節を備えた気品ある人材の輩出は、「就職の武蔵」という高い評価につながっている。

北海道武蔵女子大学経営学部の母体となる、北海道武蔵女子短期大学経済学科においては、学科の目的として「経済分野の基礎知識と経営情報分野の実務的基礎能力を身につけさせることを通して、地域社会に積極的に貢献しうる力を養う」を掲げ、有為な人材を育成するための教育を行っている。結果として、多くの優れたビジネスパーソンを輩出し、特に「コミュニケーションスキル」について就職先の企業から高い評価を得ているが、「リーダーシップ」の面でやや劣るとの回答も見られる。

今後は、社会からの更なる女性活躍の要請に応え、企業等でリーダーシップを発揮して働き、女性の社会進出を切り開いていく意欲を持ち、社会の様々な場面で周囲と連帯しながら、基幹的業務を担うことができる「リーダーシップ力」を有する女性を養成していくことが必要となる。このような社会的要請に応じるべく、北海道武蔵女子大学は短期大学で実施している教養ある現代女性教育の深化を図っていく必要がある。

また、短期大学の卒業生の就職先について直近5か年の推移を確認すると、事務職で就職する学生は平成29年から令和3年にかけて114名から73名まで減少し、総合職で就職する学生は平成29年から令和3年にかけて40名から52名まで増加している。企業側が求めている人材像が変容し、就職先の傾向が変化してきていると考えられ、本学としては教育内容の深化によって応えていく必要がある。また、就職者数の上位に「金融機関職員」「営業職」「販売職」が位置しているが、これらは今までの経済学科が提供してきた「経済・金融・経営」の学びと密接に関わる分野である。他にも、「プログラマー・SE」は平成29年の就職者数は4名、平成30年は6名であったが、令和元年には20名まで増加し、その後10名超の就職者数を維持している。ICT人材の不足によって人材需要が増加した結果であると考えられ、本学としてはICT教育の充実によっ

て社会的な人材需要に応じていく必要がある。

## ② 地域・社会的動向等の現状把握・分析

第一に、女性の社会進出についてである。我が国では女性活躍の旗を高く掲げ、平成 27 年に女性活躍推進法が制定され、様々な取組が進められてきたが、女性の社会進出状況は国際的に見ると依然として低水準にとどまっており、2022 年のスイスの非営利財団「世界経済フォーラム」(ダボス会議)が公表しているジェンダー・ギャップ指数(GGI)で日本は 146 か国中 116 位にとどまっている。

本学の位置する北海道や札幌市においても、男女共同参画社会の実現に向け、幅広い取り組みが実施されているが、北海道における女性の社会進出状況は全国と比較して進んでいない。一方で、北海道の男女別人口の推移を確認すると、昭和 40 年頃を境に女性人口が男性人口を上回り、年々女性の割合が上昇している。

以上の状況を踏まえると、社会で活躍する現代女性の養成は、北海道の企業の人材需要に応え、北海道が全国的に女性の社会進出状況が遅れているという社会的課題の解決になり得ると共に、北海道内の経済・産業の活性化へと繋がる社会的意義の高い重要なテーマであるといえる。

第二に、デジタル社会の進展についてである。平成 28 年 1 月に策定された「第 5 期科学技術基本計画」では、「超スマート社会」の実現のための Society5.0 が掲げられたが、「DX 白書 2021」においては、約 9 割の国内事業者が「IT 人材が質量ともに不足している」と回答しており、全国的な IT 人材の不足は大きな課題になっていると考えられる。

本学の位置する北海道においても、令和 3 年 10 月に公表された「北海道総合計画【2021 改訂版】」において、「地域の可能性を広げるデジタル・トランスフォーメーションの推進」が政策の方向性として示されている。このことから、全国同様に数理・データサイエンス・AI の素養を持った人材や IT 人材の養成が求められており、特に、高度情報社会に必要な ICT などの情報活用能力の養成が必要であると考えている。

第三に、予測のつかない時代に現代社会が直面していることについてである。グローバル化の進む 21 世紀初頭の現在、地球環境・生態系破壊の危険性や、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった問題、国際関係の変化と情報技術の進展 (society5.0) 等により、世界は不確実性や不透明性を増した状況となっており、予測のつかない困難

が人間・国家・人類社会を襲っている。

現代社会が直面している諸問題は、一つの学問分野の知見のみで適切にその全体像を理解することは困難であり、なおかつ、異なる利害・異なる価値観が現在進行形で衝突する論争的な性格を有している。更に今後、異なる価値観や視点を持つ他者との協働の機会は増えることが予想され、多様な価値観や視点を持つ人と、相互信頼と協働を促進し、「連帯していく力」が求められている。また、予測困難な時代では、私たち一人ひとり、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。一義的な正解の存在しない問題について、今までのやり方を当てはめるのではなく、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、どのように作り変え、課題解決できるかを思考する「想像力」「構想力」が求められる。

### ③ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

北海道武蔵女子短期大学が開学した昭和 42 年から現代に至るまで、我が国の女性を取り巻く環境は大きく変化してきた。現在、これからの女性は、社会の多くの場面で主体的な役割を担うことが期待されており、それに伴って、女子の高等教育も更に充実していくことが求められている。特に、経営情報分野の実務的能力を身につけ、地域社会に積極的に貢献しうる力を養うことを目的とし、多くの優れたビジネスパーソンを輩出してきた北海道武蔵女子短期大学経済学科は、女性の社会活躍の増進といった社会からの要請に強く応えなければならない。

以上から、短期大学経済学科は、社会に求められる水準の資質・能力を有する女性を養成するために、現行の短期大学より 4 年制大学での教育がより望ましいと判断した。

4 年制大学における教育深化の方向性としては以下の 1)～4)を想定している。それぞれの教育深化による人材養成を通じて、女性の社会活躍の増進といった社会からの要請に応えることができると考えている。

#### 1) リーダーシップ教育の導入

女性の社会進出を支える「リーダーシップ力」を有する女性を養成するために、リーダーシップ探究を目的とした PBL 教育を専門科目の「専門実践科目」に配当し、他者の価値観や視点を理解し、自律的な判断を持って協働を促進する能力を育成する。この PBL では第 1 段階として、周囲との協働のなかで発揮する自分のリーダーシップスタイルを知り「協働力」を養成し、第 2 段階として、デザイン思考（ユーザー視点から仮

説を立て、ニーズや現状の課題を把握するプロセス)を通して「想像力」や「構想力」を養成する。第3段階として、具体的な企業課題から問題を発見・課題解決するプロセスを通して「構想力」や「実践力」を養成する。

## 2) ICT教育の充実

数理・データサイエンス・AIの素養を持った人材やIT人材を養成するために、共通教養教育の科目区分に「ICTスキル・コア」を配置し、Society5.0社会に不可欠な情報活用能力を養成し、専門科目の主要領域に「情報・デザイン系」を配置することで専門的な学びへと展開できるよう教育課程を編成した。具体的にはビジネス統計、データサイエンス・AI基礎などの科目によって情報・統計分野のスキルを習得し、ウェブデザイン演習、デザイン表現演習などの科目によって、デジタル情報の発信のためのスキルを習得する。

## 3) 教養教育の充実

目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、どのように作り変え、課題解決できるかを思考する「想像力」「構想力」を養成するために、多様な教養科目(哲学、歴史学、文学、政治学、社会学、教育学等)および生涯教養としてのキャリア教育を配置する。更に、リーダーシップ探究を目指した課題解決型学習を専門科目の「専門実践科目」にて行い「想像力」「構想力」「実践力」を養成する。加えて、国際社会の基本スキルとしての英語力の養成のために、ビジネス英語やTOEICの資格取得を目指したアドバンスト英語を設置し、グローバル人材の養成を目指す。

## 4) 専門教育の充実

社会で活躍する現代女性の養成といった社会的要請に応えるために、経営・経済に関する専門教育を更に発展させ、経営に関する理論・知識を理解し、ビジネスを企画・実践する能力を養成する。

経営学部経営学科の初年度学生納付金は、収支均衡や教育の質の確保という観点をもとに下表のとおり設定した。競合校の志願動向において取り上げる6大学7学部の学生納付金平均額と比べると27千円程度安価となる。また、北海道内社会科学系11学部の平均額と同程度であり、妥当な学生納付金設定と考えている。他大学の場合、正課以外の教育活動に対し、別途徴収額が発生することが多いが、本学は極力、学生納付金

の内より経費を充当していくことを予定している。

| 区分 / 費目         | 入学金       | 授業料       | その他       | 合計          |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 本学経営学部          | 165,000 円 | 830,000 円 | 191,410 円 | 1,186,410 円 |
| 競合校 6 大学 7 学部平均 | 201,667 円 | 888,167 円 | 123,625 円 | 1,213,458 円 |
| 道内社会科学系 11 学部平均 | 194,545 円 | 831,727 円 | 154,410 円 | 1,180,683 円 |

経営学部経営学科の入学定員は 80 人、編入学定員は 3 年次編入 5 人を設定した。定員設定にあたっては、学部の目的「豊かな想像力、構想力をもって課題を発見・解決する能力を有し、他者の価値観や視点を理解し、対話・連帯することで協働を促進し、グローバル展開する高度情報社会に対応した知識・技能と経営に関する専門的な知識とビジネスを企画・実践する能力を有した人材の養成」を実現可能とする教育的な観点、中長期的な学生確保の見通しからの観点より適正規模を検討した。

#### ④ 学生確保の見通し

##### ア) 定員充足の見込み

「イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要」で記した下記の 8 項目の根拠より、経営学部経営学科入学定員 80 人の学生確保の見通しは立つと判断した。

##### I. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向」

本学が所在する札幌市の 18 歳人口（女）は、平成 29 年度から令和 14 年度にわたり 587 人、7.5%減と推計されており、全国および北海道の減少率と比べると 12.7Pt から 6.8Pt 低いことから、本学は比較的 18 歳人口減少の影響を受けにくい立地環境にある。

##### II. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の大学進学率の動向」

北海道の大学進学率（女）は、平成 29 年度 34.0%から令和 14 年度 46.2%、12.2Pt 増となり、全国の伸び率を上回る。また、札幌の大学進学率（女）の上昇は更に高く、令和 5 年度の時点で 58.1%に達し、令和 14 年度の全国の大学進学率（女）58.0%を超過する値を示している。北海道および札幌市は、全国を上回る大学進学率の上昇が推計される。

### Ⅲ. 「北海道および札幌市の大学（学部）入学者数」

北海道・札幌市とも大学入学者数（女）は上昇傾向の線形を示している。札幌市においては、補正值による大学進学率を用いていることから、その傾向は緩やかになっているが、より大きな上昇がみられる可能性もある。

### Ⅳ. 「全国の経営・経済・商学系の志願者数等動向推移」

各年度の経営・経済・商学系全体の志願倍率は、過去 5 年間 8 倍を上回っており、高いニーズが窺える。特に、名称が経営学部の志願倍率は 9 倍から 11 倍となっている。また、過去 5 年間の経営・経済・商学系全体の入学定員充足率は 100%を超えている。

### Ⅴ. 「全国における商学・経済学関係の女子学生数推移」

商学・経済学関係の学部在籍女子学生数は、平成 24 年度の 108,291 人から令和 3 年度 118,998 人へと 10,707 人、9.8%増となっている。この結果、令和 3 年度の商学・経済学関係の学部在籍学生数（女）は、同年度の社会科学系学科に在籍する女子学生数の 46.3%を占有するに至っている。

### Ⅵ. 「競合校の志願動向」

過去 3 年間の競合校の志願倍率を見ると令和 2 年度 4.85 倍、令和 3 年度 4.46 倍、令和 4 年度 4.42 倍となっており、全国の経営・経済・商学系の志願倍率と比較すると低位であるものの、北海道内の全ての学部より算出した志願倍率は、令和 2 年度 3.96 倍、令和 3 年度 3.40 倍であり、それぞれ 1 倍程度競合校が上回っている。このことから、北海道内札幌市近郊においても経営・経済・商学系学部の人気は高いことが確認できる。また、競合校における入学者（女）は、令和 2 年度 442 人、令和 3 年度 469 人、令和 4 年度 479 人と 3 年間で 37 人、8.4%増となっており、北海道内札幌市近郊においても経営・経済・商学系学部への女性のニーズの高まりが窺える。さらには、入学定員充足率についても、全ての年度で北海道内の学部計より高い水準で 1.0 倍を超えている。

### Ⅶ. 「外部機関によるアンケート調査結果」

調査の結果、Q7 で「1.ぜひ受験したい」、「2.受験したい」、「3.受験先の候補として検討する」を回答した 975 人の内、Q8. 「1.ぜひ入学したい」、「2.入学したい」を回答した入学意向者は 188 人となり、定員 80 人を 2.35 倍上回る結果となった。本学の定員

を超える入学見込み者が確認できたため、本学の学生確保の見通しは高い。

## VIII. 「外部機関による新規アンケート調査結果」

令和 5 年 1 月から 2 月にわたり、より精度の高い入学意向者数を確認することを目的とし、改めて新規アンケート調査を実施した。新規アンケートの結果、①進路希望、②興味のある学問分野、③受験意向、④入学意向、以上 4 つの設問における強い意向層でのクロス集計により確認できた入学意向者は 103 人となり、学生確保の見通しについては問題ないと判断するに至った。

### イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

#### I. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向」

全国の 18 歳人口（女）は、平成 29 年度 574,046 人から令和 14 年度 491,588 人へと 82 千人、14.3%減となると推計される。また、北海道の 18 歳人口（女）についても平成 29 年度から令和 14 年度にわたり 4 千人、20.2%減と推計されるが、本学が所在する札幌市の 18 歳人口（女）は、平成 29 年度から令和 14 年度にわたり 587 人、7.5%減と推計されており、全国および北海道の減少率と比べると 12.7Pt から 6.8Pt 低いことから、比較的 18 歳人口減少の影響を受けにくい立地環境にある。

【資料 1.】「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向」

札幌市の人口動態（表 1）は、全国の傾向と同様に死亡者数が出生者数を上回り、令和 2 年中の自然減は 7,917 人となっている。一方で、社会動態をみると、北海道内の札幌市以外からの人口流入による社会増が自然減を上回り、1972 年に政令指定都市に指定されてからの継続的な人口増となっている。札幌市は、北海道内の札幌市以外からの人口流入により、北海道における学問や経済・文化の中心都市となっており、ここに立地する本学は、通学面、学修面、地域や企業・他大学・自治体との連携による教育研究およびその還元、進路面においても有利な位置にあり、中長期的な学生確保の見通しが維持されると考える。

表 1 札幌市の人口動態（令和 2 年）

| 人口増加数 | 自然増加数  | 社会増加数  | 道内転入   | 道外転入   | 道内転出   | 道外転出   | 区間移動等増加数 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 3,242 | △7,917 | 11,159 | 36,552 | 24,792 | 25,687 | 24,943 | 445      |

社会増加数＝転入(36,552+24,792)－転出(25,687+24,943)+区間移動等

出典：札幌市まちづくり政策局「令和 2 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）」

## II. 「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の大学進学率の動向」

【資料 1.】は、平成 29 年度から令和 14 年度までの全国・北海道および札幌市の大学進学率（女）についても求めている。令和 4 年度から令和 14 年度までの大学進学率（女）の推計は、平成 29 年度から令和 3 年度までの大学進学率の伸び率を用いて推計している。表 2 は、推計に用いた大学進学率の伸び率を示すと共に、その趨勢について示している。北海道および札幌市の大学進学率（女）の伸び率は高く、北海道で 0.012、札幌で 0.020、全国の大学を上回っている。趨勢においても北海道で 3.71、札幌で 6.27、全国を上回る結果となった。

表 2. 平成 29 年度～令和 3 年度の大学進学率の伸び率と趨勢

| 地区               | 平均伸び率       | 趨勢     |
|------------------|-------------|--------|
| 全国の大学（学部）進学率（女）  | 0.010545971 | 103.19 |
| 北海道の大学（学部）進学率（女） | 0.022573474 | 106.90 |
| 札幌市の大学（学部）進学率（女） | 0.030690738 | 109.46 |

表 2 の平均伸び率を用いて、図 1 のとおり令和 4 年度から令和 14 年度までの大学進学率（女）を推計すると、全国の大学進学率（女）は、平成 29 年度 49.1%から令和 14 年度 58.0%、8.9Pt 増となる。北海道の大学進学率（女）については、平成 29 年度 34.0%から令和 14 年度 46.2%、12.2Pt 増となり、全国の伸び率を上回る。また、札幌の大学進学率（女）の上昇は更に高く、令和 5 年度の時点で 58.1%に達し、令和 14 年度の全国の大学進学率（女）58.0%を超過する値を示したことから、以降の大学進学率を同値として補正している。このことから、北海道および札幌市は、全国を上回る大学進学率の上昇が推計されるため、全国の傾向より比較的人口減少の影響を受けづらく、学生確保の見通しが見込めると考える。

【資料 1.】「平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向」

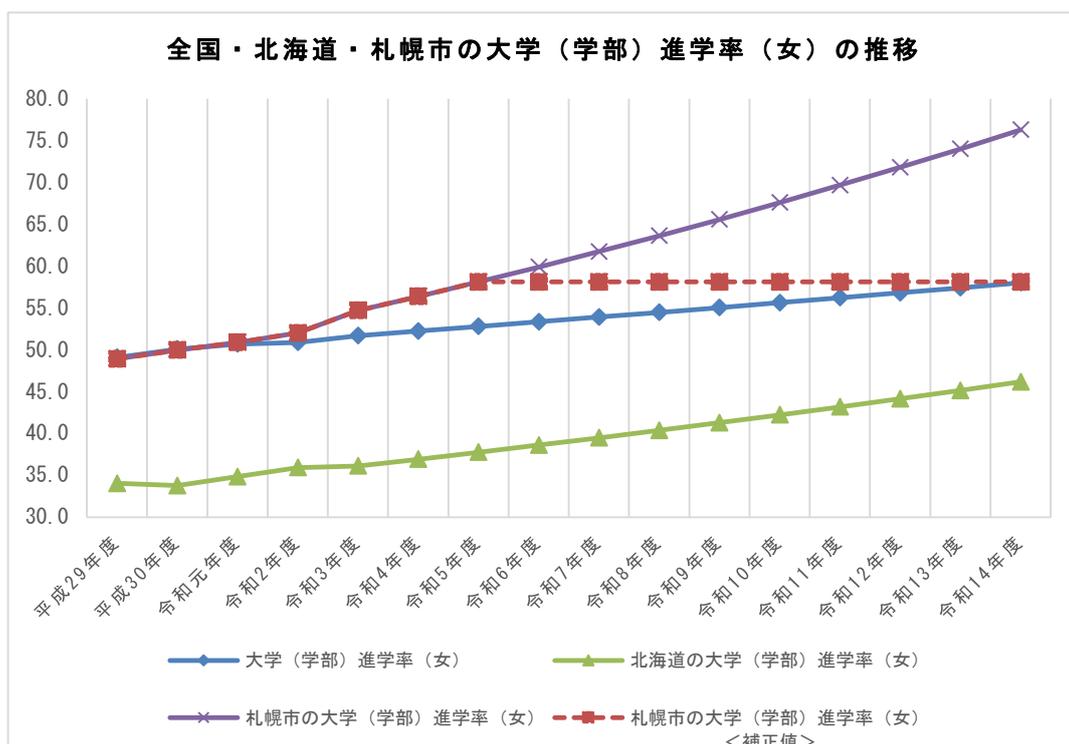


図 1 全国・北海道・札幌市の大学（学部）進学率（女）の推移

### III. 「北海道および札幌市の大学（学部）入学者数」

本学が主な学生募集のターゲットとしている北海道および札幌市 18 歳人口（女）の人数に、大学進学率を乗じた北海道および札幌市の大学入学者数は、図 2 および図 3 のとおりである。令和 5 年度、北海道の大学入学者数（女）において、過去最低となった平成 17 年の合計特殊出生率の影響による 18 歳人口の一時的な減少が見られるものの、北海道・札幌市とも大学入学者数（女）は上昇傾向の線形を示している。札幌市においては、補正值による進学率を用いていることから、その傾向は緩やかになっているが、より大きな上昇がみられる可能性もある。このことから、本学が立地する北海道・札幌市においては、長期的に学生確保の見通しが悪化することはなく、安定した学生募集地域となる可能性が高いと考える。

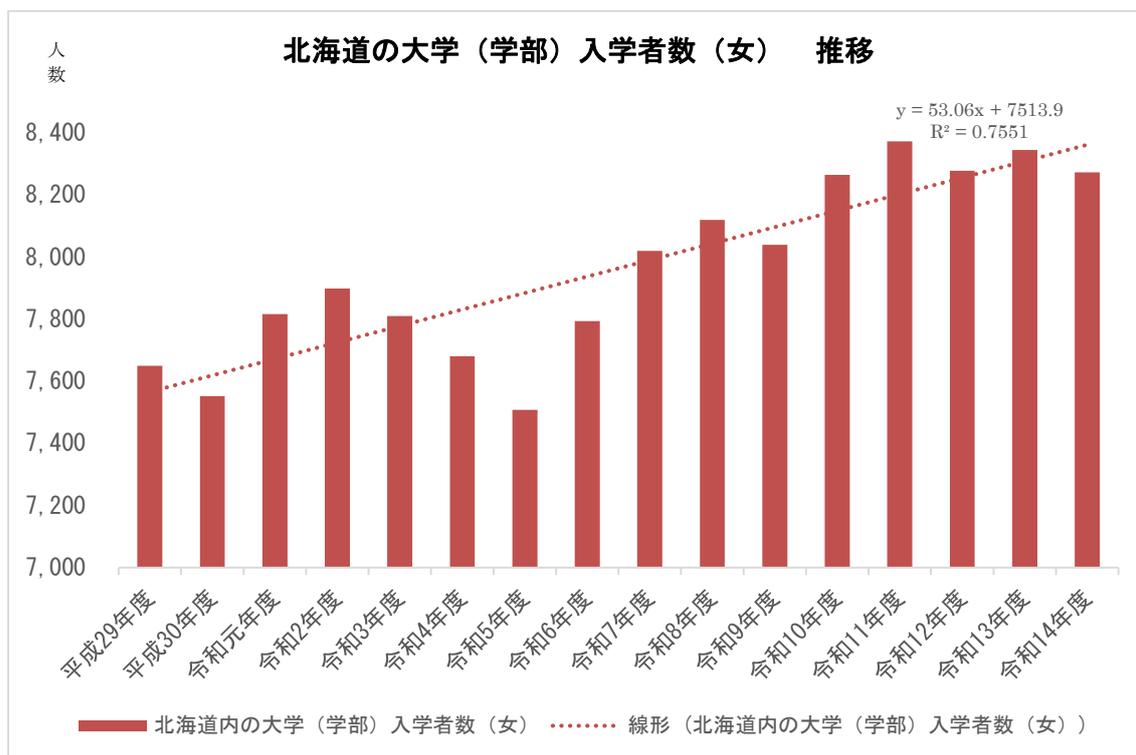


図 2 北海道の大学（学部）入学者数（女）推移

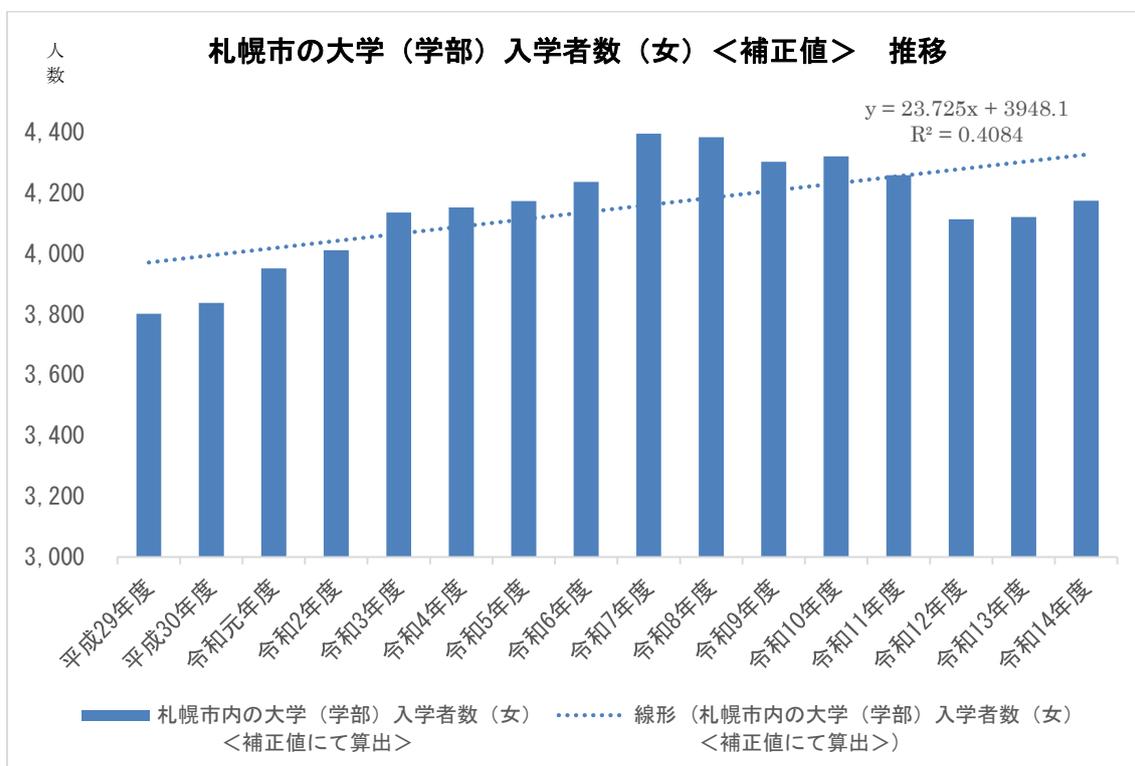


図 3 札幌市の大学（学部）入学者数（女）＜補正值＞推移

#### IV. 「全国の経営・経済・商学系の志願者数等動向推移」

全国における経営・経済・商学系の志願者数は表 3 のとおりである。志願者数計は、平成 29 年度 789,406 人から令和元年度 921,434 人へと 132,028 人 16.7%増加した後、令和 2 年度および令和 3 年度は減少傾向にある。これは令和 2 年度より開始した共通テストを敬遠した安全志向な既卒生の減、首都圏私立大学の定員厳格化による入試難化からの回避や新型コロナウイルス感染症を恐れた生徒の年内入試へのシフトが背景にあると分析している。これらの影響による志願者数の減少は、一時的なものであり、今後、緩やかに持ち直していくと予測している。

次に、

表 4 を確認すると、各年度の経営・経済・商学系全体の志願倍率は、過去 5 年間 8 倍を上回っており、高いニーズが窺える。特に、名称が経営学部の志願倍率は 9 倍から 11 倍となっており、全体での傾向同様に、定員に対する高いニーズに対して入学定員が不足していると考えられる。

表 3 全国の経営・経済・商学系の志願者数動向推移

| 学部       | 平成29年度  | 平成30年度  | 令和元年度   | 令和2年度   | 令和3年度   |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 経済学部     | 374,884 | 412,231 | 422,743 | 391,925 | 350,241 |
| 経営学部     | 239,665 | 268,888 | 296,026 | 292,165 | 252,916 |
| 商学部      | 124,724 | 132,345 | 136,618 | 132,978 | 117,896 |
| 経営情報学部   | 5,707   | 6,728   | 8,000   | 8,373   | 7,510   |
| 経済経営学部   | 2,768   | 4,510   | 6,763   | 7,940   | 7,815   |
| 現代ビジネス学部 | 7,222   | 7,813   | 7,851   | 7,918   | 2,160   |
| 政治経済学部   | 29,999  | 31,600  | 30,035  | 32,746  | 26,488  |
| 総合経営学部   | 2,031   | 1,867   | 3,017   | 3,573   | 2,591   |
| 国際経営学部   | 2,406   | 3,227   | 10,381  | 7,928   | 6,801   |
| 計        | 789,406 | 869,209 | 921,434 | 885,546 | 774,418 |

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

表 4 全国の経営・経済・商学系の志願倍率推移

| 学部       | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|----------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 経済学部     | 9.51   | 10.30  | 10.82 | 10.13 | 8.98  |
| 経営学部     | 9.29   | 10.57  | 11.02 | 10.49 | 9.04  |
| 商学部      | 8.58   | 9.07   | 9.49  | 9.30  | 8.22  |
| 経営情報学部   | 2.52   | 2.94   | 3.51  | 3.98  | 3.54  |
| 経済経営学部   | 2.10   | 2.93   | 4.24  | 4.80  | 3.94  |
| 現代ビジネス学部 | 5.00   | 5.33   | 6.06  | 6.07  | 2.22  |
| 政治経済学部   | 11.41  | 11.25  | 10.69 | 11.65 | 9.43  |
| 総合経営学部   | 1.93   | 2.05   | 3.32  | 3.88  | 2.82  |
| 国際経営学部   | 2.51   | 3.36   | 8.24  | 6.29  | 5.40  |
| 計        | 8.83   | 9.66   | 10.18 | 9.74  | 8.47  |

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」※志願倍率=志願者数÷入学定員

さらに、表 5 を確認すると、過去 5 年間の経営・経済・商学系全体の入学定員充足率は 100% を超えており、主に高校生からの学問に対する高いニーズを確認できるとともに、大学経営上としても教育と経営とのバランスを安定的に図りやすい学問系統であることが分かる。

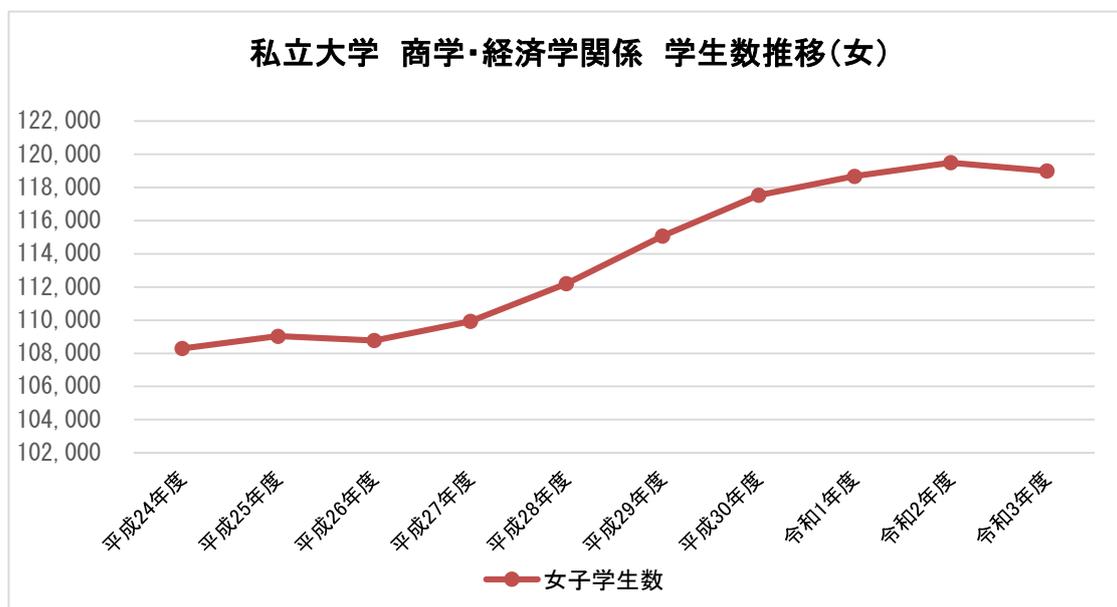
表 5 全国の経営・経済・商学系の入学定員充足率推移

| 学部       | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経済学部     | 109.32 | 104.23 | 101.86 | 102.68 | 101.42 |
| 経営学部     | 108.11 | 106.32 | 103.79 | 105.27 | 103.28 |
| 商学部      | 105.74 | 106.43 | 102.76 | 102.39 | 99.81  |
| 経営情報学部   | 101.86 | 104.36 | 115.07 | 109.42 | 107.59 |
| 経済経営学部   | 113.79 | 118.90 | 119.50 | 112.15 | 104.58 |
| 現代ビジネス学部 | 102.15 | 96.38  | 101.78 | 111.11 | 103.59 |
| 政治経済学部   | 108.90 | 97.01  | 107.44 | 91.67  | 99.07  |
| 総合経営学部   | 99.90  | 113.52 | 120.55 | 124.89 | 119.02 |
| 国際経営学部   | 97.08  | 103.54 | 103.25 | 97.78  | 78.49  |
| 計        | 107.90 | 105.16 | 103.60 | 103.70 | 101.76 |

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

## V. 「全国における商学・経済学関係の女子学生数推移」

図 4 は、私立大学商学・経済学関係に属する女子学生数の推移を表している。



出典：文部科学省「学校基本調査」より作成

図 4 私立大学 商学・経済学関係 学生数推移 (女)

女子学生数は、平成 24 年度の 108,291 人から令和 3 年度 118,998 人へと 10,707 人、9.8%増となっている。平成 27 年度より学生数は増加に転じ、平成 29 年度には 2.6%と最も大きな増加を示しており、全国の女子の商学・経済学関係への興味関心がこの時期、一気に増したことが分かる。結果、令和 3 年度の全国の商学・経済学関係に在籍する学生数（女）（表 6）は、同年度の社会科学系学科に在籍する女子学生数の 46.3%を占有するに至っている。他方、男子構成比率推移を確認すると、社会科学系学科に占める男子の構成比率は安定しているものの、学生数の趨勢は 100 を割り込んでいる。このことから、商学経済学関係に進む女子学生数が増えており、同時に、その構成比率は全国の学生数の 3 割以上を占める社会科学系の中でも最も多いことから、商学・経済学関係学科は学生確保の見通しが図りやすい学問系統であると考ええる。

表 6 男女別 商学・経済学関係の学生構成比率推移

女子 構成比率 推移

| 年度/学科系統         | H24年度   | H25年度   | H26年度   | H27年度   | H28年度   | H29年度   | H30年度   | R1年度    | R2年度    | R3年度    | 趨勢     |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 社会科学 女子学生数 計    | 246,889 | 246,123 | 244,972 | 244,978 | 248,077 | 251,145 | 254,550 | 256,211 | 256,977 | 257,233 | 104.2% |
| 法学・政治学関係        | 41,264  | 41,468  | 41,722  | 42,094  | 43,290  | 44,328  | 45,003  | 45,498  | 45,543  | 45,791  | 111.0% |
| 商学・経済学関係        | 108,291 | 109,036 | 108,779 | 109,932 | 112,205 | 115,069 | 117,533 | 118,678 | 119,504 | 118,998 | 109.9% |
| 社会学関係           | 74,590  | 73,245  | 72,182  | 70,747  | 69,754  | 68,201  | 67,912  | 67,584  | 67,762  | 68,004  | 91.2%  |
| その他             | 22,744  | 22,374  | 22,289  | 22,205  | 22,828  | 23,547  | 24,102  | 24,451  | 24,168  | 24,440  | 107.5% |
| 商学・経済学関係(女)構成比率 | 43.9%   | 44.3%   | 44.4%   | 44.9%   | 45.2%   | 45.8%   | 46.2%   | 46.3%   | 46.5%   | 46.3%   | -      |

男子 構成比率 推移

| 年度/学科系統         | H24年度   | H25年度   | H26年度   | H27年度   | H28年度   | H29年度   | H30年度   | R1年度    | R2年度    | R3年度    | 趨勢     |
|-----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 社会科学 男子学生数 計    | 511,906 | 499,797 | 487,861 | 481,700 | 479,345 | 479,266 | 480,020 | 477,766 | 476,520 | 473,988 | 92.6%  |
| 法学・政治学関係        | 102,743 | 100,198 | 98,174  | 97,175  | 96,961  | 96,375  | 95,860  | 93,950  | 92,342  | 90,979  | 88.6%  |
| 商学・経済学関係        | 307,830 | 299,555 | 290,345 | 286,361 | 284,260 | 284,586 | 285,420 | 285,003 | 285,277 | 284,026 | 92.3%  |
| 社会学関係           | 61,544  | 60,901  | 59,946  | 58,746  | 57,935  | 57,453  | 57,792  | 57,826  | 58,518  | 58,419  | 94.9%  |
| その他             | 39,789  | 39,143  | 39,396  | 39,418  | 40,189  | 40,852  | 40,948  | 40,987  | 40,383  | 40,564  | 101.9% |
| 商学・経済学関係(男)構成比率 | 60.1%   | 59.9%   | 59.5%   | 59.4%   | 59.3%   | 59.4%   | 59.5%   | 59.7%   | 59.9%   | 59.9%   | -      |

出典：文部科学省「学校基本調査」より作成

VI. 「競合校の志願動向」

経営・経済・商学系の学問領域に捉われず幅広い教育を行うため学群制を敷いている大学、“観光”等が含まれた学科名称で学科系統分類上、「人文科学－その他」や「社会科学－社会科学関係等」に分類される学科を擁する学部を除く、北海道内札幌市近郊の計6大学7学部を競合校と設定した。

過去3年間の競合校の志願動向推移は【資料2】のとおりである。入学定員が最も大きい北星学園大学の令和4年度志願者数を入手出来なかったことや、令和3年度に学部を新設した札幌学院大学の志願者数を考慮すると、競合校全体の志願者数は安定しており、経営・経済・商学系学部の根強い人気を確認できる。

さらに分析を進めるため、【資料2】のデータを用いて、競合校の全体的な傾向を確認すると同時に、北海道内の全学部との比較を試みたものが表7となる。

【資料2.】「競合校の志願動向推移」

表 7 競合校と北海道内全学部の志願動比較

| 大項目         | 項目      | 令和 2 年度 | 令和 3 年度 | 令和 4 年度 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|
| 競合校         | 志願者数    | 6,757   | 7,563   | 5,882   |
|             | 入学定員    | 1,394   | 1,694   | 1,330   |
|             | 入学者（男）  | 1,023   | 1,061   | 1,025   |
|             | 入学者（女）  | 442     | 469     | 479     |
|             | 入学者 計   | 1,465   | 1,867   | 1,444   |
|             | 入学定員充足率 | 1.05    | 1.10    | 1.09    |
|             | 志願倍率    | 4.85    | 4.46    | 4.42    |
| 北海道内<br>学部計 | 入学者 計   | 12,276  | 11,784  |         |
|             | 入学定員充足率 | 1.05    | 1.00    |         |
|             | 志願倍率    | 3.96    | 3.40    |         |

※令和 3 年度および令和 4 年度において、札幌学院大学経済経営学部の男女別入学者数データが入手出来なかったことから、同校のデータは入学者男女別には計上せず、入学者数計のみに計上している。

※令和 4 年度において、北星学園大学経済学部の志願者数データが入手出来なかったことから、同校の入学定員および入学者計を省いて計上し、志願倍率および入学定員充足率を計算している。

※令和 4 年度の北海道内学部計の数値は入手出来なかったことから斜線を引いている

北海道内学部計の出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

過去 3 年間の競合校の志願倍率を見ると令和 2 年度 4.85 倍、令和 3 年度 4.46 倍、令和 4 年度 4.42 倍となっており、全国の経営・経済・商学系の志願倍率と比較すると低位であるものの、北海道内の全ての学部より算出した志願倍率は、令和 2 年度 3.96 倍、令和 3 年度 3.40 倍であり、それぞれ 1 倍程度競合校が上回っている。このことから、北海道内札幌市近郊においても経営・経済・商学系学部の人気は高いことが確認できる。

また、競合校における入学者（女）は、令和 2 年度 442 人、令和 3 年度 469 人、令和 4 年度 479 人と 3 年間で 37 人、8.4% 増となっており、北海道内札幌市近郊においても経営・経済・商学系学部への女性のニーズの高まりが窺える。さらには、入学定員充足率についても、全ての年度で北海道内の学部計より高い水準で 1.0 倍を超えており、安定的な学生確保の見通しが立つものと考えられる。

本学とこれら競合校との差別化要因は、「北海道唯一の女子のための経営・経済・商学系学部」と「少人数教育」である。二つの差別化要因については、女子生徒をターゲットとし広報において明確に打ち出していく。

世界経済フォーラムが発表した「ジェンダー・ギャップ指数 2022」によると、我が国は 146 か国中 116 位であったことが発表された。また、上智大学の教授等から構成される地域からジェンダー平等研究会による「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」では、都道府県庁の採用職員や市町村の管理職の男女比を元に調査した「行政」分野、学校の教員の男女比や大学進学率の差を分析した「教育」分野、男女間の賃金格差や社長数の男女比からまとめた「経済」分野、4 つの分野の内 3 つで北海道は最下位であり、男女の格差が際立っていることが報じられた。このことから、女性の能力を顕在化させ、経済的自立や政治参画を実現させようとする機運は、今後、北海道から加速していくと予想する。法人設置より 50 年以上、女子教育を行う本学が「北海道唯一の女子のための経営・経済・商学系学部」を掲げ、有為な女性人材を育成し社会に排出することは、競合校との差別化要因となり得ると考える。

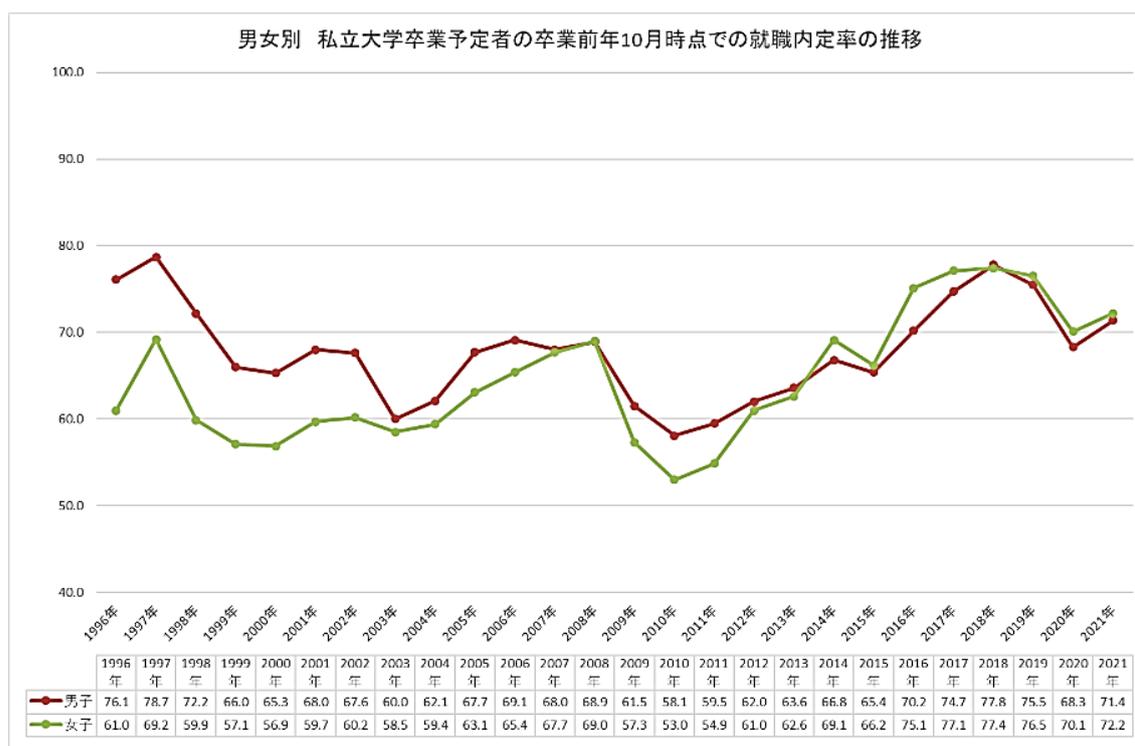
また、日本私立学校振興・共済事業団「令和 3 年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、全国の集計学校数 597 校の内、入学定員 100 人未満の大学は全国で 37 校、6.1%しか存在しない。北海道における競合校の入学定員においても、平均 242 人であり、入学定員 100 人未満を設定している大学は本学のみとなっている。大学進学率の上昇による多様な学生に対応した教育、ICT を活用した教育推進の一方で重要化する教員・学生同士の人的交流。インターネットを活用した就職活動の定着の一方で拡大する情報格差を解消するためのきめ細かな指導等、学生本位の教育を実現するために、「少人数教育」を掲げることは、競合校との差別化要因となると考える。

本学は、「北海道唯一の女子のための経営・経済・商学系学部」と「少人数教育」という二つの差別化要因を有することで、北海道内での高い志願倍率と 1 倍を上回る安定した入学定員充足率を維持している競合校に対し優位となり、安定的な学生確保が可能となると分析している。

図 5 は、1996 年から 2021 年までの男女別就職内定率の推移である。2008 年、女子の就職内定率は男子を初めて超え、その後、リーマンブラザーズ破綻や東日本大震災の影響で男子よりも低く推移した後、男子と同等または超過する値を示している。このことから近年、女子の就職に対する意識、女性の社会進出への姿勢が大きく変化していることが分かる。

本学は 1967 年の開学以来、女子学生への接遇・マナー等の実学教育を施し、女性の多様なライフスタイルやキャリアを学生自らが考えられるカリキュラムを展開することで、女子学生の就職の意識の変化に敏感に対応してきた。また、少人数教育や手厚い指

導、丁寧な対応を大切にする等、女子学生のニーズや関心に応えながら就職指導や学生指導を行うノウハウを蓄積してきた。これら教育資源を活かしながら、女性の経営・経済・商学系学問へのニーズに応えようとする本学においては、多くの高校生に志望されることが期待できると確信している。



出典：文部科学省「学校基本調査」より作成

図 5 男女別 私立大学卒業予定者の卒業前年 10 月時点での就職内定率の推移

## VII. 「外部機関によるアンケート調査結果」

### ア) 北海道武蔵女子大学設置に関するニーズ調査 概要

開学時に入学対象となる北海道内の高校 2 年生を対象にアンケート調査を実施し、本学の学生確保の見通しについて定量的に確認した。

|       |   |                 |
|-------|---|-----------------|
| 調査対象  | 北海道内にある高等学校に在籍する高校 2 年生   |                 |
| 調査方法  | 本調査への協力を 94 校へ依頼し、<br>許諾が得られた 80 校に調査票を送付<br>ホームルームなどで配布・回収頂いた。 |                 |
| 調査対象数 | 依頼校数  | 94 校            |
|       | 協力許諾校数 (依頼校数)   | 80 校 (19,357 枚) |

|  |                |                      |
|--|----------------|----------------------|
|  | 回収校数（アンケート回収数） | 77校（13,158枚）         |
|  | 有効回答数 ※女性のみ抽出  | 8,393枚 ※女性のみ抽出       |
|  | 調査時期           | 2022年7月7日～2022年7月29日 |
|  | 調査実施機関         | 株式会社 船井総合研究所         |

※ 本学は女子大学としての設置を予定していることから、女子の回答を有効回答数とした。

#### イ) 本学の特色に対する評価結果

本学の教育上の特徴が高校生のニーズに合致しているか確認をするために、アンケートQ6で以下a.～f.に示す本学の6つの特色をどの程度魅力に感じるのか調査を行った。調査の結果、本学の6つの項目全てにおいて9割以上が「大いに魅力的である」「魅力的である」または「やや魅力的である」と回答があった。この回答結果から、本学の特色が高校生の志向性と合致していると言える。

各特色に対して、本学のターゲットとなる対象生徒の回答のうち「大いに魅力的である」「魅力的である」または「やや魅力的である」という回答が占める割合は以下の通りである。

- a. 母体となる北海道武蔵女子学園は50年以上、女子教育を行ってきた実績があり、「就職の武蔵」と形容され、2万人を超える卒業生が北海道を中心に活躍している。(90.4%)
- b. 少人数で、対話的・主体的なゼミナール型授業を中心にカリキュラムが組まれており、他者と共に主体的に学び、想像力・構想力をもって課題を解決する力を得ることが出来る。(93.3%)
- c. 社会に出て活躍できる現代女性を育成するため、女子のリーダーシップ教育が充実しており、女子大ならではの、チームで学ぶ機会を多く得ることができる。(92.2%)
- d. 教養教育が充実しており、すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性となるための教育を受けることができる。(91.6%)
- e. ビジネスに関する学びと心理学を融合した学びができ、購買動機の心理的な影響など、人の心とビジネスの関係について学ぶことができる。(92.9%)
- f. ビジネスに関する学びにデザイン、ICT、情報などの学びもでき、Web・ポスターなどの情報デザインや今後社会で必要となるデータの収集分析についても学ぶことができる。(92.3%)

ウ) 本学への入学意向者数の調査結果

本学を受験し、入学を希望する学生をどの程度確保できるのか検証をするために、Q7において「1.ぜひ受験したい」、「2.受験したい」、「3.受験先の候補として検討する」を回答した「本学への受験意向者」に対して、Q8において「1.ぜひ入学したい」、「2.入学したい」との回答を得た高校生数を「本学への入学意向者」としてカウントし、定員 80 名を超える入学見込み者が確保できるか調査を行った。

調査の結果、Q7で「1.ぜひ受験したい」、「2.受験したい」、「3.受験先の候補として検討する」を回答した 975 人の内、Q8.「1.ぜひ入学したい」、「2.入学したい」を回答した入学意向者は表 8 のとおり 188 人（赤枠にて示す）となり、定員 80 人を 2.35 倍上回る結果となった。本学の定員を超える入学見込み者が確認できたため、本学の学生確保の見通しは高い。

表 8 本学への入学意向者数（アンケートの Q7, Q8 のクロス集計結果）

|          |                     | Q7.受験意向者  |           |                 | 計          |
|----------|---------------------|-----------|-----------|-----------------|------------|
|          |                     | 1.ぜひ受験したい | 2.受験したい   | 3.受験先の候補として検討する |            |
| Q8.入学意向者 | 1.ぜひ入学したい           | 37        | 13        | 28              | <b>78</b>  |
|          | 2.入学したい             | 8         | 24        | 78              | <b>110</b> |
|          | 3.入学先の候補として検討する     | 2         | 17        | 672             | <b>691</b> |
|          | 4.あまり入学先の候補として検討しない | 0         | 0         | 56              | <b>56</b>  |
|          | 5.入学先としては検討しない      | 4         | 2         | 11              | <b>17</b>  |
|          | 6.無回答・複数回答          | 0         | 1         | 22              | <b>23</b>  |
| 計        |                     | <b>51</b> | <b>57</b> | <b>867</b>      | <b>975</b> |

エ) 更なる学生確保の見通しについて検証

Q7で「1.ぜひ受験したい」、「2.受験したい」、「3.受験先の候補として検討する」を回答した 975 人の内、Q8.「3.入学を検討する」と回答した高校生は 691 人（表 8.青枠にて示す）おり、定員の 8.63 倍の高校生が入学を検討していた。既に入学意向者で定員を超過する学生を確保できる結果となったが、より厳重な学生確保の見通しの精度を図るため、入学を検討している 691 人を「入学検討者」として定め、詳細な分析を実施した。

#### ①入学検討者の本学に対する印象（魅力度調査）

入学検討者 691 名が北海道武蔵女子大学の特色に対して、どの程度魅力的に感じているのか、Q6 の本学の特色に対する魅力度調査の結果により確認した。調査の結果、入学検討者 691 名の 91.1%である 630 名が本学の 6 つの特徴全てに対して「大いに魅力的である」、「魅力的である」、「やや魅力的である」のいずれかを回答していた。このことから、北海道武蔵女子大学の特色は入学検討者にとって魅力的であり、入学検討者のニーズと本学の特徴は合致していると考えられる。

また、本学の 6 つの特徴それぞれに対する魅力度を確認すると表 9 のとおりとなった。項目別では「a.母体となる北海道武蔵女子学園は 50 年以上、女子教育を行ってきた実績があり、『就職の武蔵』と形容され、2 万人を超える卒業生が北海道を中心に活躍している（98.0%）」、「e.ビジネスに関する学びと心理学を融合した学びができ、購買動機の心理的な影響など、人の心とビジネスの関係について学ぶことができる（98.6%）」、「f.ビジネスに関する学びにデザイン、ICT、情報などの学びもでき、Web・ポスターなどの情報デザインや今後社会で必要となるデータの収集分析についても学ぶことができる（98.1%）」、以上 3 つの特色が特に高い評価となり、98%を超える結果となった

入学検討者から高い魅力度があると評価された本学の 3 つの特色は、それぞれの本学ならではの特色であり、差別化要因でもある。後述する「学生確保に向けた具体的な取り組み」にて、その要素をしっかりと訴求する広報活動によって、入学検討者を確保することが可能であると考えられる。

表 9 「入学先の候補として検討する」と回答した高校生の Q6（魅力度調査）の結果

| 特色 | 選択肢 | 度数  | 割合     | 選択肢       |       |
|----|-----|-----|--------|-----------|-------|
|    |     |     |        | 1, 2, 3割合 |       |
| a  | 1   | 228 | 33.0%  | 98.0%     |       |
|    | 2   | 312 | 45.2%  |           |       |
|    | 3   | 137 | 19.8%  |           |       |
|    | 4   | 10  | 1.4%   |           |       |
|    | 5   | 2   | 0.3%   |           |       |
|    | 無回答 | 2   | 0.3%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 98.0% |
| b  | 1   | 248 | 35.9%  | 97.8%     |       |
|    | 2   | 289 | 41.8%  |           |       |
|    | 3   | 139 | 20.1%  |           |       |
|    | 4   | 12  | 1.7%   |           |       |
|    | 5   | 1   | 0.1%   |           |       |
|    | 無回答 | 2   | 0.3%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 97.8% |
| c  | 1   | 279 | 40.4%  | 97.0%     |       |
|    | 2   | 263 | 38.1%  |           |       |
|    | 3   | 128 | 18.5%  |           |       |
|    | 4   | 16  | 2.3%   |           |       |
|    | 5   | 2   | 0.3%   |           |       |
|    | 無回答 | 3   | 0.4%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 97.0% |
| d  | 1   | 261 | 37.8%  | 96.8%     |       |
|    | 2   | 278 | 40.2%  |           |       |
|    | 3   | 130 | 18.8%  |           |       |
|    | 4   | 14  | 2.0%   |           |       |
|    | 5   | 3   | 0.4%   |           |       |
|    | 無回答 | 5   | 0.7%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 96.8% |
| e  | 1   | 306 | 44.3%  | 98.6%     |       |
|    | 2   | 273 | 39.5%  |           |       |
|    | 3   | 102 | 14.8%  |           |       |
|    | 4   | 5   | 0.7%   |           |       |
|    | 5   | 1   | 0.1%   |           |       |
|    | 無回答 | 4   | 0.6%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 98.6% |
| f  | 1   | 304 | 44.0%  | 98.1%     |       |
|    | 2   | 266 | 38.5%  |           |       |
|    | 3   | 108 | 15.6%  |           |       |
|    | 4   | 9   | 1.3%   |           |       |
|    | 5   | 1   | 0.1%   |           |       |
|    | 無回答 | 3   | 0.4%   |           |       |
|    | 総数  | 691 | 100.0% |           | 98.1% |

※選択肢 a～f、1～5 はアンケート内容と対応しており、1～5 は数値が小さいほど魅力度が高い回答

②入学検討者の希望進路と本学とのギャップの確認（進路希望とのギャップ調査）

入学検討者 691 人に対して、希望する進路を Q3（進学したい学校種）、Q4（希望する学問分野）、Q5（希望するエリア）、以上3つのクロス集計を行い確認した。

クロス集計の結果、入学検討者 691 人のうち 565 人は北海道内に進学を希望していた（表 10）。また、北海道に進学を希望している進学検討者 565 人のうち、本学と希望する進路（進学したい学校種、希望する学問分野）が合致する入学検討者は 236 人いる結果となった（表 11 赤枠）。更に、希望進路が本学と合致する 236 人が、どの程度本学の特徴を魅力的に感じているのか、Q6 の本学の特色に対する魅力度調査の結果により確認した結果、236 人中、218 人（92.3%）が 6 つの特徴全てに対して「大いに魅力的である」、「魅力的である」、「やや魅力的である」のいずれかを回答していた。希望する進路の合致、本学に対し魅力を高く感じて頂いている点から、218 人の進学検討者のニーズと本学の特色・学べる内容は合致しており、入学者として確保できる可能性は高いと判断している。進学検討者のなかでも、見込みの高い層に対して後述する PR 活動を実施することで進学検討者を入学者として確保することは可能であると考えている。

表 10 進学検討者 691 人の Q5 の回答結果

| 北海道 | 北海道以外 | 合計  |
|-----|-------|-----|
| 565 | 126   | 691 |

表 11 北海道に進学を希望する進学検討者 565 名の Q3、Q4 の回答結果

|          | 経営・経済・商学・ビジネス        | 経営・経済・商学・ビジネス以外         | 合計  |
|----------|----------------------|-------------------------|-----|
| 4 年制大学   | 236<br>※本学と希望進路が合致   | 207<br>※希望する学びの分野が合致しない | 443 |
| 4 年制大学以外 | 34<br>※希望する学校種が合致しない | 88                      | 122 |
| 合計       | 270                  | 295                     | 565 |

オ) 確実な入学意向者確保について

前述の通り、Q7 で「1.ぜひ受験したい」、「2.受験したい」、「3.受験先の候補として検討する」を回答し Q8 で「1.ぜひ入学したい」、「2.入学したい」を回答した入学意向者は 188 人となり、定員 80 人を 2.35 倍上回る結果となった。

既に入学意向者で定員を超過する学生を確保できる結果となったが、入学意向者の進学希望の傾向を検証することで、より確実な入学者の確保ができると考え、入学意向者 188 人に対して、希望する進路を（Q3 進学したい学校種）、（Q4 希望する学問分野）、（Q5 希望するエリア）、3 つの質問のクロス集計を追加し確認をした。

クロス集計の結果、入学意向者 188 人のうち 161 人は北海道内に進学を希望していた（表 12）。また、北海道に進学を希望している進学意向者 161 人のうち、本学と希望する進路（Q3 進学したい学校種）、（Q4 希望する学問分野）が合致する入学検討者は 59 人いる結果となった。本学に入学を希望する 188 人のうち、129 人は進学を希望するエリア・学校種・学べる分野が本学とは異なるにも関わらず、入学を希望している。母体となる短期大学の地域からの評価や本学の特色が高校生のニーズに強く合致した結果であると考えられるが、希望する進路と相違があるため、今後の高校生活を通じて他の大学に進学を変更する可能性も考えられる。より確実な入学者数を確保するために、「経営・経済・商学・ビジネス以外」の学問系統に興味がある入学意向者への PR 強化の方針、「4 年制大学以外」の進学を希望している入学意向者への PR 強化の方針。それぞれ記載する。

表 12 入学意向者 188 人の Q5 の回答結果

| 北海道 | 北海道以外 | 合計  |
|-----|-------|-----|
| 161 | 27    | 188 |

表 13 北海道に進学を希望する入学意向者 161 名の Q3、Q4 の回答結果

|          | 経営・経済・商学・ビジネス        | 経営・経済・商学・ビジネス以外        | 合計  |
|----------|----------------------|------------------------|-----|
| 4 年制大学   | 59<br>※本学と希望進路が合致    | 38<br>※希望する学びの分野が合致しない | 97  |
| 4 年制大学以外 | 29<br>※希望する学校種が合致しない | 35                     | 64  |
| 合計       | 88                   | 73                     | 161 |

①：「経営・経済・商学・ビジネス以外」の学問系統に興味がある入学意向者への PR 強化の方針

経営・経済・商学・ビジネス以外の学問系統に興味がある入学意向者は 38 人であった。この 38 人の興味のある学問系統は表 14 のとおりである。「設問No.2 人間・心理・教育・福祉」17 人、「設問No.7 文化・地理・歴史」7 人、「設問No.13 芸術・文学・表現」7 人などの分野に興味を持っている者が多いことが分かる。これらの学問系統の内、特に心理、文化、芸術等の分野における就職は、専門職であることが想定されるため、人材需要が少なく、その職での就職は困難であろう。本学は経営学を主体としながら心理学やデザイン思考による社会における問題解決手法を学ぶことが出来るため、マーケティング職・企画職・営業職など幅広い職種に就くことを想定している。このため、本学の進路・就職先は、専門職の人材需要よりも豊富にあるという点で、他の学問系統より強みがあると考えている。

オープンキャンパス等においては、想定される就職先や本学の学びがどのように職業に活かされるか、「就職の武蔵」と称されてきた就職支援の強みを訴求することで、現時点において他の学問系統に興味がある生徒を本学へと確保することが可能であると考えられる。

表 14 経営・経済・商学・ビジネス以外に興味のある学問系統

| 設問№       | 学問領域               | 回答数       |
|-----------|--------------------|-----------|
| 4         | 人間・心理・教育・福祉        | 17        |
| 2         | 看護学・理学療法・作業療法・医療技術 | 13        |
| 7         | 文化・地理・歴史           | 7         |
| 13        | 芸術・文学・表現           | 7         |
| 9         | 栄養・食物学             | 5         |
| 10        | 国際・語学              | 5         |
| 6         | 医学・歯学・薬学           | 4         |
| 15        | 服飾・住居              | 3         |
| 5         | スポーツ・健康科学          | 2         |
| 11        | 農学・生物学・獣医学         | 2         |
| 12        | 数学・物理学・化学          | 2         |
| 14        | 工学・建築学・技術          | 1         |
| 16        | その他                | 1         |
| <b>総計</b> |                    | <b>69</b> |

②「4年制大学以外」の進学を希望している入学意向者へのPR強化の方針

4年制大学以外の進路に興味がある入学意向者は29人であった。この29人の興味のある進路は、短期大学22人、専門職大学・専門職短期大学1人、専門学校6人となり、入学意向者29人中、短期大学への進学を希望する高校生が22人（75.8%）となり、特に短期大学を第一志望と想定している生徒を志願・入学に繋げることが重要であることが分かる。

堀江信之（2012）「短期大学アンケート調査からみた短期大学の課題と将来像」『静岡英和学院大学 静岡英和学院大学短期大学部紀要』第10号 pp169-187によると、短期大学を志望する理由は図6のとおり経済的理由であることが多いことが分かる。実際、既設の短期大学における入学者からも経済的理由が進路決定の一つの要因となっていることを実感している。経済を担う親、特に女子学生の進路選択においては母親が大きな役割を担うと「高校生と保護者の進路に関する意識調査（リクルート）」結果でも示されていることから、保護者説明会や本人への説明の際には、学費納付の猶予制度や奨学金制度などの説明を行うことで、本学への志願・入学へとつなげていく。

以上の①から③という本学への入学意向を持つ可能性が高い生徒に対する広報活動を重要視し、それぞれの層が抱える価値観や課題を踏まえて、具体的な取り組みを実行していくことで、学生確保の見通しは十分に立つと考えている。

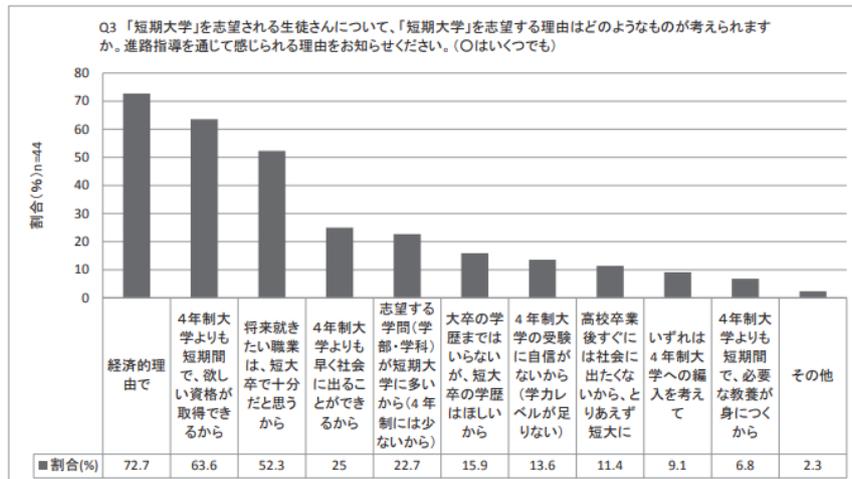


図 6 短期大学を志望する理由

出典：堀江信之（2012）「短期大学アンケート調査からみた短期大学の課題と将来像」

## VIII. 「外部機関による新規アンケート調査結果」

### ア) 新規アンケートの目的

令和5年1月から2月にわたり、①進路希望、②興味のある学問分野、③受験意向、④入学意向、以上4つの設問における強い意向層でのクロス集計による分析を行い、より精度の高い入学意向者数を確認することを目的として、改めて仕切り直しとなる新規アンケート調査を実施した。なお、アンケート調査の対象である「北海道内にある高等学校に在籍する2年生」について変更はない。

### イ) 前回アンケートからの変更点

新規アンケートの実施にあたり、前回アンケートにおける課題や時間的な制約等を踏まえた以下の変更方針を作成の上、リーフレット、アンケート実施形態、アンケート調査書について変更を行った。

#### ①リーフレットにおける教育内容の記述の強化（提示資料）

##### （変更方針）

前回アンケート実施時の提示資料とした旧リーフレットにおいては、なぜ経営学部を設置するのかということに焦点が置かれており、具体的な教育内容や養成する人材像の記述が十分ではなかった。また、本学の教育課程の編成については、企業からの

意見も参考にした実践的な内容であることを訴求し、本学への理解を深めてもらう内容とすべきとした。

(変更点)

新リーフレットについては、本学での学びと学び方の説明を盛り込むと同時に、企業人からのこれからの時代に必要とされる力というメッセージと連動した形で、本学の教育内容についての説明を行っている。

## ②Web アンケートを主体とした実施

(変更方針)

新規アンケート実施時期となる1月から2月にかけては、冬休み期間や大学入学共通テスト利用選抜対応など、高校における行事と重なる時期となる。この時期にアンケートを実施し、回収・集計を行う時間を考慮すると、前回アンケートにおいて実施した紙媒体によるアンケート調査については実施困難であると判断し、Web アンケートを主体として実施する方針とした。ただし、高校側においてWebでのアンケート実施が困難とされた場合は、前回アンケート同様、紙媒体によるアンケートでの回答を依頼することとした。

また、Web アンケートにおける回答者の重複を防止するために、高校生へのアンケート説明文書の中に、固有の6桁の重複回答防止番号を記載し、この番号をWeb アンケート回答フォームに入力することとした。

(変更点)

前回実施した紙媒体のみでのアンケートから変更し、Web アンケートを主体としながら紙媒体アンケートについても併用し実施した。なお、Web アンケートにおいては、固有の6桁の重複回答防止番号を用いて回答者の重複を防止している。

## ③アンケート設問の見直し

(変更方針)

①進路希望、②興味のある学問分野、③受験意向、④入学意向、以上4つの設問における強い意向層でのクロス集計による分析を行い、より精度の高い入学意向者数を確認するためには、入学の意思を明確に確認できる設問である必要があり、十分に検討することとした。また、Web アンケートの試作と検証を重ねた結果、読み易い文章

量と分かりやすい文章表現を用いて、明解に回答できる設問とすることが重要であることが分かった。加えて、前回アンケート終了時および新規アンケート意向打診の際に、高校側からの要望として、生徒の負担軽減を図って欲しい、回答時間を短くして欲しい等の要望があったため、必要最小限の設問を検討することとした。

(変更点)

A) Q2.「性別を確認する設問」の見直し

新しいアンケート調査書においては、男性についても「進路希望」、「興味のある学問分野」、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科の特色への魅力度」、「受験意向」を確認することに改めた。これは前回アンケートにおいて、男性については性別を確認するのみでアンケートが終了してしまうという一部の高校からの意見を改善する目的での変更である。なお、男性の回答については参考データに留め有効回答数には含まれていない。

B) Q3.「進路希望」における単一回答から複数回答への変更

新規アンケートにおいては、複数回答を可として改めた。前回アンケートにおいては、単一回答にもかかわらず、複数の選択肢を選んだ者が50名存在しており、無効回答数の増加の要因となっていた。実際の入学試験においても、大学・短期大学・専門学校等を併願する生徒がいることを考えると、特にこの時期においては、高校生にとって進路希望の設問における単一選択には無理があり、明解な回答をしかねる生徒が多いと考えた。以上より、高校生の意向に沿って無理なく回答できるよう複数回答への変更としている。

C) 進学希望エリアを問う設問の削除

前回アンケート「Q5.」において、進学希望エリアを問う設問を設けていたが、前回アンケートでは8割程度の生徒が北海道での進学を希望していたこと、配布したリーフレットの表紙に「北海道に新しい選択肢をつくります」というコピーがあること、本学の大学名から北海道に所在する大学への入学意向アンケートであることが明解であることから削除を行っている。

**D) Q4. 「興味のある学問分野」の学問分類の見直し**

「興味のある学問分野」における学問分類については、文部科学省科学技術・学術審議会の学術分科会が設定した「分科細目表」に基づき選択肢を作成し、Web アンケートの回答になることを考慮し、高校生が迷わずに合理的な選択ができるよう主要な学問系統ごとに分類している。

**E) Q5. 「本学の特色への魅力度」の設問の変更**

企業からの意見を取り入れて編成した教育課程を訴求し、本学への理解をより深めてもらうために、提示資料として作成した新リーフレットには企業からのメッセージを記載した。これに連動させる形で Q5. 設問文中に「教育課程は、企業からの意見も参考にしながら編成されています」という文言を入れている。

また、a. から f. の本学の各特色については、Web アンケートの回答になることを考慮した結果、短文とし分かりやすさに配慮している。

**F) Q6. 「受験意向」、Q7. 「入学意向」における 5 件法から 3 件法への変更**

①進路希望、②興味のある学問分野、③受験意向、④入学意向、以上 4 つの設問における強い意向層でのクロス集計による分析を行い、より精度の高い入学意向者数を確認するために、入学の意思を明確に確認できる設問とした。前回アンケートでは、「1. ぜひ入学（受験）したい」、「2. 入学（受験）したい」、「3. 入学先（受験先）の候補として検討する」、「4. あまり入学先（受験先）としては考えない」、「5. 入学先（受験先）としては考えない」の 5 件法としていたが、「1. ぜひ入学（受験）したい」、「2. 入学（受験）したい」の設問および「4. あまり入学先（受験先）としては考えない」、「5. 入学先（受験先）としては考えない」の設問については同意であり、設問の実質的な構造としては 3 件法となっていたことから、新規アンケートにおいては、「1. 入学（受験）したいと思う」、「2. 入学（受験）したいと思わない」、「3. 入学（受験）を検討したいと思う」の 3 件法へと改め、生徒の入学（受験）の意思を明確に確認した上で、最も強い意向層を求めるためのクロス集計に用いた。また、5 件法から 3 件法への変更については、アンケート調査に精通する既設短期大学教授からも妥当性に問題はないという助言を得た。

ウ) 外部機関による新規アンケート調査結果

① 北海道武蔵女子大学設置に関する新規ニーズ調査 概要

開学時に入学対象となる北海道内にある高等学校に在籍する高校2年生を対象に新規アンケート調査を実施し、本学の学生確保の見通しについて再度、定量的に確認した。前回アンケートと新規アンケートとの調査方法・調査対象者数・調査時期等の差異を下表に提示する。

|        |                    | 前回アンケート  | 新規アンケート   |
|--------|--------------------|--|---|
| 調査対象   |                    | 北海道内にある高等学校に在籍する高校2年生                                |   |
| 調査方法   |                    | 本調査への協力を94校に依頼し、許諾が得られた80校に調査票を送付。ホームルームなどで配布・回収頂いた。 | 本調査への協力を214校に依頼し、許諾が得られた199校にWebアンケート案内または調査票(紙媒体)を送付。ホームルームなどでWebアンケートへの回答、調査票の配布・回収頂いた。 |
| 調査対象者数 | 依頼校数               | 94校  | 214校  |
|        | 協力許諾校数             | 80校 (19,357枚)  | 199校 (26,518枚)<br>※Webアンケート179校 (調査票23,878枚)<br>※紙アンケート20校 (調査票2,640枚)                    |
|        | 回収校数<br>(アンケート回収数) | 77校 (13,158枚)  | 171校 (16,685枚)<br>※Webアンケート152校 (14,471枚)<br>※紙アンケート19校 (2,214枚)                          |
|        | 有効回答数<br>※女性のみ抽出   | 8,393枚   | 9,016枚<br>※Webアンケート152校 (7,737枚)<br>※紙アンケート19校 (1,279枚)                                   |
| 調査時期   |                    | 2022年7月7日～2022年7月29日                                 | 2023年1月27日～2023年2月17日   |
| 調査実施機関 |                    | 株式会社 船井総合研究所   |   |

② 本学への入学意向者数の調査結果

新規アンケートにおいて、「Q3.進路希望」、「Q4.興味のある学問分野」、「Q6.受験意向」、「Q7.入学意向」、以上4つの設問における強い意向層でのクロス集計結果は表15のとおり103人(赤枠で示す)となり、入学定員80人を1.29倍上回る結果となった。

なお、Web アンケートにおける入学意向者数は 89 人であり、有効回答数 7,737 枚に対する割合は 1.15%となった。他方、紙アンケートにおける入学意向者数は 14 人であり、有効回答数 1,279 枚に対する割合は 1.09%と、アンケートの形式による差は認められなかった。

表 15 本学入学意向者の数（「Q3. 進路希望」、「Q4. 興味のある学問分野」、「Q6. 受験意向」、「Q7. 入学意向」、4つの設問における強い意向層でのクロス集計結果

|         |               | Q6.受験意向者   |              |               | 計     |
|---------|---------------|------------|--------------|---------------|-------|
|         |               | 1.受験したいと思う | 2.受験したいと思わない | 3.受験を検討したいと思う |       |
| Q7入学意向者 | 1.入学したいと思う    | 103        | 29           | 70            | 202   |
|         | 2.入学したいと思わない  | 5          | 312          | 20            | 337   |
|         | 3.入学を検討したいと思う | 39         | 159          | 399           | 597   |
| 計       |               | 147        | 500          | 489           | 1,136 |

また、「1.受験したいと思う」を回答した者のうち「3.入学を検討したいと思う」を回答した 39 人（青枠で示す）については、103 人に対する更なる上積みの可能性が高い層である。本学の広報により、高校 3 年生となる今後、入学意向者へランクアップすることも十分に可能であると考えている。

さらに、「3.受験を検討したいと思う」を回答した者のうち、「1.入学したいと思う」70 人、「3.入学を検討したいと思う」399 人、合計 469 人（緑枠で示す）については、本学への興味を示しているが未だ悩んでいる段階にある層となるだろう。これら 469 人が魅力的であると回答した本学の特色について確認（表 16）すると、特に、「c.心理学やマーケティングと経営学を融合した学び」88.9%、「f. 社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」ブランドと徹底した就活サポート」86.4%、以上 2 つの特色において高い結果となった。紙面が限られる DM や広告媒体においては、この 2 つの魅力を特に訴求していくことで、469 人の内より受験・入学に結びつく者が出てくると考えている。

表 16. 469 人が魅力的であると回答した本学の特色

| 北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科の特色 |  | 469 人のうち魅力的であると回答した者の割合 |
|------------------------|--|-------------------------|
| a.                     | 少人数ゼミナール、アクティブラーニングと PBL（課題解決型学習）など、学生が中心となる主体的な学び | 77.4%                   |
| b.                     | チームの連携・協働を促進し成果を生み出す、新しいリーダーシップ教育                  | 79.7%                   |
| c.                     | 心理学やマーケティングと経営学を融合した学び                             | 88.9%                   |
| d.                     | デザイン系科目や AI、ICT、データサイエンスなどの新しい情報系科目による学び           | 75.7%                   |
| e.                     | 繰り返し学んで習熟度を UP させる映像配信型授業                          | 73.8%                   |
| f.                     | 社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」ブランドと徹底した就活サポート    | 86.4%                   |

新規アンケートにおいては、「Q3.進路希望」、「Q4.興味のある学問分野」、「Q6.受験意向」、「Q7.入学意向」、4つの設問における強い意向層でのクロス集計の結果、103人の入学意向者が確認できたが、この値の有効回答数 9,016 枚に対する割合は 1.14%となる。「学生の確保等の見直しを記載した書類」巻末に添付した資料 1.にて示している令和 14 年度の北海道内の 18 歳人口（女）の推計値は 17,920 人であり、この推計値に 1.14%を乗じることで得た 204 人は入学意向者の将来推計となる。このことは、長期的かつ安定的に入学定員に対応する入学見込み者が存在することの客観的な根拠となることから、本学の学生確保の見通しはあると判断できる。

エ) 前回アンケートと新規アンケートにおける入学意向者数の違いについて

結果、前回アンケートと比較し新規アンケートにおいては、入学意向者数は大きく増加したことが確認された。この差異が生じた要因としては次の 2 つがあると分析している。

#### ① 教育内容の理解促進のための工夫

旧リーフレットについては、新設の理由や本学の特色をシンプルに明示することに努めたが、教育内容や養成する人物像についての説明が弱かった。新リーフレットについては、就職先として視野に入れる企業・業界人からのこれからの時代に必要とされる力を掲載し、それに対応した本学の教育内容についての説明を盛り込んだ。

また、令和4年10月の認可申請以降、申請中であることを明確にした上で、PR活動を実施しているが、高校教員を対象としたオンライン説明会、ランディングページの開設、進学相談会・高校訪問における生徒や高校教員への直接の説明など、教育内容の理解を伝えるための広報の幅を広げてきた。これら全てのPR活動においては、丁寧に教育内容を伝えることを重視しており、このことにより本学への理解が大きく促進されたと実感している。

さらには、新規アンケートを実施したことにより、計2回アンケートを募集エリアである北海道全域において実施したことになるが、このことも教育内容の理解促進に有効であったと分析している。

## ② 高校生の進路意識の醸成

「進学センサス2022」(リクルート)によると、「高校2年生10月～12月」以降に最終的な入学校を受験校として決めた高校生の割合が79.1%となっており、およそ8割の学生は前回アンケート実施時期の7月以降に受験校を決めている様子である。前回アンケートの実施時期の7月以降、高校生の進路意識の醸成が進んだ可能性がある。生徒の進路意識の醸成が進行する中で、本学のPR活動が本格化してきたこともあり、本学への進学意向を持つ生徒が増加したと分析している。

## IX. 「既設短期大学の学生確保の状況」

### ア) 既設の短期大学における近年の入試状況

本学経営学部の母体である北海道武蔵女子短期大学経済学科における入学者数は、入学定員80人に対して平成29年度・平成30年度は定員充足しているものの令和元年度以降入学定員を下回っており、直近6年間の平均入学者数は69人である。一方、志願者数は入学定員80人を下回ることなく、志願倍率1.34倍から2.83倍の数値を記録しており、平均で2.05倍と入学定員を上回る志願者数を確保してきた。また、同一学科内の併願を除いた実数値においても志願者・合格者ともに入学定員を上回ってきた。

### イ) 既設の短期大学の入学状況を加味した学生確保の見通し

本学経営学部の母体である北海道武蔵女子短期大学経済学科においては、令和元年度から令和4年度にかけて入学定員が充足していない。

入学定員が充足していない要因として、次の二つを分析している。一つは、短期大学を志願する生徒数（量的面）の減少である。日本私立学校振興・共済事業団「令和3年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、全国の短期大学の志願者数は、平成元年度 692,196 人から令和3年度 60,363 人へと1割以下になっている。特に令和3年度、全国の短期大学の志願者数は、令和2年度 70,016 人より約1万人の13.7%減少しており、短期大学全体における学生募集は厳しさを増している。この背景には、修学支援制度により本来であれば経済的理由により短期大学を選択せざるを得なかった生徒が4年制大学に進学できる社会環境になったこともあるだろう。その学科名称より、4年制大学と競合する短期大学経済学科においては、顕著に入学状況が悪化してきた。一方で、全国の大学志願者数は、平成元年度 3,508,867 人から令和3年度 3,834,862 人へと9.2%程度増加している。このことは、量的面だけでなく優秀な生徒が大学を志向するようになったことにより、短大を志望する生徒の質的面の低下をも招いていると分析している。

二つは、入学試験のハードルを一定に保つという本学の方針において、入学定員を上回る学力を有する生徒数（質的面）が不足していたことである。本学の入学者選抜は、志願者数が少ない年度においても、例年の得点率等を守りながら、入学生の質や教育の質を維持することで社会からの信頼に応えることを大切にしてきた。このことは、高校や生徒に浸透しており、実際、令和4年度入試における指定校推薦入学者191人の評定平均値の平均は4.34に達する。また、指定校推薦の出願資格についても評定平均値3.8以上（一部進学校については3.3または3.6以上としている）と定め、短期大学でありながら偏差値上位の北海道内社会科学系4年制私立大学よりも高い設定を行っている。

しかし、下記の志願者数の増加（量的面）に加え、志願者層がより学習意欲・目標意識が高くなること（質的面）が見込まれるため、北海道武蔵女子大学における学生確保の見通しが立つと考えている。

#### ① 大学では短期大学と比較してより志願者を確保しやすい点（量的面）

令和2年度から令和4年度における短期大学経済学科の志願倍率が平均1.65倍に対して、北海道武蔵女子大学の競合校として定めた北海道内札幌市近郊の計6大学7学部の令和2年度から令和4年度における志願倍率は平均4.57倍である。

また、日本私立学校振興・共済事業団「令和3年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、令和2年度から令和3年度における全国の短期大学の志願倍率は平均1.23倍に対して、全国の大学における令和2年度から令和3年度の全国の大学の志願倍率は平均8.32倍であることから短期大学と比較して大学では志願者数をより確保しやすい環境にあり、志願者の量的拡大が見込まれると考えている。

② 経済学科は高校生・社会のニーズへの対応が不十分であった点（量的面）

短期大学経済学科では、大学ユニバーサル段階における多様な学生の入学に対して、また、人口減少社会や経済のグローバル化、情報技術の発展等を背景とする社会の変化に対して、カリキュラムを変更し、高校生や社会のニーズに対応することが不十分だったと分析している。

大学設置の際には、高校や事業所へのヒアリングなども通じて、高校生や社会のニーズを把握し、そのニーズに応えるカリキュラムとした。たとえば、高校生のニーズへの対応としては、母体となる短期大学経済学科の学生にも好評だった企業研究プログラム（学内にてビジネスマナー等を学習した後、企業において就業体験実習を行い、さらに事後学習としてキャリア形成やオフィスワークについて学ぶ単位化された正課科目）を進化させたPBLの導入。社会のニーズへの対応としては、デザイナーの手法や思考の方法をブランド構築やイノベーション創出、マーケティング等に活かすことで、事業所における競争力向上に役立たせるデザイン思考の導入等である。

大学においては、高校生や社会のニーズに敏感となり、常に先を進む教育内容やカリキュラムとしていくことで、志願者の量的拡大が見込まれると考えている。

③ 大学となることで志願者層が変化する点（質的面）

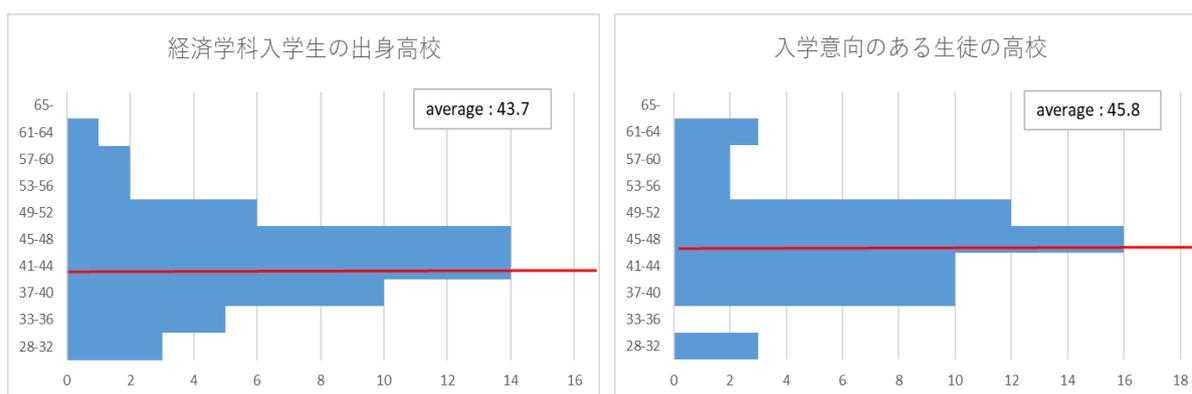
短期大学と大学では、以下のような志願者層の違いがあると分析した。

|      |  |
|------|--|
| 短期大学 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年で卒業できることから、より早期から就職する意欲が高い層が志望する。</li> </ul>   |
| 大 学  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期大学と比較して志願倍率が高いことから、より高い学習意欲を持つ層が志望する。</li> <li>・社会で活躍することを重視し、ビジネスパーソンとしてもより高い目標を掲げる層が志望する。</li> </ul> |

志願者層の違いからも、大学における志願層は短期大学と比較して、より学習意欲・目標意識が高い層が増加することが想定されるため、本学が定める入学者選抜の基準を満たす生徒も多く志願することが考えられる。

④ 短期大学と比較して高い学力層が志願してくる点（質的面）

既設の短期大学の令和4年度経済学科入学生の出身高校と2022年7月に実施した前回アンケートにおいて合計5重のクロス集計を行った59人の入学意向のある生徒の高校との偏差値帯の比較は、下図ヒストグラムのとおりである。経済学科入学生の出身高校の偏差値帯は43.7であるのに対し、入学意向のある生徒の高校の偏差値帯では45.8となる。このことより、既設の短期大学に比べ大学においては、本学の入学者選抜の基準を満たすことができる学習意欲・目標意識が高い層へと志願者層が変化することで質的拡大が期待できることが考えられる。



上記4項目から、志願者数の量的拡大および質的拡大を図ることで、北海道武蔵女子大学における学生確保の見通しが立つと考えている。

【資料3.】「英文学科および経済学科の志願動向推移と全国の短期大学の志願動向推移」

X. 「中長期的な志願者確保の見通し」

マイナビ進学総合研究所の「高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査」における「志望校選びの際重視するポイント（進路分野別）」によると、経済・経営・商学分野を志望する生徒は、“知名度が高い（45.4%）”に次いで“就職率の高さ（28.6%）”を志望校選びの際重視しているポイントとしていることが分かる。“就職

率の高さ”を志望校選びの際重視するポイントとするのは、工学建築分野を志望する生徒が28.7%最も高く、次いで経済・経営・商学分野の生徒となる。

統合イノベーション戦略推進会議の「AI戦略2022」によると、大規模災害等の差し迫った危機への対処、企業を念頭とした社会実装の推進に向けて、「すべてにAI」を目指した着実な取組を進めるとしている。また、「我が国が、世界で最もAI時代に対応した人材の育成を行い、(後略)」とし、AI人材に対応した人材とは単一ではなく、最先端のAI研究を行う人材をはじめ、AIを産業に応用する人材、AIを利用して新たなビジネスやクリエイションを行う人材などのカテゴリーに別れ、各々のカテゴリーでの層の厚い人材が必要となると記している。

翻って、独立行政法人情報処理推進機構の「DX白書2021」によると、約9割の国内事業者が「IT人材が質量ともに不足している」と回答していることから、全国的なIT人材の不足は我が国の課題であり、本学の養成する人材はソリューションとして、その需要が高まると考えられる。このことから、新設する大学の教育課程で意識されている「情報」の知識・技能等を持つ学生は、広く企業から求められ就職面でも優位になることが想定される。

既設の短期大学は「就職の武蔵」と呼ばれ、進路指導の手厚さと優良企業への就職者が多いことで知られている。実際、卒業時アンケートにおける「本学に対して良いと思った点(大学全体)」という質問においては、「就職に有利・就職支援が充実している」との回答が卒業生全体の42.3%と最も高くなっている。北海道武蔵女子大学経営学部においても、同様の回答を得ることが出来るよう、本学の強みであるキャリア教育や就職支援を強化することで、将来的な学生確保の見通しは明るいと考えている。

本学の養成する人材像は、今後の社会の人材需要に合致していることから、新設する大学の教育課程で意識されている「情報」の知識・技能等を持つ学生は、就職面で優位になるとともに、本学の既存の就職面での強みを継続・発展させることにより「就職率の高さ」という高校生の志望校選びの際重視するポイントに一致することになると考えられる。このことから、経済・経営・商学分野を志望する生徒が本学を選択する可能性は高く、本学は中長期的にも学生を確保できると考えている。

## ⑤ 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

学生確保に向けた広報活動については図 7 のとおり計画しており、計画の一部については既に実行中である。既に実行している活動においては、「設置構想中」であることを印刷物等に明記している。設置認可申請後については、「設置認可申請中」を明記の上、受験生や社会に誤解が生じないように留意し、鋭意広報活動を行っていく。また、開学後の中長期的な広報活動についても以下に記す。

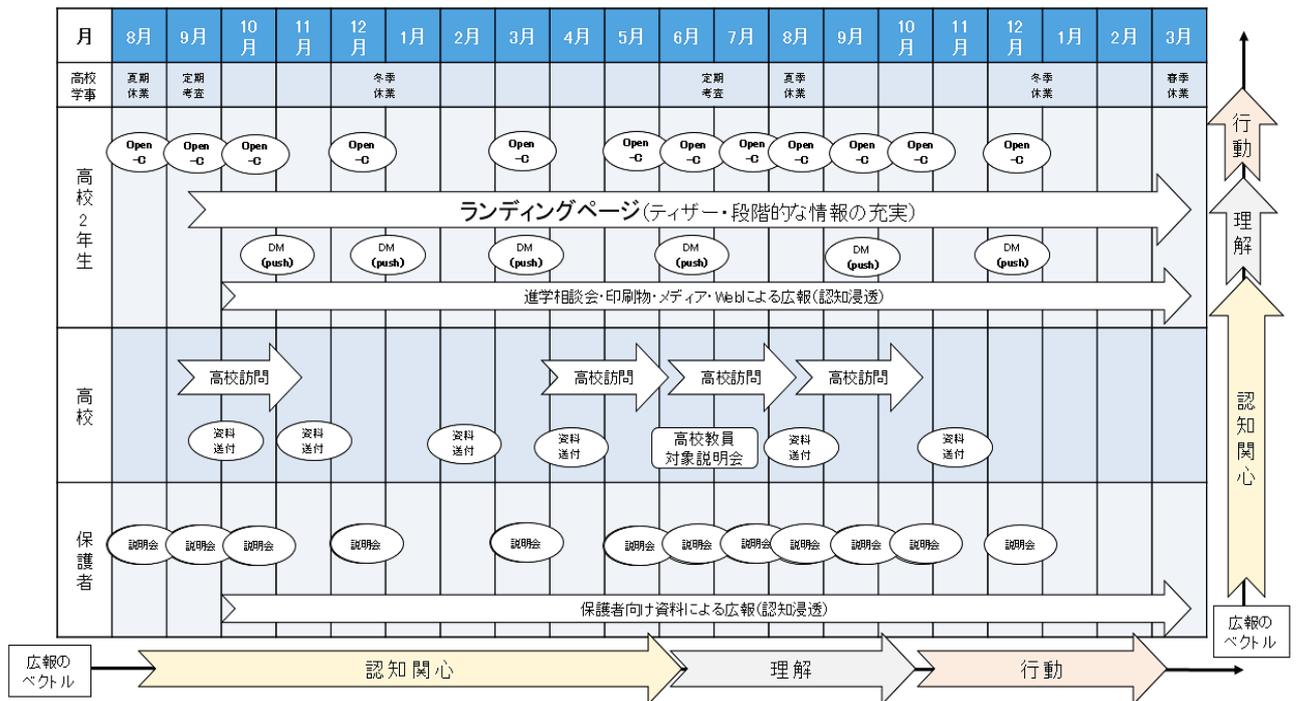


図 7 学生確保に向けた広報活動計画

### ア) 「学生確保に向けた広報活動計画」

#### 1) オープンキャンパス

令和 4 年度はオープンキャンパスを年 9 回実施している。令和 5 年度においても、このペースで実施することを予定している。既設の北海道武蔵女子短期大学のオープンキャンパスは、学生スタッフが中心となり企画し、参加者と学生とのコミュニケーションを大切にしている。この結果、学生のマナーや立ち居振る舞い、研究内容発表等に憧れて入学する者が多く、オープンキャンパス参加者の志願率は 6 割程度となっている。このことから、経営学部についてもオープンキャンパスへの参加者数を増やすことが志願者の確保に繋がり、延いては学生確保のための重要課題になると考えている。

主なプログラムとしては、「学部紹介」、「ゼミ体験」、「個別相談会」、「キャンパスライフ紹介」、「保護者向け説明会」、「進路・就職説明会」を計画中である。特に、「進路・就職説明会」においては、想定される就職先や本学の学びがどのように職業に活かされるか、「就職の武蔵」と称されてきた就職支援の強みを訴求していく。

これらにより生徒の本学受験の行動を促していくと同時に、オープンキャンパスに参加してもらうことで、校風や学びの内容、就職活動や学生生活等、本学への理解が深耕され、入学後のミスマッチを解消できるとも考えている。

## 2) ランディングページ

令和4年10月の開設を目途に、現在、経営学部のランディングページを制作中である。ランディングページとは、経営学部の紹介を1ページで完結させたWebページであり、離脱者が少ない、理解や行動を促せる順番で情報を伝えることが出来るというメリットがある。また、開学まで3回程度の段階的な情報の充実を図り、ティザー効果を狙うことで認知関心を高め、最終的には本学の特色溢れる経営学部の理解、オープンキャンパスへの参加に繋がる内容とする。

## 3) DM (ダイレクトメール)

進学相談会や印刷物、メディアやWebによる広報活動より得た資料請求者に対して、DMを利用した直接的なアプローチを開学まで6回程度実施していくことを計画している。内容は、ランディングページ案内、学部情報、オープンキャンパス案内等とし、経営学部の認知度を高め、競合校との差別化を狙っていく。

## 4) 進学相談会・メディア・Webによる広報

令和4年度は、北海道内で行われる進学相談会に110回参加する計画である。令和5年度は、北海道内で行われる進学相談会に加えて、東北・関東で行われる進学相談会にも参加を検討している。また、新型コロナウイルス感染症の影響等に左右されない相談環境としてオンラインによる個別相談体制も構築する。進学相談会等を担当する者は、教員・入試広報課職員に加えて、総務課や学務課等の入試業務以外の職員とする。これにより本学全教職員が、高校生のニーズを把握し、各担当における業務改善に役立たせる。メディアについては、令和5年5月に新聞広告やテレビCMの広報を実施予定である。Webによる広報としては、令和5年5月にホームページのリニューアルを実施

し、経営学部の認知関心・理解を促進していく計画としている。これらの広報においては、「母体となる北海道武蔵女子学園は50年以上、女子教育を行ってきた実績があり、「就職の武蔵」と形容されてきた」ことを訴求することで高校生に安心感と本学の伝統を伝搬する。また、従来の経営学科ではなく、購買動機の心理的影響等、人の心とビジネスの関係についても学ぶことが出来ること、デザイン、ICT、情報等の学びも可能であり、Web・ポスターなどの情報デザインや今後社会で必要となるデータの収集分析についても学ぶことができるという本学の特色を明確に伝搬する。

#### 5) 高校訪問

令和5年4月、6月、9月の年3回、事務職員による高校訪問を実施する。訪問する高校数は、札幌市内・近郊の69校及びその他北海道内143校、合計212校である。原則、212校全ての高校の進路担当教員と3回面談することになる。認可前には、経営学部の学びの特徴等を説明し、認可後には大学案内パンフレットやオープンキャンパスの案内等を持参しながら入試説明についてもきめ細やかに行っていく。

#### 6) 高校への資料送付

高校訪問時の持参資料とは別に、オープンキャンパス開催3週間前を目途として、案内資料を送付することで、高校への丁寧かつ積極的な対応を行っていく。また、オープンキャンパス案内資料だけでなく、就職支援関連資料や広報誌等を制作した際には、随時高校へ送付することで、本学の最新情報の提供を行っていく。これらにより、高校教員よりマッチング可能な生徒に対して、本学の情報提供を行っていただけるような信頼関係を構築していく。

#### 7) 高校教員対象説明会

令和5年6月、高校の進路指導担当教員を対象に、本学において高校教員対象説明会を実施する計画である。実施体制としては全学で取り組むこととし、学長による本学の教育の説明、教員による学生支援体制の説明、入試広報課職員による入試制度説明、就職課職員による進路支援説明等を計画している。特に進路支援説明においては、企業が学生に求める視点や本学の学問領域における就職の優位性等を伝えていく。また、ラーニングコモンズや情報処理教室、アクティブラーニング室等の学内施設見学を入試広報課職員が実施する。さらには、学生との語らいや教員による個別相談を実施することで、

参加いただく教員の欲する情報をきめ細かく伝えていく。

#### 8) 保護者対象説明会

オープンキャンパスと同時開催にて保護者対象説明会を実施する。説明者は保護者と同年齢程度のベテラン教職員として親和性や安心感を訴求する。内容としては、学園の沿革、学部での学び、学生支援体制、進路支援体制、想定される進路、学費の納付方法や納付猶予制度、奨学金制度、学費等資金調達情報等である。保護者より生徒に対し、本学の情報提供を行っていただけるような信頼関係を構築していく。

#### 9) 保護者向け資料による広報

高校生より資料請求があったタイミングで、その保護者に対して別便で保護者向け資料を送付する。保護者向け資料の内容は、卒業生インタビュー（父と娘の武蔵・姉妹で武蔵）、企業インタビュー（企業と武蔵）、キャリアサポート、武蔵生から父母への感謝のメッセージ等を予定している。保護者との信頼関係構築と同時に高校生の認知関心を高めることを目指していく。

#### イ) 「開学後の中長期的な広報活動計画」

##### 1) 小学校から高校までを対象とした出前講座

通年にわたり教員が小学校から中学校、高等学校を訪問し、専門分野に関する講義を行う。小中学生から高校生、教員に対し、経営・経済・商学系学問分野への興味関心や本学への理解を浸透させる。

##### 2) 地域住民等を対象とした公開講座

学生の夏季休業中、地域住民等広く対象者を設定し、本学での対面形式およびオンライン形式での公開講座を実施する。内容は、教員の研究成果の発表やタイムリーな時事等の講座とする。本学で実施する対面形式での公開講座については、アクティブラーニングを用いた手法にて実施し、学生が能動的に学ぶための本学の教育手法についても体験していただき、その有効性を理解していただくものとする。

##### 3) 研究成果の公表と還元

教員の研究成果については、リポジトリおよび紙媒体の紀要の発行により、広く社会に公表していく。また、研究支援部門においては、これら研究成果を基にした外部との

共同研究、受託研究、本学と行政機関・企業・NPO法人等との共同研究プロジェクトを構築していく。

#### 4) 北海道における女性経営人材育成事業

現役の社会人等を対象として、経営学における財務・組織・マーケティング・戦略に関わる内容を主軸とし、また、これら内容を実際のビジネスの場面において統合して考え、実行することの出来る、北海道における女性経営人材を育成する講座等の実施を計画している。本事業については履修証明プログラムとしての実施も検討していく。

#### ウ)「既設の北海道武蔵女子短期大学における収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科の要因分析および今後の取り組み」

既設の北海道武蔵短期大学の学科の内、収容定員充足率が 0.7 倍未満となっている英文学科および経済学科の志願動向推移と全国の短期大学の志願動向推移は【資料 3】のとおりである。

過去 6 年間の志願者数の推移を見ると、令和 29 年度の志願者数を 100 とした令和 4 年度の志願者数の趨勢は、英文学科 57.5%減、経済学科 42.0%減となっている。また、全国の短期大学の志願者数の推移を見ると、令和 29 年度の志願者数を 100 とした令和 3 年度の志願者数の趨勢は 22.9%減となっている。

しかしながら、本学の志願倍率の平均を見ると、英文学科 1.61 倍、経済学科 2.05 倍となっており、全国の短期大学の志願倍率の平均 1.28 倍と比較すると 0.33 から 0.77 倍高くなっている。加えて、前述の通り本学の入学者選抜は、志願者数が少ない年度においても、例年の得点率等を守りながら、入学生の質や教育の質を維持することで社会からの信頼に応えることを大切にしてきた。このことは、高校や生徒に浸透しており、実際、令和 4 年度入試における指定校推薦入学者 191 人の評定平均値の平均は 4.34 に達する。また、指定校推薦の出願資格についても評定平均値 3.8 以上（一部進学校については 3.3 または 3.6 以上としている）と定め、短期大学でありながら偏差値上位の北海道内社会科学系 4 年制私立大学よりも高い設定を行っている。

令和 3 年度の志願者数の増減率については、本学英文学科・経済学科および全国の短期大学において、それぞれ▲21.3%、▲31.8%、▲13.7%と厳しい年度となった。令和 3 年度入試において高校生等は、新型コロナウイルス感染症の影響により、4 年制大学に流出した可能性があるとして分析している。特に英文学科については、【資料 4】「航空業界への就職者数」を訴求してきたこともあり、志願者数に与える影響は大き

かった。しかしながら、育成に時間がかかるパイロットなどの一部を除いて新卒の採用活動を見送っていた日本航空など JAL グループ各社は、新卒の採用を 3 年ぶりに再開するという発表を行った。このことを受け、本学独自の航空業界就職対策講座を強化し、本年度、既に 8 人が同業界への内定を取得している。同時に、航空業界への就職に強いという本学の強みをホームページ等で広報している。

また、令和 3 年度の志願者数については、感染収束の見通しが立たない中、早期に出願が開始される総合型選抜を実施している大学等に流出した可能性が高いこと、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスや高校訪問の実施が十分に出来なかったことも大きかったと分析している。本学では、これらの影響は早急に回避できないと考え、令和 4 年度より英文学科の入学定員を 120 人から 100 人へと減ずる届出を行ったところであり、定員設定の合理性に問題はない。経済学科においては、この度の認可申請による 4 年制大学の母体として発展的改組とする。

なお、上述した志願者数減となる要因に対する施策として、令和 4 年度より次に掲げる事項を実施していく。

#### 1) 入試制度改革

令和 5 年度入試より、総合型選抜として、キャリア教育強化型入試、探究型入試を導入する。なお、昨年度までの入試制度は、学校推薦型（指定校制）選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、以上 3 つの入試区分を設定しており、一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜については、それぞれ前期日程と後期日程を設けている。新たに追加する総合型選抜は、オープンキャンパスにおけるゼミの受講および個別相談への参加を出願要件とし、書類審査と時間をかけた面接等を組み合わせ、志願者の学力の 3 要素や学びへの意欲、目的を総合的に判定していくこととしており、高校訪問の際に進路指導担当教員からの意見聴取や実施予告を行ってきた。多様な力を持った入学生確保のため、また、高等学校教育と本学の教育を接続する、教育の一環としての機能を持たせることを目的としている。

#### 2) ホームページの刷新

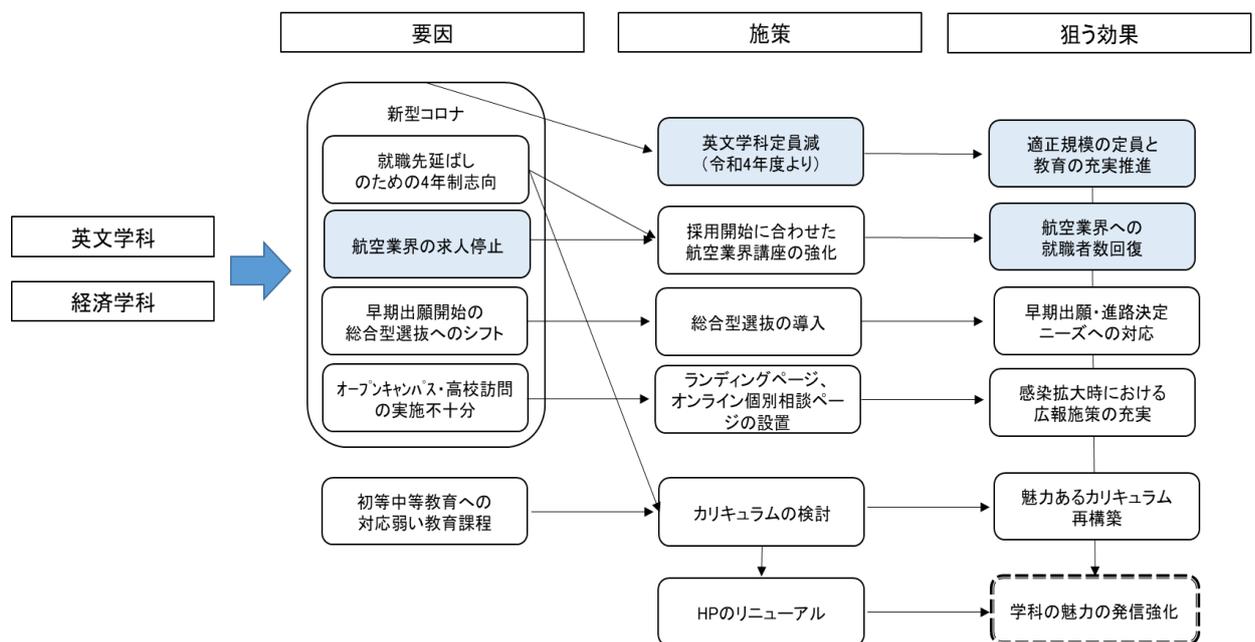
現状のホームページは、閲覧者がアクセスしたい情報にたどり着きにくい、スマートフォンでの閲覧に特化したためパソコンやタブレットからの視認・操作性が悪い、高校生が本学に入学した際の学生生活や自身を重ね合わせる事が出来る将来像のイ

メージを持てるような卒業生情報が不足している等の課題がある。これらの課題を解決するため、高校生の視点を少しでも持てるよう総務課若手職員が中心となりながら、高度情報技術を有する職員も加わり、既にオープンキャンパス広報用のランディングページおよびオンライン個別相談ページの公開を行っている。また、令和4年度秋のホームページ全面リニューアルオープンに向けて、現在、鋭意作成中である。

### 3) カリキュラムの検討

英文学科および経済学科においては、急速に変化する初等中等教育における情報教育に対応するカリキュラムになっていなかったことも志願者数減少の背景にある可能性があると考えている。現在、教職員9人から成るカリキュラム検討委員会を設け、情報教育の強化や進路先を意識した科目の配列等、高校生等に英文学科・経済学科の魅力をもっと伝えることが出来る教育内容とするため検討中である。

上述のとおり説明してきた英文学科および経済学科の定員未充足の要因と回復のための施策・狙う効果をまとめると図8のとおりとなる。



※ [Blue box] は、英文学科に対応する事項を示す。

図8 英文学科および経済学科の定員未充足の要因と回復施策・狙う効果

【資料3.】「英文学科および経済学科の志願動向推移と全国の短期大学の志願動向推移」

【資料4.】「航空業界への就職者数」

## ⑥ 3年次編入学に係る学生確保の見通し

平成29年度から令和3年度における既設短期大学の編入学の状況は【資料6.】のとおりであり、5か年平均による受験者数は12.4人、進学者数は8.2人と継続的な編入学の実績がある。

しかしながら、既設短期大学における編入学者の多くが経営学部のような社会科学系学部に進学しているわけではない。そこで経営系の他大学編入学生（平均2人）だけでなく、心理系や英文系を含む人文系志望の他大学編入学生（平均6人）を含めた平均8人の内、5人程度の既設短期大学の学生が新設経営学部への編入を希望する対策（「内部進学を促進するための対策」）として4つを示す。

加えて、編入学定員の確保をより確実なものとするために、内部からの進学者に加え、他の短期大学・専修学校に在籍している編入学希望者にも進学のを広くPRし、学生確保へと繋げる。具体的には「既設短期大学の卒業生への対策」、「既設短期大学の広報活動における対策」、「北海道内の短期大学への広報」、「北海道内の専修学校への広報」以上4つの対策を講じていく。都合8つの対策を講じることで、3年次編入学の定員5人の長期的かつ安定的な学生確保を図ることができる。

【資料6.】「北海道武蔵女子短期大学 編入学実績」

### ア) 「内部進学を促進するための対策」

**対策1)** 編入学生確保の方策として、既設短期大学からの内部進学となる編入学生の受け入れを見据え、既設の短期大学から新設となる経営学部へ接続しやすくなるよう、令和6年4月より既設短大のカリキュラムの刷新を行うことで、他大学の経営系学部へ編入している学生の本学への編入を促す。現行の平均2人から平均3人の本学への編入を見込む。

具体的には、教養学科と英文学科の2学科の基礎教養科目に「経営学」を必修科目として配置する。そして、経営・経済系の発展科目として、既設の経済系科目群に加え、「経営戦略論」「消費者行動論」「会計学」「現代ファイナンス論」「国際経済」などの科目を新規に配置する。また経営学部における情報・デザイン系の科目の基礎科目となる「プログラミング入門（経営学部の科目名は「データエンジニアリング入門」）」「ウェブデザイン入門」の配置を検討している。

**対策 2)** 既設短期大学の教養学科から心理学系学部への編入を希望する学生に新設大学で心理学系の学びを深めることができることを伝え、本学への編入を促す。経営学部では、教養学科での心理学の学びを発展させる専門発展科目として「社会心理学」「心理学研究法」が配置され、より高度な心理学の学びができるだけでなく、3・4年次には産業心理学と社会心理学の専門ゼミナールが配置され、ビジネスと心理学をあわせて学ぶことで心理系の学びを深めることができる。最低1人の編入を見込む。

**対策 3)** 既設短期大学の英文学科から編入を希望する学生の中には英語とビジネスをバランス良く学びたい層がいるため、新設大学では英語を活かした国際ビジネスの学びを深めることができることを伝え、本学への編入を促す。経営学部では、国際・語学系と経営学系を接続した科目（「ビジネス英語Ⅰ」「ビジネス英語Ⅱ」「International business for women in English」「ビジネス英語海外研修A」「ビジネス英語海外研修B」など）を配置するとともに、国際文化と経営学の間領域の「グローバル・スタディーズ」をテーマとした専門ゼミナールを配置する。これにより、国際・英語系の学びをより深めることができる。最低1人の編入を見込む。

**対策 4)** 既設短期大学生の新設大学への編入サポート体制を整備する。現行の編入学のためのサポート体制としては、入学後の4月から編入希望調査や相談を開始し、5月から6月には編入学説明会や編入学試験小論文・英語対策講座、7月には卒業生による編入学アドバイス等を実施している。2年次学生には、上記のサポートに加え個人面談も実施している。学内には編入学資料室を設け、いつでも学生が編入学関連の資料を閲覧したり、受験勉強を行ったりすることが出来る。また、編入学対策検討委員会を設置しており、所属する2人の専任教員が学生指導にあたっている。

新設大学への編入サポートとして新たに導入する取組みは、新設4年制大学の授業見学や研究室訪問である。開学後は、短大と施設を共用することから、教員・学生同士の活発な交流が行われることが予想されるため、一層、既設短期大学学生が自身の編入学後のイメージを掴みやすくなる。

#### イ)「既設短期大学の卒業生への対策」

**対策 5)** 卒業生を編入学学生確保のターゲットにする。20,000人を超える既設短期大学卒業生を対象とした社会人特別編入学試験を設けることを計画しており、短大卒業生

の学び直しを支援していく。当該特別試験の周知については、同窓会とも連携し実施していく。

#### ウ)「既設短期大学の広報活動における対策」

**対策 6)** 既設短期大学の広報活動において高校生に対し、短大入学後に 4 年制大学で学びを深めたいと考えた場合には、本学経営学部への編入学の道が開かれていることを伝えていくことで、内部進学者となり得る学生層を拡大していく。

高校生の中には、社会へ出ることへの不安を 2 年間で解消できるか不安を抱え、短大を進学先として選択しない者も一定数いることが推察される。また、学びの経験や年齢と共に進路希望は多様化するのが当然である。今後の既設短期大学の学生募集においては、経営学部への内部進学という複線が用意されており、進路選択においては就職のみならず新設大学において専門性の深化や高度なスキルを養うことも出来るという選択肢を提示していく。これにより、内部進学者となり得る学生層を拡大し、経営学部編入学定員の充足をより確実なものにする。

#### エ)「北海道内の短期大学への広報」

**対策 7)** 北海道内の短期大学をターゲットとし、編入学者募集のための広報活動を実施していく。本対策を検討するにあたり、先ず全国および募集地域となる北海道・札幌市の短期大学卒業者における編入学者の状況を確認した(表 17)。なお、進学者数は、学部への編入学者数と完全に一致する値ではないが近似値として分析に用いている。

全国の進学者数は減少傾向にあるが、卒業者数を進学者数で除した進学率は上昇傾向にあり、北海道および札幌市の進学率よりも高くなっていることから、今後についても全国的に安定的な編入学希望者が存在する可能性がある。他方、北海道および札幌市においては、進学者数・進学率ともに上昇傾向にあり、過去 5 年間における進学者数の平均は北海道で 126 人、札幌市で 56 人となっている。札幌市の進学率は北海道よりも低いものの、北海道内における札幌市の進学者数の構成比率は 44%であるため、本学が立地する札幌市については編入学募集のための重点的な広報活動エリアとなる。

次に、札幌市における進学者が卒業した学科の学問分野を確認した(表 18)。人文が最も多く進学者を輩出しているが、札幌市における人文系学科を有する大学は 2 校であり、内 1 校は本学既設短期大学、内 1 校は競合する短期大学となる。競合する短期大学

のホームページより編入学試験合格実績（表 19）を確認すると、経営・経済系学科への合格者が計 15 人いることから、本学経営学部への編入学の需要はあると判断できる。

北海道内の短期大学をターゲットとした広報活動としては、現在進行中である「札幌市と大学・短期大学間の連携体制構築」において、たとえば本学経営学部の授業を連携大学における共同授業として実施することで、北海道内の短期大学生に広く本学を認知させたいと考えている。また、上記のネットワークを通じた広報活動のための短期大学訪問や、外部進学者を対象とした編入学説明会の開催も検討していく。

表 17 全国・北海道・札幌市 短期大学卒業生における進学者数等（女）

| 年度          |      | H29 年度 | H30 年度 | R1 年度  | R2 年度  | R3 年度  |
|-------------|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 全<br>国      | 進学者数 | 3,776  | 3,658  | 3,303  | 3,363  | 3,459  |
|             | 卒業者数 | 50,975 | 49,121 | 47,437 | 44,878 | 41,804 |
|             | 進学率  | 7.4%   | 7.4%   | 7.0%   | 7.5%   | 8.3%   |
| 北<br>海<br>道 | 進学者数 | 108    | 103    | 138    | 143    | 138    |
|             | 卒業者数 | 2,047  | 1,966  | 1,972  | 1,887  | 1,698  |
|             | 進学率  | 5.3%   | 5.2%   | 7.0%   | 7.6%   | 8.1%   |
| 札<br>幌<br>市 | 進学者数 | 58     | 45     | 64     | 53     | 64     |
|             | 卒業者数 | 1,224  | 1,201  | 1,157  | 1,101  | 999    |
|             | 進学率  | 4.7%   | 3.7%   | 5.5%   | 4.8%   | 6.4%   |

出典：学校基本調査

表 18 札幌市における進学者（女）が卒業した学科の学問分野

| 年度  |     | H29 年度 | H30 年度 | R1 年度 | R2 年度 | R3 年度 |
|---|-----|--------|--------|-------|-------|-------|
| 進学者数                                      |     | 58     | 45     | 64    | 53    | 64    |
| 卒<br>業<br>し<br>た<br>学<br>科<br>の<br>分<br>野 | 人文  | 42     | 25     | 29    | 28    | 33    |
|   | 社会  | 3      | 2      | 1     | 1     | 3     |
|   | 教養  | 1      | 1      | 2     | 2     | 3     |
|   | 工業  | 0      | 0      | 1     | 0     | 0     |
|   | 家政  | 7      | 8      | 15    | 14    | 11    |
|   | 教育  | 5      | 7      | 14    | 7     | 13    |
|   | その他 | 0      | 2      | 2     | 1     | 1     |

出典：学校基本調査

表 19 札幌市の他短期大学人文系学科の編入学試験合格実績

|                     |      |
|---------------------|------|
| 文学部英文学科             | 21 人 |
| 文学部心理・応用コミュニケーション学科 | 10 人 |
| 経済学部経済学科            | 5 人  |
| 経済学部経営情報学科          | 5 人  |
| 経済学部経済法学科           | 5 人  |
| 社会福祉学部福祉計画学科        | 1 人  |
| 社会福祉学部福祉臨床学科        | 1 人  |
| 社会福祉学部福祉心理学科        | 2 人  |

オ)「北海道内の専修学校への広報」

**対策 8)** 北海道内の専修学校についても、編入学者募集のための広報活動を実施していく。学校基本調査によると、令和 3 年度、全国の専修学校からの大学学部への編入学者数（女）は 821 人であり、全国の専修学校卒業者数（女）は 136,635 人であることから、編入学率（女）は 0.6%であることが分かる。一方、令和 3 年度の北海道内の専修学校卒業者数（女）は 6,027 人であることから、北海道の専修学校からの大学学部編入学者数（女）は、36 人程度存在する可能性がある。特に、本学経営学部と親和性の高い商業実務関係分野を学ぶ女子生徒は、専修学校卒業者数の 16.7%を占める 1,009 人が存在しており、編入学生の募集における重点的なターゲットとなる（表 20）。

募集については、商業実務関係分野に属する専修学校への訪問や募集要項の送付、オープンキャンパスにおける模擬授業に誘導することで専修学校と経営学部の学びの違いを確認してもらう、外部進学者を対象とした編入学説明会において 4 年制大学の進路・就職先の多様性を伝達すること等を検討していく。

表 20 令和 3 年度 北海道の専修学校（専門課程）における分野別卒業者数

| 分 野           | 卒業者数         |            |              | 分野別構成比<br>(女) |
|---------------|--------------|------------|--------------|---------------|
|               | 計            | 男          | 女            |               |
| 工業関係          | 1,389        | 1,207      | 182          | 3.0%          |
| 農業関係          | 97           | 81         | 16           | 0.3%          |
| 医療関係          | 2,949        | 726        | 2,223        | 36.9%         |
| 衛生関係          | 1,421        | 430        | 991          | 16.4%         |
| 教育・社会福祉関係     | 711          | 143        | 568          | 9.4%          |
| <b>商業実務関係</b> | <b>1,228</b> | <b>219</b> | <b>1,009</b> | <b>16.7%</b>  |

|         |       |       |              |       |
|---------|-------|-------|--------------|-------|
| 服飾・家政関係 | 117   | 35    | 82           | 1.4%  |
| 文化・教養関係 | 1,950 | 994   | 956          | 15.9% |
| 総 数     | 9,862 | 3,835 | <b>6,027</b> | —     |

出典：学校基本調査

「内部進学を促進するための対策」により、既設短期大学からの編入学生を 5 人程度確保し、その他の対策によりプラスアルファで編入学生の確保が期待できる。仮にその他の対策による編入学生の確保が出来なかった場合でも 5 人程度の編入学生の確保が期待できるため、長期的かつ安定的に学生確保が図ることができる。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

#### ア) 北海道武蔵女子大学の教育研究上の目的

北海道武蔵女子大学の教育研究上の目的は、「予測が難しい環境においても、現代的な知を共有し、豊かな想像力、構想力、実践力を持ち、多様な価値観や視点を持つ人々と対話・連帯する力で社会を明るくする人材を養成することを目的とする」である。

#### イ) 北海道武蔵女子大学の養成する人材像

北海道武蔵女子大学の養成する人材像は、「豊かな想像力、構想力をもって課題を発見・解決する能力を有し、他者の価値観や視点を理解し、対話・連帯することで協働を促進し、グローバル展開する高度情報社会に対応した知識・技能と経営に関する専門的な知識とビジネスを企画・実践する能力を有した人材」である。

#### ウ) 北海道武蔵女子大学経営学部の特徴

##### 1) 本学のリーダーシップ教育

今後は、社会に進出し、活躍できる女性が社会から求められており、周囲と連帯しながら、基幹的業務を担うことができる「リーダーシップ」を有する女性を養成していく必要がある。従来、リーダーシップは他者をけん引し先導することだと一般には考えられてきたが、本学が養成するリーダーシップは、「協働を促進する力」と定義する。現代の経営環境は、「権限を持たないリーダーシップ」が重要な時代であるとされるが、この意味は、リーダーのポジションにないメンバーが互いの専門性を発揮し他者に働きかけることで、主体的に協働を促進することと解釈できる。このような新たなリーダーシップを備えた人材が、社会の連帯を生み社会を明るくすることができると思う。北海道武蔵女子大学では初年次から体系的なリーダーシッププログラムを実施していき、「リーダーシップ開発演習Ⅰ・Ⅱ」、「リーダーシップ応用演習」等の科目を配当する予定である。

##### 2) PBL等の実践的教育（現実社会の課題を題材とした教育）

予測困難な時代となり、多様な価値観や視点を持つ人と相互に信頼し、協力・協働を促進できる「連帯していく力」「協働を促進する力」や今までのやり方を当てはめるのではなく、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、どのように作り変え、課題解決できるかを思考する「想像力」「構想力」が求められる。北海道武蔵女

子大学は短期大学から特色として実施している「少人数でのゼミ教育」をさらに発展させ、現実社会の課題を題材としてチームで課題解決を図り、リーダーシップ探究を目的としたプロジェクト型学習（Project-based learning）を特色として展開し、他者の価値観や視点を理解し、自律的な判断を持って協働を促進する能力を育成する。

この PBL では第 1 段階として、周囲との協働のなかで発揮する自分のリーダーシップスタイルを知り「協働力」を養成し、第 2 段階として、デザイン思考（ユーザー視点から仮説を立て、ニーズや現状の課題を把握するプロセス）を通して「想像力」や「構想力」を養成する。第 3 段階として、具体的な企業課題から問題を発見・課題解決するプロセスを通して「構想力」や「実践力」を養成する。本学ではこのリーダーシップ探究のプログラムを経営学部における教育の重要な柱の 1 つとして位置付ける。

### 3) 情報デザインに関する教育

全国・北海道共に、情報に関する素養を持った人材の養成が求められており、特に、高度情報社会に必要な ICT などの情報活用能力の養成が必要であると考えている。北海道武蔵女子大学では情報・データリテラシーに関する教育を特色とし、Society5.0 社会に不可欠な情報活用能力として、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成する。

一方で、本学が独自で行った高等学校へのヒアリング結果では、高等学校に在籍する女子生徒の多くは理数系の学びを避ける傾向にあり、「数理・データサイエンス・AI」といった学びに対する関心が薄いといった結果となった。そのため、女子生徒を対象とする本学では女子生徒でも親しみやすく、社会が求める情報探索スキルや情報活用スキルを修得するために、情報に「デザイン」の要素を取り入れ、「情報・デザイン系」として領域を定め、主要領域の一つに組み込んでいる。また、デザインに関する学びのなかに、ビジネス上の課題を解決するための思考法であるデザイン思考を学ぶことで、課題を発見し、解決するための基礎的な知識を習得する。

また、教養教育に「ICT スキル・コア」の科目群を設定し、専門教育科目に「ICT スキル・コア」の発展として「デザイン表現演習」「ビジネス統計」「ウェブデザイン演習」等の科目を配置する。「ビジネス統計」「統計学入門」「データサイエンス・AI 基礎」「オフィスツール応用」「IT パスポート演習」などの科目によって情報・統計分野のスキルを習得し、「ウェブデザイン演習」「デザイン表現演習」「プログラミング演習」などの科目によって、デジタル情報の発信のスキルを習得する。

#### 4) 充実した教養教育

北海道武蔵女子学園は「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性を養成することを教育理想としており、短期大学の開学時より教養教育の充実を図ってきた、北海道武蔵女子大学でも教育理想を継承し、教養教育の充実を図っていく。

#### 5) 行動経済学、心理学的な学び

近年、人間が必ずしも合理的には行動しないことに着目し、伝統的な経済学ではうまく説明できなかった社会現象や経済行動を、心理学的な側面や人間行動を観察する実証的な側面で説明する行動経済学が注目されている。北海道武蔵女子大学でもこうした流れを受け、具体的には、「行動経済学」「消費者行動論」「心理学」「ビジネス心理」「社会心理学」「心理学研究法」によって心理学的な学びを導入していく。

#### 6) 地域デザイン経営研究センター (Center for Regional Design & Management)

4年制大学へ移行するにあたり、教育的深化、社会から求められる応用的な能力の育成を実現すると共に、「地域デザイン経営研究センター (Center for Regional Design & Management)」を立ち上げ、地域社会の経営課題に取り組んでいく。例えば女性が子供を産み育てたいと思う持続可能な地域づくり、地域の持続可能な経済・財政運営のための課題解決、女性の視点を取り入れた、住民、観光客、移住者を惹きつけるデザインの考案といった研究を進める。

### ② 上記①が社会的、地理的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### ア) 全国的に社会で活躍できる現代女性を養成する必要性

少子高齢化、人口減少社会の中で、我が国が持続的成長を実現し、社会の活力を維持していくためには、国民一人ひとりが、その個性に応じた多様な能力を発揮できる社会の構築が不可欠である。特に、女性は我が国最大の潜在力であり、女性の能力を活かすことは社会の活力を維持・発展させるためには不可欠である。こうした観点から、我が国では女性活躍の旗を高く掲げ、平成 27 年に女性活躍推進法が制定され、様々な取組が進められてきた。一方で、長時間労働の慣行や育児休業制度などを利用しづらい職場の風土など、女性の職業的活躍を妨げるような風潮は未だ根強く残っている。更に、管理的職業従事者に占める女性の割合 (13.2%) や、衆議院議員に占める女性の割合 (9.7%)

など、女性の社会進出状況は国際的に見ると依然として低水準にとどまっており、2022年のスイスの非営利財団「世界経済フォーラム」(ダボス会議)が公表しているジェンダー・ギャップ指数(GGI)で日本は146か国中116位にとどまっている。

#### イ) 北海道における女性の社会進出状況と社会で活躍できる現代女性を養成する必要性

本学の位置する北海道においても、平成13年4月に施行された「北海道男女平等参画推進条例」に伴い、現在「第3次北海道男女平等参画基本計画(平成30年～令和8年)」が推し進められている。平成28年度から平成30年度には「女性活躍推進法」に基づき、「北海道女性活躍推進計画」が実施され、現在は「北の輝く女性応援会議」を中心に様々な施策が実施されている。本学の位置する札幌市においても、「第4次男女共同参画さっぽろプラン(平成30年～令和4年)」が策定され、男女共同参画社会の実現に向け、幅広い取り組みが実施されている。また、遂行中の「第3次北海道男女平等参画基本計画」では、目標Ⅰ「男女平等参画の実現に向けた意識の変革」、目標Ⅱ「男女が共に活躍できる環境づくり」、目標Ⅲ「安心して暮らせる社会の実現」という3つの基本目標が設定されている。とりわけ目標Ⅰや目標Ⅱでは、女性の社会進出や社会活躍に関する様々な数値目標が掲げられているが、中でも「道の審議会等における女性委員の登用率」「道(知事部局等)の本庁課長級以上の職に占める女性職員の割合」「女性(25～34歳)の就業率」などは、目標達成には及んでおらず更なる推進が求められている。特に「道の審議会等における女性委員の登用率」「女性(25～34歳)の就業率」について、北海道は全国平均より低い値となっている。

表 21 第3次北海道男女平等参画基本計画の推進状況(一部)

| 指標項目                          | 目標値<br>(目標年度)  | 北海道<br>(測定年度)      | 全国<br>(測定年度)      |
|-------------------------------|----------------|--------------------|-------------------|
| 道の審議会等における女性委員の登用率            | 40%<br>(令和4年度) | 37.2%<br>(平成31年4月) | 40.7%<br>(令和1年9月) |
| 道(知事部局等)の本庁課長級以上の職に占める女性職員の割合 | 10%<br>(令和6年度) | 8.6%<br>(令和2年4月)   | -                 |

|                |                   |                  |                  |
|----------------|-------------------|------------------|------------------|
| 女性（25～34歳）の就業率 | 全国平均以上<br>（令和7年度） | 75.2%<br>（令和2年度） | 78.9%<br>（令和2年度） |
|----------------|-------------------|------------------|------------------|

出典：第3次北海道男女平等参画基本計画（令和2年度の推進状況）より抜粋

さらに、帝国データバンクより令和3年に公表された「女性登用に対する道内企業の意識調査」では、「従業員のうち女性の割合」「管理職のうち女性の割合」「役員のうち女性の割合」全ての値で北海道は全国と比較して低い結果となった。

**表 22 北海道の企業における女性の社会進出状況**

| 調査項目        | 北海道   | 全国    |
|-------------|-------|-------|
| 従業員のうち女性の割合 | 22.9% | 26.5% |
| 管理職のうち女性の割合 | 8.4%  | 8.9%  |
| 役員のうち女性の割合  | 10.3% | 11.8% |

出典：「登用に対する道内企業の意識調査（2021年）」（帝国データバンク）より抜粋

令和4年3月8日に公表された上智大学の三浦まり教授らでつくる「地域からジェンダー平等研究会」が「政治」「行政」「教育」「経済」の4分野28項目で都道府県別のジェンダー・ギャップ指数を算出した結果、北海道は4分野のうち、「行政」「教育」「経済」の3分野で47都道府県中、最下位の47位となった。

**表 23 北海道の企業における女性の社会進出状況**

| 分野     | 政治  | 行政  | 教育  | 経済  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 北海道の順位 | 12位 | 47位 | 47位 | 47位 |

出典：「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」（地域からジェンダー平等研究会）より抜粋

一方で、北海道内の企業を中心に本学が独自に実施した企業向けアンケートでは、「管理職に占める女性の割合」について質問をした結果、有効回答数451件中、260件（57.6%）の企業が「女性の管理職比率を増やしていく方針」との回答を得られた。

表 24 管理職に占める女性の割合に関するアンケート結果

|             |                   |
|-------------|-------------------|
| 増やしていく方針である | 回答数 260 件 (57.6%) |
| 特に変化なし      | 回答数 187 件 (41.5%) |
| 減らしていく方針である | 回答数 0 件 (0.0%)    |
| 無回答         | 回答数 4 件 (0.9%)    |

令和 2 年度の国勢調査の結果では、北海道の人口は男性が約 247 万人に対し、女性は約 276 万人となり、男性と比べて女性の方が 30 万人弱多い。男女別人口の推移を確認すると、北海道では昭和 40 年頃を境に女性人口が男性人口を上回り、年々女性の割合が上昇している。北海道は全国と比較して、女性の社会進出状況は進んでいないが、女性の人口は男性と比較して多く、道内の女性の社会進出、社会活躍が進むことは、道内の経済・産業を活性化させる可能性が十分にあり、企業の意向としても管理職に占める女性の割合は増加させていく方針にある。以上の状況を踏まえると、社会で活躍する現代女性の養成は北海道の企業の人材需要に応え、北海道が全国的に女性の社会進出状況が遅れているという社会的課題の解決になると共に、北海道内の経済・産業の活性化へと繋がる社会的意義の高い重要なテーマであるといえる。

#### ウ) PBL を通じた協働を促進する力を養成する必要性

リーダーシップは他者をけん引し先導することだと一般には考えられてきたが、現代は、「権限を持たないリーダーシップ」が重要視される時代である。なぜなら、高度情報化によって成立するフラットな組織は、リーダーのポジションにないメンバーが互いの専門性を発揮し他者に働きかけることによって促進され発展すると考えられるからである。このような新たなリーダーシップを備えた人材が、社会の連帯を生み社会を明るくすることができると思う。

本学の考えるリーダーシップ（本学のリーダーシップ）とは、「リーダーシップ（＝協働を促進する力）」であり、短期大学の教育で高い評価を得ているコミュニケーションスキルを「協働を促進する力」へと引き上げることを目指す。現在の学生はいわゆるデジタルネイティブとよばれる SNS 世代であり、コミュニケーションスキルが非常に高い。これは入学後に実施しているリテラシーテストにおいてもデータで示されている。一方、この高いコミュニケーションスキルは、高すぎる同調性となり「主体性の欠如」につながりやすい。他者の意見を受容しつつ、自身の考えを伝える自律心も同時に求め

られており、自律的な判断をもって協働を促進する力が求められる。

## エ) 全国・北海道におけるデジタル社会の進展に伴う情報教育の必要性

平成 28 年 1 月に策定された「第 5 期科学技術基本計画」では、ICT の進化等により、社会・経済の構造が日々大きく変化する「大変革時代」が到来すると述べられておりサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した「超スマート社会」の実現のための Society5.0 が掲げられた。

また、令和元年 6 月に策定された「AI 戦略 2019」では、デジタル・トランスフォーメーションによって社会の大転換が進んでおり、「その変革の大きなきっかけは AI であり、AI を作り、活かし、新たな社会の在り方や、新しい社会にふさわしい製品・サービスをデザインし、そして、新たな価値を生み出すことができる、そのような人材がますます求められている。」と述べられており、Society5.0 時代の新たな数理・データサイエンス・AI 教育の必要性が語られている。

大学に対して、具体的には「文理を問わず、全ての大学・高専生（約 50 万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AI を習得」「大学生、社会人に対するリベラルアーツ教育の充実（一面的なデータ解析の結果やAI を鵜呑みにしないための批判的思考力の養成も含む）」が掲げられているだけでなく、「文理を問わず、一定規模の大学・高専生（約 25 万人/年）が、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AI の応用基礎力を習得」も掲げられている。

しかし、令和 4(2022)年の IMD デジタル競争力ランキングでは米国、香港、スウェーデン、デンマーク、シンガポールが上位を占めるなか我が国は 29 位であり、国際的なデジタル競争力は依然として低い状況にある。また、「DX 白書 2021」において、約 9 割の国内事業者が「IT 人材が質量ともに不足している」と回答しており、全国的な IT 人材の不足は大きな課題になっていると考えられる。

本学の位置する北海道においても、令和 3 年 10 月に公表された「北海道総合計画【2021 改訂版】」において、「地域の可能性を広げるデジタル・トランスフォーメーションの推進」が政策の方向性として示されており、令和元年に 22,291 人であった道内 IT 企業従業員数を令和 7 年までに 35,000 人とすることや、令和 2 年に 30.2%（全国平均は 43.6%）であった ICT 部門の業務継続計画が策定されている市町村の割合を令和 6 年までに全国平均値以上まで向上させることを目標として掲げている。このことから、全国同様に数理・データサイエンス・AI の素養を持った人材や IT 人材の養成が求

められており、特に、高度情報社会に必要な ICT などの情報活用能力の養成が必要であると考えている。

#### オ) 予測困難な時代に必要な能力を養成していく必要性

グローバル化の進む 21 世紀初頭の現在、地球環境・生態系破壊の危険性や、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった問題、国際関係の変化と情報技術の進展 (society5.0) 等により、世界は不確実性や不透明性を増した状況となっており、予測のつかない困難が人間・国家・人類社会を襲っている。世界各国と人類社会が共通に直面しているこうした現代のさまざまな問題と課題は、それらに対応しうる知識・知性・教養の向上を切実に求めている。日本学術会議から提言された「21 世紀の教養と教養教育 (平成 22 年)」ではその知識・知性・教養とは「異質なもの (個人・民族・国家や宗教・文化) の間での相互信頼と協力・協働を促進し、それらの問題や課題の性質・構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していく基盤となるもの」とされている。

現代社会が直面している諸問題は、一つの学問分野の知見のみで適切にその全体像を理解することは困難であり、なおかつ、異なる利害・異なる価値観が現在進行形で衝突する論争的な性格を有している。更に、今後、異なる価値観や視点を持つ他者との協働の機会は増えることが予想され、多様な価値観や視点を持つ人と、相互信頼と協働を促進し、「連帯していく力」が求められている。また、予測困難な時代では、私たち一人一人、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。一義的な正解の存在しない問題について、今までのやり方を当てはめるのではなく、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、どのように作り変え、課題解決できるかを思考する「想像力」「構想力」が求められる。

#### カ) 養成する人材像の妥当性についての企業へのヒアリング結果

北海道武蔵女子大学の設置を検討するにあたり、本学が立地する札幌市を中心に就職が想定される企業 5 社 (北洋銀行、ホクレン農業協同組合連合会、東京海上日動火災保険、日本 IBM デジタルサービス、札幌市役所) に対して、本学の構想している人材像を提示し、その就職可能性、必要性についてヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の結果、北海道武蔵女子大学の構想している人材像は企業が求める人材像と合致し、社会的必要性が高い結果となった。

## キ) 外部機関によるアンケート調査結果

### 1) 北海道武蔵女子大学設置に関するニーズ調査 概要

外部機関によるアンケート調査を、北海道に所在する企業を中心とした全国の企業の採用担当者を対象に行い、本学の卒業生に対する人材需要の見通しについて定量的に確認した。

|           |                           |                       |
|-----------|---------------------------|-----------------------|
| 調査対象      | 北海道所在の企業を中心とした全国の企業の採用担当者 |                       |
| 調査方法      | 郵送調査                      |                       |
| 調査<br>対象数 | 依頼数                       | 1946 社                |
|           | 協力許諾数                     | 460 社                 |
|           | 有効回答数                     | 460 社<br>有効回答率：100.0% |
| 調査時期      | 2022年7月19日～2022年8月5日      |                       |
| 調査実施機関    | 株式会社 船井総合研究所              |                       |

- 回答企業の業種：「林業・農業・漁業・鉱業」1.5% (7社)、「建築業」4.6% (21社)、「製造業」7.4% (34社)、「卸売・小売業」11.3% (52社)、「IT関連業」8.3% (38社)、「電気・ガス・熱供給・水道業」1.7% (8社)、「放送、出版、新聞」0.9% (4社)、「運輸業、郵便業」3.3% (15社)、「学術研究、専門・技術サービス業」1.5% (7社)、「卸売業」4.3% (20社)、「小売業」5.9% (27社)、「不動産業、物品賃貸業」2.8% (13社)、「金融業、保険業」9.1% (42社)、「宿泊業」2.6% (12社)、「飲食サービス業」1.3% (6社)、「教育、学習支援業」0.9% (4社)、「医療、福祉」5.0% (23社)、「生活関連サービス業、娯楽業」1.7% (8社)、「その他サービス業」7.4% (34社)、「公務」2.6% (12社)、「複合サービス事業」4.6% (21社)、「その他」11.3% (52社)

### ■ 回答企業の従業員数・職員数

|                |              |
|----------------|--------------|
| 100人未満         | 29.6% (136社) |
| 100～300人未満     | 31.7% (146社) |
| 300～500人未満     | 10.0% (46社)  |
| 500～1,000人未満   | 10.4% (48社)  |
| 1,000～3,000人未満 | 10.2% (47社)  |

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 3,000～10,000 人未満 | 4.1% (19 社) |
| 10,000 人以上       | 3.3% (15 社) |
| その他              | 0.7% (3 社)  |

## 2) 本学卒業生の採用ニーズ

『北海道武蔵女子大学(仮称) 経営学部 経営学科(仮称)』で養成する人材について、今後の社会でニーズが高いと思われますか」という質問に対し、全体の 93.9%にあたる企業が「ニーズは極めて高い (14.1%)」「ニーズは高い (51.1%)」「ニーズはやや高い (28.7%)」と回答し、本学経営学部経営学科(仮称)の養成する人材像は社会からの需要は高い結果となった。

## 3) 本学卒業生の採用意向

調査対象法人のうち、本学経営学部経営学科(仮称)卒業生が「採用対象になる」と回答した企業は全体の 55.7% (256 社) であり、「おそらく採用対象になる」と回答した企業は全体の 14.8% (68 社)、「採用対象として検討してもよい」と回答した企業は全体の 16.5% (76 社) であった。毎年採用可能と思われる人数は合計 527 人となり、定員 80 人の 6.6 倍の数値が毎年継続的に採用可能である結果となった。このことから本学の卒業生に対する継続的な人材需要があることがうかがえる。

より厳密に本学卒業生の採用意向を確認するために、「採用対象となる」と回答した企業のみを採用予定人数を抽出することに加えて、教育課程の編成を検討する上で北海道の企業 5 社にヒアリングを実施していることから、養成する人材像に対応する地域は北海道であると考え、「採用対象になる」と回答した北海道に所在する企業の採用予定人数をクロス集計により求めた。結果、「採用対象になる」と回答した北海道に所在する企業 199 社における採用予定者数は入学定員 80 人の 3.4 倍となる合計 274 人となり、養成する人材に対する社会的需要は十分にあることが分かった (表 25)。

表 25 北海道に所在する企業の採用予定人数

| 採用意向             | 企業数   | 採用予定者数 |
|------------------|-------|--------|
| 「採用対象になる」        | 199 社 | 274 人  |
| 「おそらく採用対象になる」    | 55 社  | 52 人   |
| 「採用対象として検討してもよい」 | 70 社  | 45 人   |
| 「あまり採用対象にならない」   | 34 社  | 0 人    |

|              |      |      |
|--------------|------|------|
| 「採用対象にはならない」 | 3社   | 0人   |
| 「その他」        | 5社   | 0人   |
| 計            | 366社 | 371人 |

#### 4) 本学卒業生の採用意向（業種別の傾向）

本学経営学部経営学科（仮称）では職種区分に応じた「経営ジェネラリスト型Ⅰ・Ⅱ（マーケター、営業・企画職系、経営コンサルタント、起業家）」「地域経済スペシャリスト型（金融系総合職、公務員）」「情報スペシャリスト型（IT系サービス職、マーケットリサーチャー、ウェブデザイナー）」「国際スペシャリスト型（国際・観光系サービス職、グローバル人材）」の4つの履修モデルを提示する予定である。基本的に学生には適切な履修指導を通じて、興味・関心や将来の職業像に従って科目を選択していくため、必ず4つの履修モデルに沿った学び・進路となることは想定していないが、社会的人材需要や短期大学の強み等から履修モデルを設定している。4つの履修モデルに沿った就職先がどの程度人材の受け入れが可能か、クロス集計を実施した結果以下の通りとなった。

| 履修モデル             | 想定される業種・職種                 | 採用予定者数 |
|-------------------|----------------------------|--------|
| 経営ジェネラリスト型<br>Ⅰ・Ⅱ | メーカー、営業・企画<br>コンサルティング※1   | 97人    |
| 地域経済スペシャリスト型      | 銀行、生命保険、<br>証券、市役所等※2      | 31人    |
| 情報スペシャリスト型        | IT・Webデザイン会社<br>IT系サービス職※3 | 28人    |
| 国際スペシャリスト型        | 旅行業、航空会社、<br>宿泊業、メーカー系※4   | 44人    |

※1 「製造業」「卸売・小売業」「学術研究、専門・技術サービス業」「卸売業」「小売業」の企業における採用意向者数を集計

※2 「金融業、保険業」「公務」の企業における採用意向者数を集計

※3 「IT関連業」の企業における採用意向者数を集計

※4 「製造業」「運送業・郵便業」「卸売業」「宿泊業」「生活関連サービス業、娯楽業」の企業における採用意向者数を集計

「地域経済スペシャリスト型」「情報スペシャリスト型」「国際スペシャリスト型」では定員である 80 人を下回っているが、各履修モデルでの学びの集大成である 3 年・4 年専門ゼミナールは一部の教員に過大な負担がかからぬように、フィールドワークや卒業論文の指導が十分に行える規模であるかを考慮して、履修上限を設け、1 ゼミナールあたり平均 5 名程度（1 学年）で開講されることが想定される。そのため、就職希望者が大きく偏重することは考えにくい。

実際に、令和 4 年度の学校基本調査によると、社会科学系学部卒業生の産業別就職者の割合は「卸・小売業」と「情報通信業」において、18.8%、13.0%と高くなっているが、その他の業種については 10%未満で分散している。更に、母体となる北海道武蔵女子短期大学経済学科の就職実績では 2017 年から 2021 年にかけて産業別就職者の割合を確認した結果、短期大学の強みである「金融業・保険業」（13 人～22 人／就職者数全体の 20.6%～28.9%）や、「卸売・小売業」（12 人～23 人／就職者数全体の 15.8%～33.8%）、「情報通信業」（2 人～7 人／就職者数全体の 2.8%～10.9%）は比較的高くなっているが、その他の業種については 10%未満で分散している。以上から、一部の業種に就職希望が偏ることは考えにくく、全ての履修モデルにおいて十分な採用予定者数であると考えている。

以上の結果から、各履修モデルにおいても十分な採用予定者数が確保できていると考えられるが、最も採用予定者数が少ない情報スペシャリスト型において、更なる分析をすすめた。今回のアンケート調査にて回答を得られた IT 関連企業数 37 社のうち、北海道に所在する企業数は 26 社、北海道外に所在する企業数は 11 社となった。これら IT 関連企業の所在地別・採用意向別の採用予定者数は表 26 の通りである。

本学の養成する人材像や DP は、北海道内の企業の意見を参考にしながら策定し、卒業後進路も北海道内を想定しているが、今回のアンケート調査では北海道外の IT 関連企業からも採用意向が多く、その採用予定者数の合計は 31 人（青枠にて示す）になることが分かった。情報スペシャリスト型の履修者のなかで、仮に、北海道外での就職を視野に入れるのであれば、更なる人材需要が確認され、十分な採用予定者数であると考えている。

表 26 IT 関連企業 所在地別・採用意向別 採用予定者数

| 所在地<br>/<br>採用意向 | 採用対象になる | おそらく採用<br>対象になる | 採用対象として<br>検討してもよい | 計  |
|------------------|---------|-----------------|--------------------|----|
| 北海道              | 28      | -               | 6                  | 34 |
| 東京               | 20      | 4               | -                  | 24 |
| 神奈川              | 1       | -               | -                  | 1  |
| 沖縄               | 10      | -               | -                  | 10 |
| 計                | 59      | 4               | 6                  | 69 |

※ 「あまり採用対象にならない」、「採用対象にはならない」の回答はなかったため表示していない

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 資料目次

- 【資料 1.】 平成 29 年度～令和 14 年度 全国・北海道・札幌市の 18 歳人口の動向
- 【資料 2.】 競合校の志願動向推移
- 【資料 3.】 英文学科および経済学科の志願動向推移と全国の短期大学の志願動向推移
- 【資料 3-1.】 英文学科および経済学科の志願動向推移（延べ数・実数・併願者数）
- 【資料 4.】 航空業界への就職者数
- 【資料 5.】 北海道武蔵女子大学（仮称）の進学需要・人材需要に関する調査結果
- 【資料 6.】 北海道武蔵女子短期大学 編入学実績
- 【資料 7.】 北海道武蔵女子大学（仮称）の進学需要に関する調査結果 2023 年 3 月

平成29年度～令和14年度 全国・北海道・札幌市の18歳人口の動向

資料 1

| 項目  | 基準値                                | H26年3月 (中3) | H27年3月 (中3) | H28年3月 (中3) | H29年3月 (中3) | H30年3月 (中3) | R1年3月 (中3) | R1年3月 (中2) | R1年3月 (中1) | R1年3月 (小6) | R1年3月 (小5) | R1年3月 (小4) | R1年3月 (小3) | R1年3月 (小2) | R1年3月 (小1) | R2年3月 (小1) | R3年3月 (小1) |
|-----|------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|     | 年度                                 | 平成29年度      | 平成30年度      | 令和元年度       | 令和2年度       | 令和3年度       | 令和4年度      | 令和5年度      | 令和6年度      | 令和7年度      | 令和8年度      | 令和9年度      | 令和10年度     | 令和11年度     | 令和12年度     | 令和13年度     | 令和14年度     |
| 全国  | 18歳人口                              | 1,175,065   | 1,169,726   | 1,160,019   | 1,132,700   | 1,111,742   | 1,087,233  | 1,052,191  | 1,078,713  | 1,089,095  | 1,086,458  | 1,064,374  | 1,062,235  | 1,043,610  | 1,028,675  | 1,018,315  | 1,007,488  |
|     | 18歳人口 (女)                          | 574,046     | 570,960     | 566,597     | 553,249     | 543,134     | 531,807    | 513,935    | 527,300    | 530,994    | 528,357    | 519,700    | 517,809    | 510,566    | 502,781    | 497,773    | 491,588    |
|     | 大学 (学部) 進学率 (女)                    | 49.1        | 50.1        | 50.7        | 50.9        | 51.7        | 52.2       | 52.8       | 53.4       | 53.9       | 54.5       | 55.1       | 55.6       | 56.2       | 56.8       | 57.4       | 58.0       |
| 北海道 | 北海道18歳人口                           | 45,902      | 45,430      | 45,569      | 44,708      | 43,976      | 42,233     | 40,731     | 41,611     | 41,216     | 40,972     | 40,085     | 40,016     | 39,243     | 38,260     | 37,904     | 36,811     |
|     | 北海道18歳人口 (女)                       | 22,472      | 22,353      | 22,431      | 21,980      | 21,624      | 20,796     | 19,880     | 20,181     | 20,308     | 20,108     | 19,470     | 19,573     | 19,392     | 18,748     | 18,484     | 17,920     |
|     | 北海道の大学 (学部) 進学率 (女)                | 34.0        | 33.8        | 34.8        | 35.9        | 36.1        | 36.9       | 37.8       | 38.6       | 39.5       | 40.4       | 41.3       | 42.2       | 43.2       | 44.2       | 45.2       | 46.2       |
|     | 北海道内の大学 (学部) 入学者数 (女)              | 7,650       | 7,553       | 7,817       | 7,900       | 7,811       | 7,681      | 7,509      | 7,795      | 8,021      | 8,121      | 8,041      | 8,266      | 8,374      | 8,279      | 8,347      | 8,275      |
| 札幌市 | 札幌市18歳人口                           | 15,718      | 15,501      | 15,819      | 15,596      | 15,406      | 14,872     | 14,636     | 15,032     | 15,342     | 15,292     | 15,138     | 15,214     | 14,755     | 14,566     | 14,631     | 14,689     |
|     | 札幌市18歳人口 (女)                       | 7,773       | 7,681       | 7,767       | 7,715       | 7,562       | 7,367      | 7,184      | 7,293      | 7,566      | 7,547      | 7,406      | 7,438      | 7,330      | 7,081      | 7,093      | 7,186      |
|     | 札幌市の大学 (学部) 進学率 (女)                | 48.9        | 50.0        | 50.9        | 52.0        | 54.7        | 56.4       | 58.1       | 59.9       | 61.7       | 63.6       | 65.6       | 67.6       | 69.7       | 71.8       | 74.0       | 76.3       |
|     | 札幌市の大学 (学部) 進学率 (女)<br>＜補正值＞       | 48.9        | 50.0        | 50.9        | 52.0        | 54.7        | 56.4       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       | 58.1       |
|     | 札幌市内の大学 (学部) 入学者数 (女)<br>＜補正值にて算出＞ | 3,803       | 3,839       | 3,953       | 4,013       | 4,137       | 4,154      | 4,175      | 4,238      | 4,397      | 4,386      | 4,304      | 4,323      | 4,260      | 4,115      | 4,122      | 4,176      |

出典：文部科学省、「学校基本調査」、札幌市「札幌市統計書」

- ・各年度の18歳人口は、基準値に示した年の学校基本調査および札幌市統計書より算出
- ・平成29年度から令和3年度までの全国の進学率 (女) は、学校基本調査より算出
- ・北海道内および札幌市内の進学率 (女) については、学校基本調査「出身高校の所在地別大学入学者数」、札幌市統計書「札幌市内の大学入学者数・志願者数」より、各地区における大学学部入学者数を抽出し、北海道18歳人口 (女) の値に除して算出
- ・令和4年度から令和14年度までの進学率 (女) の推計は、平成29年度から令和3年度までの進学率の伸び率によって、今後、令和14年度まで大学進学率が上昇したと仮定して推計
- ・札幌市の大学 (学部) 進学率 (女) ＜補正值＞は、平成14年度の全国の大学 (学部) 進学率 (女) を超過した時点で以降同値として推計

競合校の志願動向推移

資料2

| 大学     | 学部     | 項目      | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|--------|--------|---------|-------|-------|-------|
| 北海学園大学 | 経済学部一部 | 志願者数    | 1,923 | 1,722 | 1,720 |
|        |        | 入学定員    | 300   | 300   | 300   |
|        |        | 入学者（男）  | 206   | 232   | 260   |
|        |        | 入学者（女）  | 70    | 77    | 93    |
|        |        | 入学者 計   | 276   | 309   | 353   |
|        |        | 入学定員充足率 | 0.92  | 1.03  | 1.18  |
| 北海学園大学 | 経営学部一部 | 志願者数    | 1,724 | 1,492 | 1,609 |
|        |        | 入学定員    | 300   | 300   | 300   |
|        |        | 入学者（男）  | 196   | 179   | 178   |
|        |        | 入学者（女）  | 109   | 130   | 150   |
|        |        | 入学者 計   | 305   | 309   | 328   |
|        |        | 入学定員充足率 | 1.02  | 1.03  | 1.09  |
| 北星学園大学 | 経済学部   | 志願者数    | 2,085 | 1,683 |       |
|        |        | 入学定員    | 364   | 364   | 364   |
|        |        | 入学者（男）  | 261   | 262   | 249   |
|        |        | 入学者（女）  | 137   | 131   | 139   |
|        |        | 入学者 計   | 398   | 393   | 388   |
|        |        | 入学定員充足率 | 1.09  | 1.08  | 1.07  |
| 北海商科大学 | 商学部    | 志願者数    | 540   | 413   | 388   |
|        |        | 入学定員    | 180   | 180   | 180   |
|        |        | 入学者（男）  | 128   | 117   | 116   |
|        |        | 入学者（女）  | 100   | 90    | 66    |
|        |        | 入学者 計   | 228   | 207   | 182   |
|        |        | 入学定員充足率 | 1.27  | 1.15  | 1.01  |

| 大学      | 学部                  | 項目      | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---------|---------------------|---------|-------|-------|-------|
| 札幌学院大学  | 経済経営学部<br>*R3年度新設学部 | 志願者数    |       | 1,775 | 1,651 |
|         |                     | 入学定員    |       | 300   | 300   |
|         |                     | 入学者（男）  |       |       |       |
|         |                     | 入学者（女）  |       |       |       |
|         |                     | 入学者 計   |       | 337   | 328   |
|         |                     | 入学定員充足率 |       | 1.12  | 1.09  |
| 星槎道都大学  | 経営学部                | 志願者数    | 128   | 181   | 135   |
|         |                     | 入学定員    | 120   | 120   | 120   |
|         |                     | 入学者（男）  | 104   | 134   | 101   |
|         |                     | 入学者（女）  | 9     | 14    | 18    |
|         |                     | 入学者 計   | 113   | 148   | 119   |
|         |                     | 入学定員充足率 | 0.94  | 1.23  | 0.99  |
| 北海道情報大学 | 経営情報学部              | 志願者数    | 357   | 297   | 379   |
|         |                     | 入学定員    | 130   | 130   | 130   |
|         |                     | 入学者（男）  | 128   | 137   | 121   |
|         |                     | 入学者（女）  | 17    | 27    | 13    |
|         |                     | 入学者 計   | 145   | 164   | 134   |
|         |                     | 入学定員充足率 | 1.12  | 1.26  | 1.03  |

・志願者数は、大学HP、代々木ゼミナール入試結果、旺文社入試結果等、複数の出所より作成のため、若干の差異が生じる場合がある。

・入学定員・入学者数は、各大学の情報公開、大学ポータルより作成している。

・各出所において齟齬がある場合は、各大学の情報公開のデータを優先して作成している。

・データを取得出来なかった項目・新設学部のためデータが無い項目については斜線を引いている。

## 資料 3

## 英文学科および経済学科の志願動向推移と全国の短期大学の志願動向推移

## 英文学科

| 項目 / 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 平均     |
|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 志願者数    | 252    | 220    | 216   | 192   | 151   | 107   | 189.67 |
| 受験者数    | 251    | 219    | 216   | 191   | 150   | 106   | 188.83 |
| 合格者数    | 199    | 178    | 173   | 142   | 130   | 95    | 152.83 |
| 入学者数    | 125    | 115    | 106   | 91    | 81    | 65    | 97.17  |
| 入学定員    | 120    | 120    | 120   | 120   | 120   | 100   | 117    |
| 志願倍率    | 2.10倍  | 1.83倍  | 1.80倍 | 1.60倍 | 1.26倍 | 1.07倍 | 1.61倍  |
| 実質倍率    | 1.26倍  | 1.23倍  | 1.25倍 | 1.35倍 | 1.15倍 | 1.12倍 | 1.23倍  |
| 入学定員充足率 | 1.04   | 0.96   | 0.88  | 0.76  | 0.68  | 0.65  | 0.83   |

## 経済学科

| 項目 / 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 平均     |
|---------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 志願者数    | 226    | 203    | 160   | 157   | 107   | 131   | 164.00 |
| 受験者数    | 224    | 203    | 159   | 157   | 106   | 128   | 162.83 |
| 合格者数    | 153    | 151    | 131   | 110   | 88    | 108   | 123.50 |
| 入学者数    | 86     | 88     | 76    | 65    | 44    | 57    | 69.33  |
| 入学定員    | 80     | 80     | 80    | 80    | 80    | 80    | 80     |
| 志願倍率    | 2.83倍  | 2.54倍  | 2.00倍 | 1.96倍 | 1.34倍 | 1.64倍 | 2.05倍  |
| 実質倍率    | 1.46倍  | 1.34倍  | 1.21倍 | 1.43倍 | 1.20倍 | 1.19倍 | 1.31倍  |
| 入学定員充足率 | 1.08   | 1.10   | 0.95  | 0.81  | 0.55  | 0.71  | 0.87   |

## 全国の短期大学志願動向推移

| 項目 / 年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度  | 令和3年度  | 平均     |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 志願者数    | 78,339 | 75,629 | 72,587 | 70,016 | 60,363 | 71,387 |
| 受験者数    | 76,131 | 73,494 | 70,384 | 67,794 | 58,331 | 69,227 |
| 合格者数    | 64,246 | 61,904 | 59,531 | 57,869 | 53,452 | 59,400 |
| 入学者数    | 53,389 | 51,214 | 48,705 | 46,900 | 43,132 | 48,668 |
| 入学定員    | 59,116 | 58,161 | 55,885 | 53,757 | 52,242 | 55,832 |
| 志願倍率    | 1.33倍  | 1.30倍  | 1.30倍  | 1.30倍  | 1.16倍  | 1.28倍  |
| 実質倍率    | 1.18倍  | 1.19倍  | 1.18倍  | 1.17倍  | 1.09倍  | 1.17倍  |
| 入学定員充足率 | 0.90   | 0.88   | 0.87   | 0.87   | 0.83   | 0.87   |

出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

英文学科および経済学科の志願動向推移（延べ数・実数・併願者数）

資料3-1

英文学科

| 項目 / 年度 | 平成29年度   |     |          |           |     |         | 平成30年度   |     |          |           |     |         | 令和元年度    |     |          |           |     |         |
|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|
|         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         |
|         | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 |
| 志願者数    | 252      | 218 | 34       | 252       | 175 | 77      | 220      | 192 | 28       | 220       | 162 | 58      | 216      | 178 | 38       | 216       | 168 | 48      |
| 受験者数    | 251      | 218 | 33       | 251       | 174 | 77      | 219      | 191 | 28       | 219       | 161 | 58      | 216      | 178 | 38       | 216       | 168 | 48      |
| 合格者数    | 199      | 183 | 16       | 199       | 155 | 44      | 178      | 166 | 12       | 178       | 141 | 37      | 173      | 155 | 18       | 173       | 148 | 25      |

| 項目 / 年度 | 令和2年度    |     |          |           |     |         | 令和3年度    |     |          |           |     |         | 令和4年度    |    |          |           |    |         |
|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|----|----------|-----------|----|---------|
|         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |    |          | 本学他学科との併願 |    |         |
|         | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数 | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数 | 他学科併願者数 |
| 志願者数    | 192      | 162 | 30       | 192       | 143 | 49      | 151      | 132 | 19       | 151       | 125 | 26      | 107      | 93 | 14       | 107       | 86 | 21      |
| 受験者数    | 191      | 161 | 30       | 191       | 142 | 49      | 150      | 131 | 19       | 150       | 124 | 26      | 106      | 92 | 14       | 106       | 85 | 21      |
| 合格者数    | 142      | 129 | 13       | 142       | 118 | 24      | 130      | 119 | 11       | 130       | 115 | 15      | 95       | 87 | 8        | 95        | 80 | 15      |

経済学科

| 項目 / 年度 | 平成29年度   |     |          |           |     |         | 平成30年度   |     |          |           |     |         | 令和元年度    |     |          |           |    |         |
|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|-----|----------|-----------|-----|---------|----------|-----|----------|-----------|----|---------|
|         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |     |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |    |         |
|         | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数  | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数 | 他学科併願者数 |
| 志願者数    | 226      | 182 | 44       | 226       | 113 | 113     | 203      | 178 | 25       | 203       | 109 | 94      | 160      | 138 | 22       | 160       | 74 | 86      |
| 受験者数    | 224      | 181 | 43       | 224       | 112 | 112     | 203      | 178 | 25       | 203       | 109 | 94      | 159      | 138 | 21       | 159       | 74 | 85      |
| 合格者数    | 153      | 141 | 12       | 153       | 95  | 58      | 151      | 144 | 7        | 151       | 97  | 54      | 131      | 120 | 11       | 131       | 69 | 62      |

| 項目 / 年度 | 令和2年度    |     |          |           |    |         | 令和3年度    |    |          |           |    |         | 令和4年度    |     |          |           |    |         |
|---------|----------|-----|----------|-----------|----|---------|----------|----|----------|-----------|----|---------|----------|-----|----------|-----------|----|---------|
|         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |    |         | 同一学科内の併願 |    |          | 本学他学科との併願 |    |         | 同一学科内の併願 |     |          | 本学他学科との併願 |    |         |
|         | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数 | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数 | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数 | 他学科併願者数 | 延べ数      | 実数  | 同一学科併願者数 | 延べ数       | 実数 | 他学科併願者数 |
| 志願者数    | 157      | 132 | 25       | 157       | 78 | 79      | 107      | 92 | 15       | 107       | 54 | 53      | 131      | 108 | 23       | 131       | 65 | 66      |
| 受験者数    | 157      | 132 | 25       | 157       | 78 | 79      | 106      | 92 | 14       | 106       | 54 | 52      | 128      | 106 | 22       | 128       | 64 | 64      |
| 合格者数    | 110      | 100 | 10       | 110       | 71 | 39      | 88       | 82 | 6        | 88        | 47 | 41      | 108      | 95  | 13       | 108       | 62 | 46      |

航空業界への就職者数(資料4)

資料4

| 企業名 / 年                    | H28.3卒   | H29.3卒      | H30.3卒       | H31.3卒       | R2.3卒        | R3.3卒 | R4.3卒 | 合計 |
|----------------------------|----------|-------------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|----|
| AIR DO(CA)                 |          | 2<br>千歳     | 1<br>千歳      |              | 1<br>千歳      |       |       | 4  |
| ANAウイングス(CA)               |          |             | 1<br>福岡      |              |              |       |       | 1  |
| ジェイエア(CA)                  | 1<br>大阪  |             |              |              |              |       |       | 1  |
| スカイマーク(CA)                 |          |             |              | 1<br>東京      |              |       |       | 1  |
| 全日本空輸(CA)                  | 3<br>東京  | 1<br>東京     |              |              |              |       |       | 4  |
| 日本航空(CA)                   | 1<br>東京  |             | 1<br>東京      | 1<br>東京      | 1<br>東京      |       |       | 4  |
| AIR DO(GS)                 |          | 2<br>千歳     |              | 1<br>千歳      | 1<br>千歳      |       |       | 4  |
| ANAエアポートサービス(GS)           | 1<br>東京  | 1<br>東京     |              | 2<br>東京      | 1<br>東京      |       |       | 5  |
| ANA新千歳空港(GS)<br>※総合職       | 10<br>千歳 | 9<br>千歳     | 8<br>千歳      | 4<br>千歳      | 7<br>千歳      |       |       | 38 |
| ANA成田エアポートサービス<br>(GS)※総合職 |          |             |              | 1<br>東京      |              |       |       | 1  |
| ANA関西空港(GS)<br>※総合職        |          |             |              |              | 1<br>大阪      |       |       | 1  |
| JALスカイ(GS)                 |          |             |              |              | 1<br>東京      |       |       | 1  |
| JALスカイ札幌(GS)               | 8<br>千歳  | 12<br>千歳・函館 | 9<br>(千歳・函館) | 6<br>(千歳・函館) | 9<br>(千歳・函館) |       |       | 44 |

| 企業名 / 年                   | H28.3卒   | H29.3卒   | H30.3卒    | H31.3卒    | R2.3卒       | R3.3卒    | R4.3卒       | 合計         |
|---------------------------|----------|----------|-----------|-----------|-------------|----------|-------------|------------|
| Kスカイ(GS)<br>※旧社名JALスカイ関西  |          |          | 1<br>東京   |           | 1<br>大阪or東京 |          |             | 2          |
| JALスカイエアポート沖縄(GS)         |          |          |           |           | 1<br>沖縄     |          |             | 1          |
| アジアナスタッフサービス(GS)          |          |          |           | 2<br>千歳   |             |          |             | 2          |
| キャスト(GS)                  | 2<br>千歳  | 3<br>千歳  | 1<br>千歳   | 3<br>千歳   | 5<br>千歳     | 2<br>千歳  |             | 16         |
| 道北航空サービス(GS)              |          |          | 1<br>帯広   | 1<br>旭川   |             |          |             | 2          |
| 西鉄エアサービス(GS)              |          |          | 1<br>千歳   | 1<br>千歳   | 1<br>千歳     |          |             | 3          |
| 函館エアサービス(GS・GH)           |          |          |           |           |             |          | 1<br>函館(GH) | 1          |
| キャスト<br>(インフォメーション)       | 3<br>千歳  | 3<br>千歳  | 5<br>千歳   | 7<br>千歳   | 5<br>千歳     | 2<br>千歳  | 4<br>千歳     | 29         |
| 羽田旅客サービス<br>(インフォメーション)   |          |          |           |           |             |          |             | 0          |
| 羽田空港サービス<br>(国際線航空貨物取扱事務) |          |          | 1<br>東京   |           | 1<br>東京     |          |             | 2          |
| 北海道エアポート<br>(空港運営総合職)     |          |          |           |           |             |          | 1<br>帯広     | 1          |
| <b>合計</b>                 | <b>5</b> | <b>6</b> | <b>10</b> | <b>14</b> | <b>14</b>   | <b>4</b> | <b>6</b>    | <b>168</b> |

**【資料：5】**北海道武蔵女子大学（仮称）の進学需要・人材需要に関する調査結果

学校法人北海道武蔵女子学園 御中



**北海道武蔵女子大学（仮称）の  
進学需要・人材需要に関する調査結果**

**2022年 10月**

## ■ 進学需要に関する調査

調査概要

調査範囲

調査書

提示資料

調査結果①（質問別の集計結果）

調査結果②（クロス集計の結果）

結論

## ■ 人材需要に関する調査

調査概要

調査範囲

調査書

提示資料

調査結果①（質問別の集計結果）

調査結果②（クロス集計の結果）

結論

## 進学需要に関する調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 学校法人北海道武蔵女子学園が計画している「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置について、北海道内の高等学校に在籍する高校2年生に興味度・進学意向等の調査を実施、「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置構想がどの程度高校2年生の進学需要に合致するか、どの程度入学意向者が確保できるか調査した。
- ✓ アンケート回答者には男性も含まれていたが女性のみを対象として抽出した。

## ▶ 調査対象

- ✓ 北海道内にある高等学校に在籍する高校2年生
  - ・ 調査対象校に調査票を送付。ホームルームなどで配布・回収。

## ▶ 調査期間

- ✓ 令和4年7月7日～令和4年7月29日

## ▶ 依頼校数

- ✓ 94校

## ▶ 協力許諾校数（依頼枚数）

- ✓ 80校（19,357枚）
  - ・ 本調査への協力を94校へ依頼し、許諾が得られた80校に計19,357枚調査票を送付。

## ▶ 回収校数（アンケート回収数）

- ✓ 77校（13,158枚）
  - ・ 調査票を送付した80校のうち、77校13,158人の回答を回収。

## ▶ 有効回答数

- ✓ 8,393人※女性のみ
  - ・ 77校13,158人には、男性の回答も含まれていたため、そのうち女性が回答した8,393人が有効回答数に該当。

## ▶ アンケートを回収した高等学校一覧

| No. | 高校名       |
|-----|-----------|
| 1   | 北海道札幌北陵   |
| 2   | 北海道小樽潮陵   |
| 3   | 北海道釧路明輝   |
| 4   | 北海道石狩南    |
| 5   | 北海道札幌英藍   |
| 6   | 北海道北見北斗   |
| 7   | 北海道釧路北陽   |
| 8   | 北星学園大学附属  |
| 9   | 市立札幌新川    |
| 10  | 市立札幌啓北商業  |
| 11  | 遺愛女子      |
| 12  | 北海道札幌白石   |
| 13  | 藤女子       |
| 14  | 北海道北広島    |
| 15  | 北海道旭川永嶺   |
| 16  | 北海道中標津    |
| 17  | 市立函館      |
| 18  | 市立札幌藻岩    |
| 19  | 北海道札幌国際情報 |
| 20  | 帯広大谷      |
| 21  | 北海道札幌稲雲   |
| 22  | 北海道大麻     |
| 23  | 北海道帯広南商業  |
| 24  | 北海道帯広緑陽   |
| 25  | 北海道札幌月寒   |
| 26  | 北海道札幌東陵   |
| 27  | 北海道札幌西    |
| 28  | 北海学園札幌    |
| 29  | 北海道留萌     |
| 30  | 北海道旭川商業   |
| 31  | 札幌新陽      |
| 32  | 札幌光星      |
| 33  | 北海道旭川南    |
| 34  | 北海道岩見沢東   |
| 35  | 北海道網走南ヶ丘  |
| 36  | 北海道苫小牧南   |
| 37  | 札幌大谷      |
| 38  | 北海道旭川東    |
| 39  | 北海道静内     |
| 40  | 北海道科学大学   |

| No. | 高校名       |
|-----|-----------|
| 41  | 北海道函館西    |
| 42  | 北海道苫小牧東   |
| 43  | 札幌龍谷学園    |
| 44  | 北海道小樽桜陽   |
| 45  | 北海        |
| 46  | 北海道岩見沢西   |
| 47  | 北海道石狩翔陽   |
| 48  | 北海道函館中部   |
| 49  | 札幌日本大学    |
| 50  | 北海道札幌丘珠   |
| 51  | 北海道遠軽     |
| 52  | 市立札幌清田    |
| 53  | 北海道北広島西   |
| 54  | 市立札幌旭丘    |
| 55  | 北海道釧路江南   |
| 56  | 北海道恵庭北    |
| 57  | 北海道札幌西陵   |
| 58  | 北星学園女子    |
| 59  | 北海道室蘭清水丘  |
| 60  | 北海道倶知安    |
| 61  | 小樽双葉      |
| 62  | 北海道札幌東商業  |
| 63  | 札幌静修      |
| 64  | 北海道札幌あすかぜ |
| 65  | 北海道江別     |
| 66  | 北海道名寄     |
| 67  | 北海道札幌真栄   |
| 68  | 札幌北斗      |
| 69  | 北海道旭川西    |
| 70  | 北海道北見柏陽   |
| 71  | 北海道釧路湖陵   |
| 72  | 北海道帯広柏葉   |
| 73  | 北海道札幌平岡   |
| 74  | 北海道滝川西    |
| 75  | 北海道札幌厚別   |
| 76  | 北海道滝川     |
| 77  | 札幌創成      |
|     |           |
|     |           |
|     |           |

## 北海道武蔵女子大学（仮称）の設置計画に関するアンケート

この調査は、高校2年生の皆さんに、高等学校卒業後の進路についてその意向や内容をお聞きして、学校法人北海道武蔵女子学園が経営・ビジネスを学ぶ女子大学「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置を構想する上での基礎資料とさせていただきます。調査結果は統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。別紙リーフレットを参考にしてください。回答のご協力をお願いいたします。

※リーフレット及びアンケートに記載されている「北海道武蔵女子大学（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

Q1. あなたの高校名

高等学校

Q2. あなたの性別（○をつけてください）

1. 男性

2. 女性

※ 1の方はこちらで終了になります

※ 2の方は Q3 以降の質問にお答えください

ここからは Q2 で「2. 女性」を選択した方に、進路についての考えをお聞きます。

Q3. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んで、番号に○をつけてください。

- |  |   |                            |
|--|---|----------------------------|
| 1. 大学<br>2. 短期大学<br>3. 専門職大学・専門職短期大学<br>4. 専門学校<br>5. 就職<br>6. その他（<br>7. まだ考えていない | } | 1～4を選んだ方は Q4 以降の質問にお答えください |
| 6. その他（  | } | 5以降を選んだ方はこちらで終了になります       |

Q4. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか？以下の中から興味のある分野を全て選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- |   |  |
|---|--|
| 1. 経営・経済・商学・ビジネス<br>3. 地球・環境・エネルギー<br>5. スポーツ・健康科学<br>7. 文化・地理・歴史<br>9. 栄養・食物学<br>11. 農学・生物学・獣医学<br>13. 芸術・文学・表現<br>15. 服飾・住居 | 2. 看護学・理学療法・作業療法・医療技術<br>4. 人間・心理・教育・福祉<br>6. 医学・歯学・薬学<br>8. 社会・法学・政治<br>10. 国際・語学<br>12. 数学・物理学・化学<br>14. 工学・建築学・技術<br>16. その他（ |
|---|--|

Q5. 高校卒業後、どのエリアでの進学を希望しますか。最も進学したいと思うエリアを一つ選んで番号に○をつけてください。

- |                              |                                   |                                  |                     |
|------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 1. 北海道<br>5. 北陸地方<br>9. 四国地方 | 2. 東北地方<br>6. 東海地方<br>10. 九州・沖縄地方 | 3. 関東地方<br>7. 近畿地方<br>11. その他・海外 | 4. 甲信越地方<br>8. 中国地方 |
|------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------|

裏面もあります

ここからは、現在設置計画中の「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」についてお聞きします。  
 配付したリーフレットをお読みいただいた後、お答えください。

Q6. 北海道武蔵女子大学（仮称）は2024年に下記のa～fの特色をもって開学する予定です。下記のa～fがどの程度魅力があるかお答えください。（a～fの各項目について、それぞれあてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。）

| 北海道武蔵女子大学（仮称）<br>経営学部 経営学科（仮称）の特色 |   | (A)<br>大いに魅力<br>的である | (B)<br>魅力的で<br>ある | (C)<br>やや魅力<br>的である | (D)<br>魅力的で<br>はない | (E)<br>全く魅力的<br>ではない |
|-----------------------------------|---|----------------------|-------------------|---------------------|--------------------|----------------------|
| a                                 | 母体となる北海道武蔵女子学園は50年以上、女子教育を行ってきた実績があり、「就愚の武蔵」と形容され、2万人を超える卒業生が北海道を中心に活躍している。       | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |
| b                                 | 少人数で、対話的・主体的なゼミナール型授業を中心にカリキュラムが組まれており、他者と共に主体的に学び、想像力・構想力をもって課題を解決する力を得ることが出来る。  | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |
| c                                 | 社会に出て活躍できる現代女性を育成するため、女子のリーダーシップ教育が充実しており、女子大ならではの、チームで学ぶ機会を多く得ることができる。           | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |
| d                                 | 教養教育が充実しており、すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性となるための教育を受けることができる。       | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |
| e                                 | ビジネスに関する学びと心理学を融合した学びができ、購買動機の心理的影響など、人の心とビジネスの関係について学ぶことができる。                    | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |
| f                                 | ビジネスに関する学びにデザイン、ICT、情報などの学びもでき、Web・ポスターなどの情報デザインや今後社会で必要となるデータの収集分析についても学ぶことができる。 | 1                    | 2                 | 3                   | 4                  | 5                    |

Q7. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科（仮称）」が開設された場合、どの程度受験を希望しますか。  
 最もあてはまる選択肢を一つ選んで番号に○をつけてください。

1. ぜひ受験したい      2. 受験したい      3. 受験先の候補として検討する  
 4. あまり受験先としては考えない      5. 受験先としては考えない

Q8. Q7で「1. ぜひ受験したい」「2. 受験したい」「3. 受験先の候補として検討する」とお答えいただいた方に伺います。  
受験して合格した場合、入学を希望しますか。一つ選んで番号に○をつけてください。

1. ぜひ入学したい      2. 入学したい      3. 入学先の候補として検討する  
 4. あまり入学先としては考えない      5. 入学先としては考えない

Q9. 「北海道武蔵女子大学（仮称）」について、お気づきの点・ご要望などがございましたら、ご記入ください。

アンケートはこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

問い合わせ先：北海道武蔵女子大学設置準備室（担当：網川）

TEL 011-726-3141      FAX 011-726-3144

2024年4月 北海道武蔵女子大学 開設予定

学校法人北海道武蔵女子学園は、短大とともにこれからの女子教育を支え続けます。

北海道武蔵女子学園について

限らない可能性をもつ北海道の地に、敢断して充実した女子の高等教育を行う短期大学との思いから、東京・武蔵大学の同窓有志と地共有力者により、1967年に北海道武蔵女子短期大学が創設。

建学当初から「すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲」という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性を養成すること、を教育目標とし、少人数教育で学生と教職員の人間的交流を大切にされてきました。

そのような日常的なコミュニケーションに加え、充実したキャリア教育を通じて社会人としての「礼節」を重んじてきた本学園は、いっしょに「就職の武蔵」と称され、社会から高い評価を受けてきました。

10年先を見据えた力を。

女性の就業率や役員数の上昇は、「女性」の生き方の多様化を促しているといわれています。北海道武蔵女子学園は、女性の人生を豊かにするために、四大を開設し、一人ひとりの理想を実現するための教育を展開していきます。

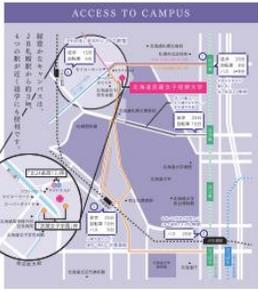


北海道武蔵女子大学 設置概要

|               |                       |
|---------------|-----------------------|
| ● 学部名称：経営学部   | ● 学費（予定額）             |
| ● 学 位：学士（経営学） | 初年度納入金 1,180,000円     |
| ● 学科名称：経営学科   | （入学金 165,000円を含む）     |
| ● 入学定員：80名    | ● 設置場所：札幌市北区北22条西13丁目 |

同系統の近隣大学学部

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| ● 北海道大学 経済学部  | ● 北星学園大学 経済学部   |
| ● 小樽商科大学 商学部  | ● 札幌学院大学 経済経営学部 |
| ● 北海学園大学 経営学部 | ● 札幌大学 地域共創学部   |



MUSASHI WEB CONTENTS

Instagram

学生スタッフブログ

むさしのいろは

YouTube

学校法人北海道武蔵女子学園  
北海道武蔵女子大学 設置準備室

〒001-0022 札幌市北区北22条西13丁目  
TEL. 011-726-3141 MAIL. shomu@hmjc.jp

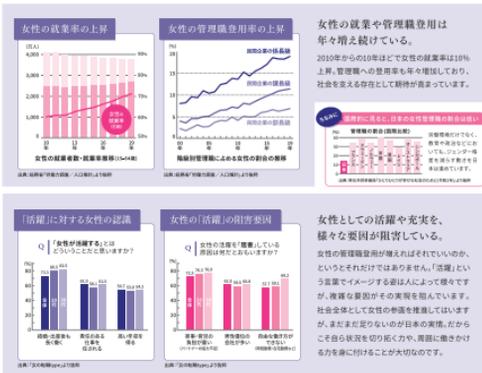
「女性が活躍できる社会」とは？

北海道武蔵女子大学 経営学部 (仮称)  
2024年4月開設予定 (設置構想中)

誇れる、私に。 北海道武蔵女子短期大学

道内初・女子のための経営学部が、札幌ではじまります。

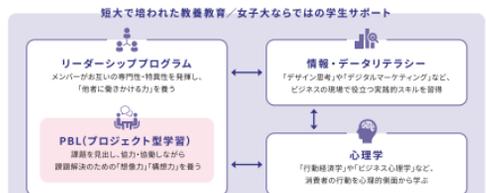
女性を取り巻く環境



なぜ「経営学部」なのか？



どのように学ぶのか？

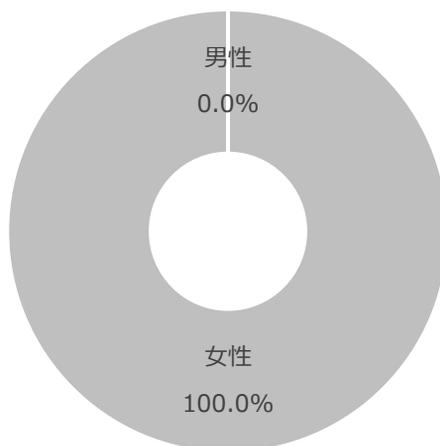


時代に必要とされるスキルや知識を習得しながら、これからの社会をリードする力を身に付けます。



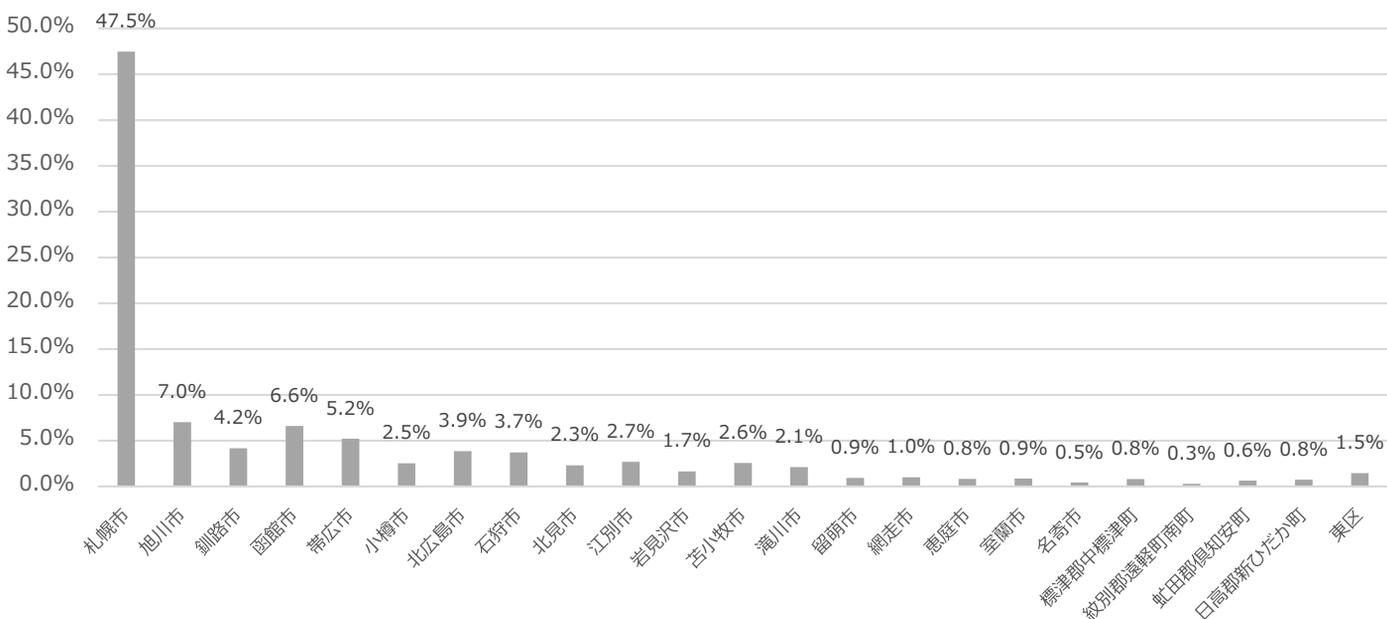
手馴れた環境においても、豊かな想像力、構想力、実践力を持ち、多様な価値観や視点を持つ人々と協働する力で社会を明るくする人材の育成を目指します。

## ◆性別



(n=8393)

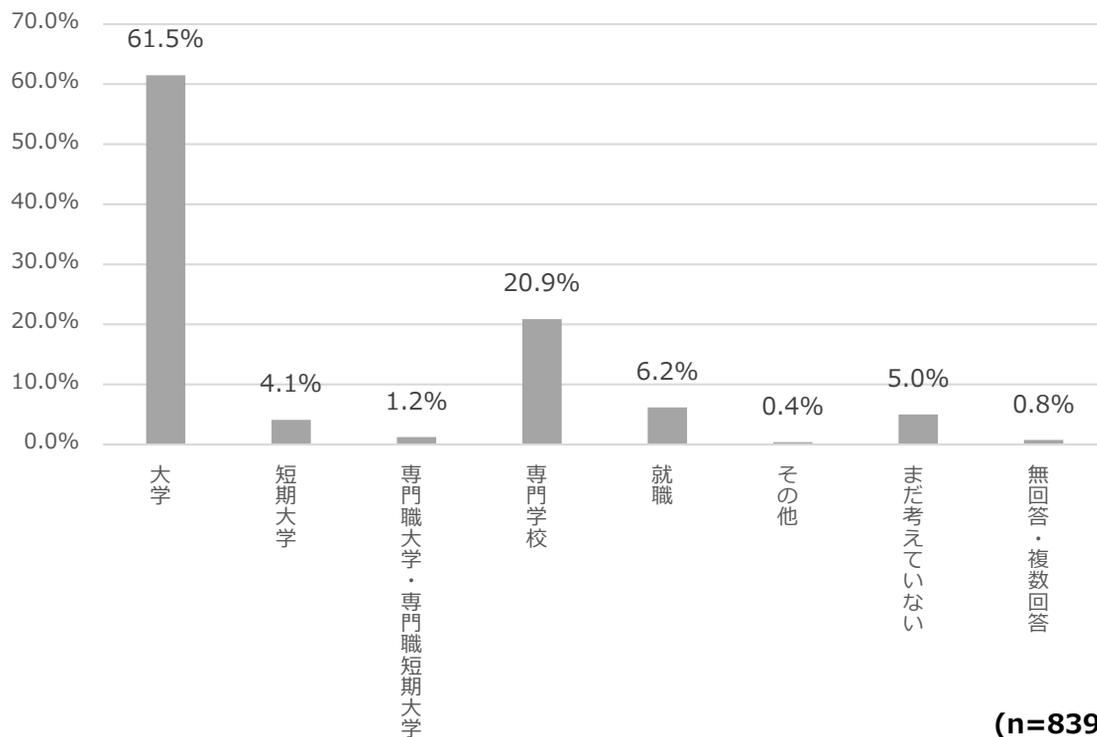
## ◆高校所在地



(n=8393)

## ◆ 高校卒業後の希望進路

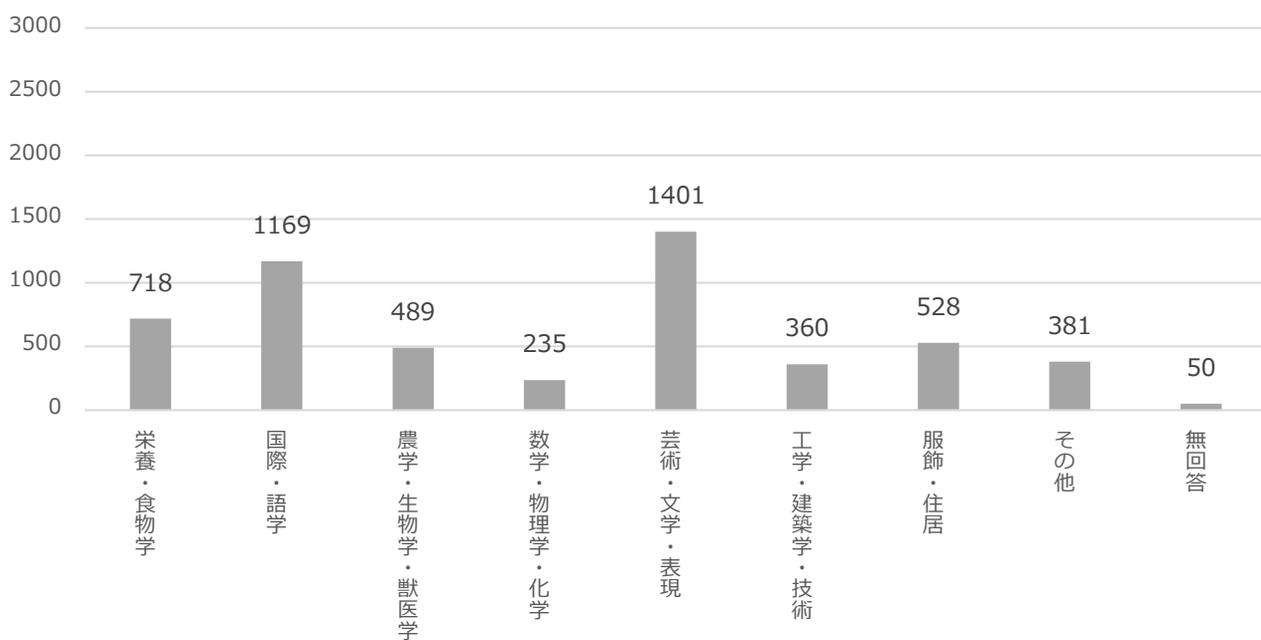
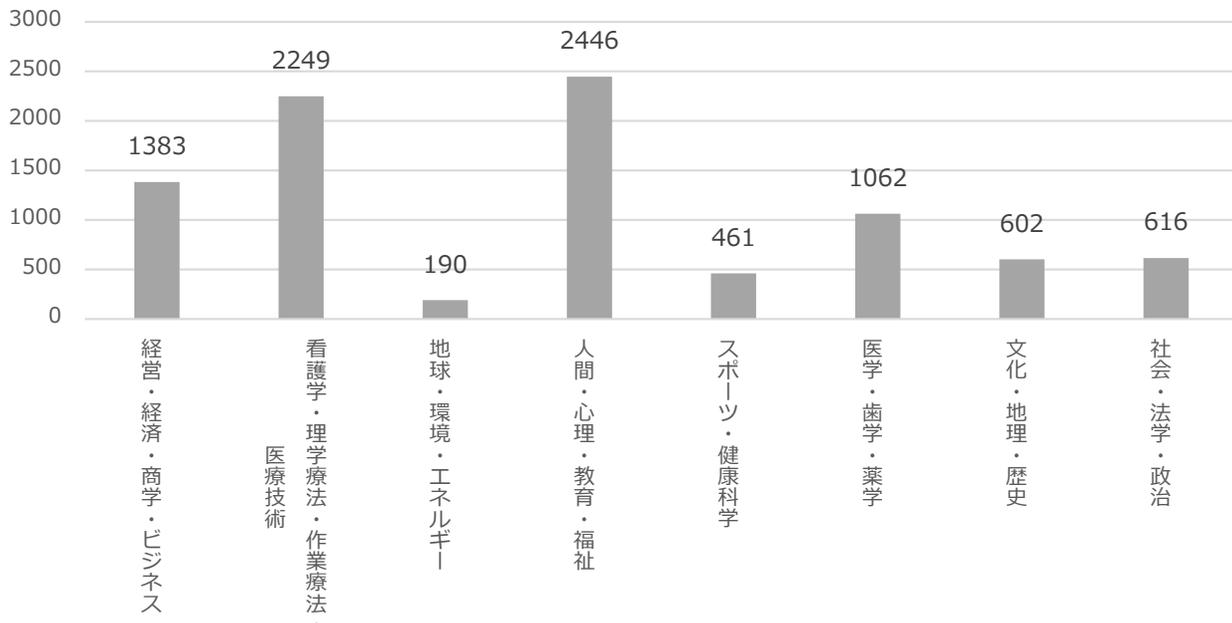
Q3. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。  
最もあてはまる選択肢を一つ選んで、番号に○をつけてください。



## ◆希望する学問系統

Q4. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか？  
以下の中から興味のある分野を全て選んで番号に○をつけてください。  
(複数回答可)

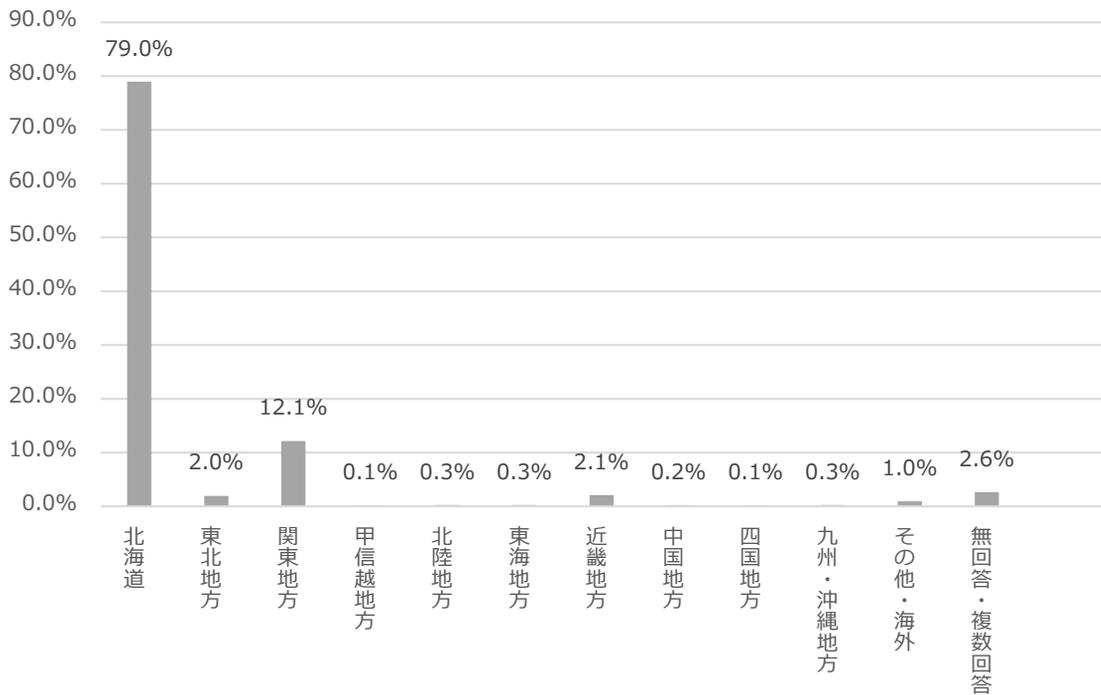
(単位：人)



(n=7360)

## ◆希望する進学エリア

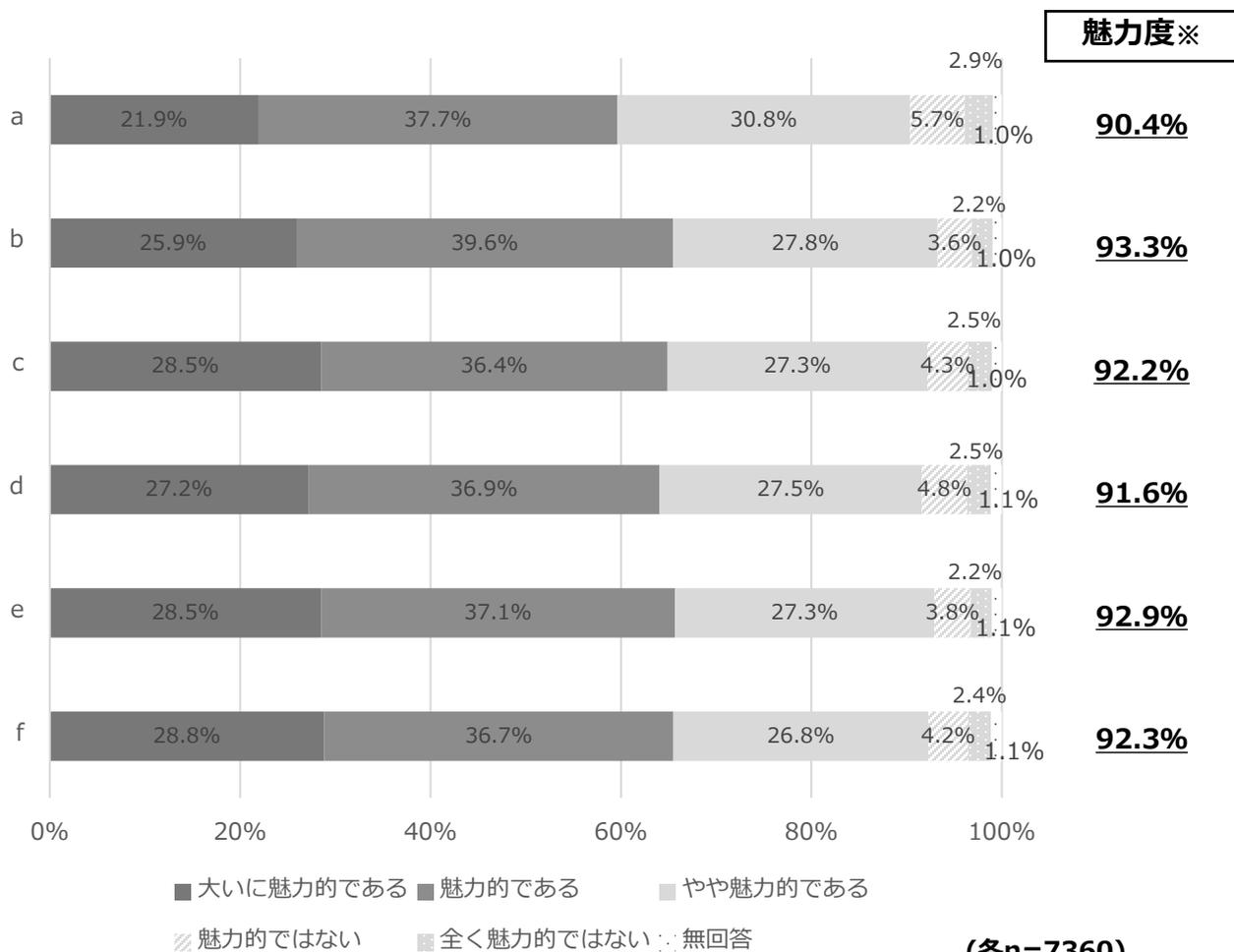
Q5. 高校卒業後、どのエリアでの進学を希望しますか。最も進学したいと思うエリアを一つ選んで番号に○をつけてください。



(n=7360)

## ◆特色に対する魅力調査

Q6. 北海道武蔵女子大学（仮称）は2024年に下記のa～fの特色をもって開学する予定です。下記のa～fがどの程度魅力があるかお答えください。（a～fの各項目について、それぞれあてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。）



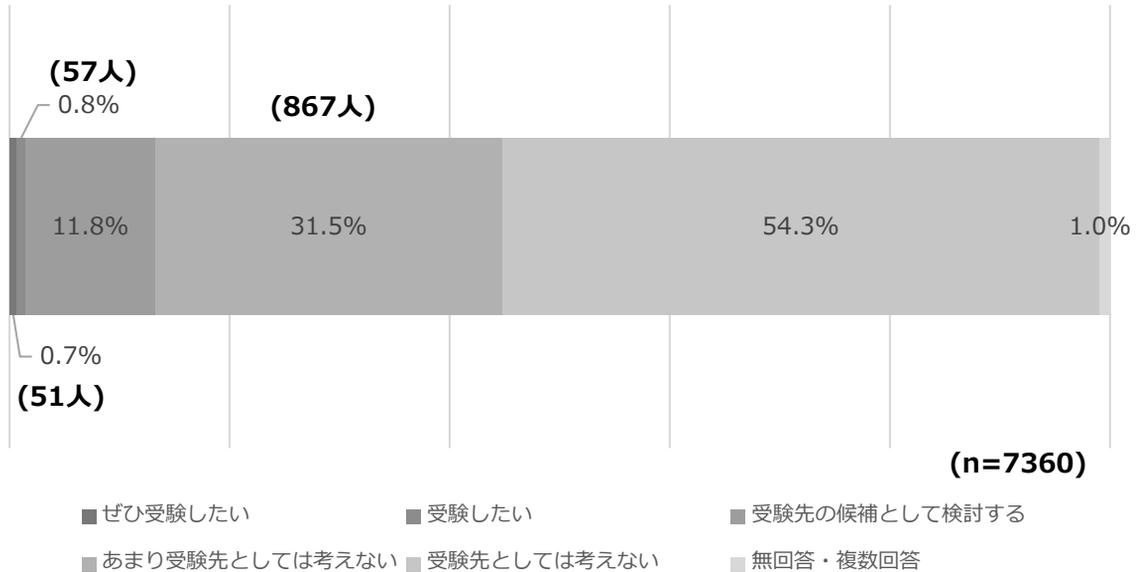
(※)魅力度は「大いに魅力的である」「魅力的である」「やや魅力的である」と特色に対して肯定的な回答した割合  
特色内容については次頁参照

## ◆特色一覧

| 北海道武蔵女子大学 (仮称)<br>経営学部 経営学科 (仮称) の特色 |   |
|--------------------------------------|---|
| a                                    | 母体となる北海道武蔵女子学園は50年以上、女子教育を行ってきた実績があり、「就職の武蔵」と形容され、2万人を超える卒業生が北海道を中心に活躍している。       |
| b                                    | 少人数で、対話的・主体的なゼミナール型授業を中心にカリキュラムが組まれており、他者と共に主体的に学び、想像力・構想力をもって課題を解決する力を得ることが出来る。  |
| c                                    | 社会に出て活躍できる現代女性を育成するため、女子のリーダーシップ教育が充実しており、女子大ならではの、チームで学ぶ機会を多く得ることができる。           |
| d                                    | 教養教育が充実しており、すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性となるための教育を受けることができる。       |
| e                                    | ビジネスに関する学びと心理学を融合した学びができ、購買動機の心理的な影響など、人の心とビジネスの関係について学ぶことができる。                   |
| f                                    | ビジネスに関する学びにデザイン、ICT、情報などの学びもでき、Web・ポスターなどの情報デザインや今後社会で必要となるデータの収集分析についても学ぶことができる。 |

## ◆北海道武蔵女子大学(仮称)「経営学部経営学科」への受験意向/入学意向

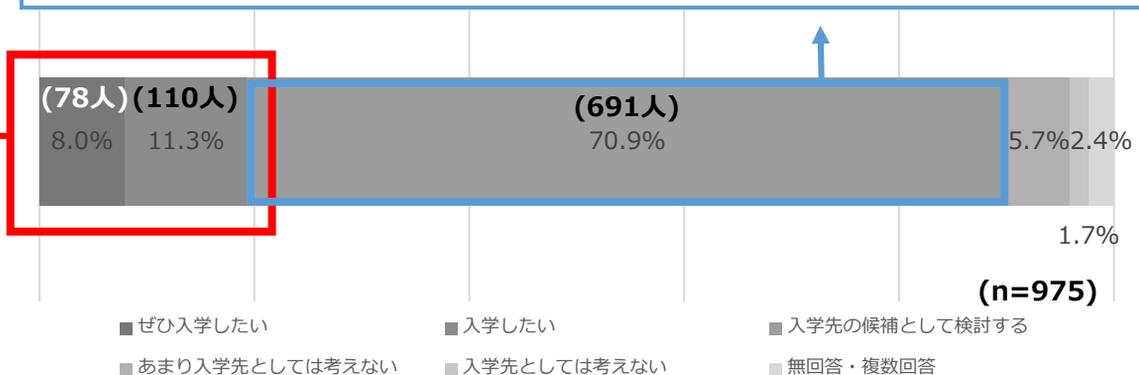
Q7. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科 (仮称)」が開設された場合、どの程度受験を希望しますか。最もあてはまる選択肢を一つ選んで番号に○をつけてください。



「ぜひ受験したい」「受験したい」「受験先の候補として検討する」を回答した975名を抽出

Q8. Q7で「1. ぜひ受験したい」「2. 受験したい」「3. 受験先の候補として検討する」とお答えいただいた方に伺います。受験して合格した場合、入学を希望しますか。一つ選んで番号に○をつけてください。

691名が「入学先の候補として検討する」と回答。(以降「入学検討者」とする)  
※17ページ以降、入学検討者691名の詳細調査を実施



78名が「ぜひ入学したい」110名が「入学したい」と回答。(以降「入学意向者」とする) 定員80名の2.35倍である188名の入学意向者が確認できた。※19ページに入学意向者188名の詳細調査を実施

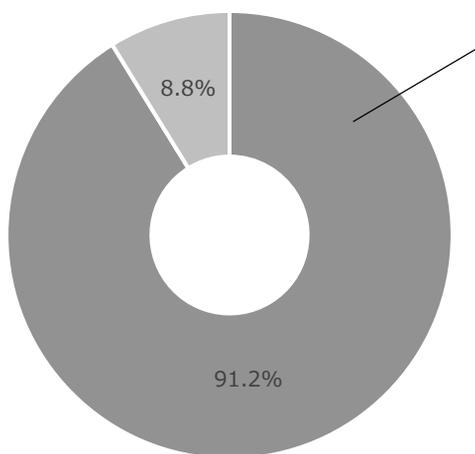
### ◆入学検討者確保の可能性検証（更なる入学意向者確保の可能性）（1/2）

北海道武蔵女子大学(仮称)の  
入学検討者

# 691名

入学検討者691名が北海道武蔵女子大学（仮称）の特徴に対して、どの程度魅力的に感じているのか、Q6の回答の結果により、確認した

#### Q8. 入学検討者691名のQ6の回答結果



新設大学の特色6つ全てに「大いに魅力的である」、「魅力的である」、「やや魅力的である」のいずれかを回答した高校生

## 630名（91.1%）

※なお、特色6つ全てに「大いに魅力的である」と回答した人数は131名（20.7%）となった

- 「大いに魅力的である」、「魅力的である」、「やや魅力的である」のいずれかを回答
- その他

**入学を検討している691名のうち、630名（91.1%）が北海道武蔵女子大学(仮称)の特色を魅力的であると感じている。**

## ◆入学検討者確保の可能性検証 (更なる入学意向者確保の可能性) (2/2)

北海道武蔵女子大学(仮称)の  
入学検討者 **691名**

入学検討者691名の希望する進路を  
Q3、Q4、Q5の質問のクロス集計により確認した

### ■進学検討者691名のQ5の回答結果

| 北海道で進学したい<br>(Q5にて「北海道」を選択) | 北海道で進学したくない<br>(Q5にて「北海道」を選択していない) | 合計  |
|-----------------------------|------------------------------------|-----|
| 565                         | 126                                | 691 |

### ■北海道に進学を希望する進学検討者565名のQ3、Q4の回答結果

|                    | 経営・経済・商学・ビジネスの<br>学びに興味がある      | 経営・経済・商学・ビジネスの<br>学びに興味がない | 合計  |
|--------------------|---------------------------------|----------------------------|-----|
| 4年制大学に<br>進学を希望する  | 236<br>※新設大学と希望進路が合致する<br>入学検討者 | 207                        | 443 |
| 4年制大学に<br>進学を希望しない | 34                              | 88                         | 122 |
| 合計                 | 270                             | 295                        | 565 |

特色6つ全てに「大いに魅力的である」「魅力的である」「やや魅力的である」のいずれかを回答した高校生数

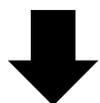
**218名 (92.3%)**

入学を検討している691名のうち、236名は希望進路の内容が北海道武蔵女子大学(仮称)と合致し、うち218名(92.3%)は新設大学の特色を魅力的であると感じている。

## ◆入学意向者の詳細分析 (確実な入学意向者確保について)

北海道武蔵女子大学(仮称)の  
入学意向者

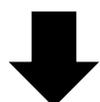
# 188名



Q5.希望する進学エリアにて  
「北海道」を選択した学生を抽出

北海道武蔵女子大学(仮称)の  
入学意向者  
(北海道への進学希望者を抽出)

# 161名



Q3.希望進路とQ4.興味のある学びの分野  
でクロス集計を実施

|  | 経営・経済・商学・ビジネスの<br>学びに興味がある<br>(Q4にて「経営・経済・商学・ビジネス」を<br>選択) | 経営・経済・商学・ビジネス<br>の学びに興味がない<br>(Q4にて「経営・経済・商学・ビジネス」を<br>選択していない) | 合計  |
|--|--|---|-----|
| 4年制大学に<br>進学を希望する<br>(Q3にて「大学」を選<br>択)     | 59<br>※新設大学と希望進路が合致す<br>る入学意向者                             | 38<br>※入学意向はあるが、希望する学<br>びの分野が合致しない                             | 97  |
| 4年制大学に<br>進学を希望しない<br>(Q3にて「大学」を選<br>択しない) | 29<br>※入学意向はあるが、希望進路<br>の学校種が合致しない                         | 35  | 64  |
| 合計   | 88   | 73  | 161 |

4年制大学の魅力をPRすることでより  
高い入学意向を得られる可能性

経営・経済・商学・ビジネスの魅力や、新設大学において心  
理学等の他の分野の学びもできることをPRすることでより高  
い入学意向を得られる可能性

### 「調査の目的」

「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置構想がどの程度高校2年生の進学需要に合致するかどうかの程度入学意向者が確保できるか調査した。



### 「結論①」

アンケートの結果では188名の高校生から入学意向※1を確認できた、これは定員80名の2.35倍の値である。

「北海道武蔵女子大学（仮称）」の学生確保の見通しは高い。

※1入学意向者：「ぜひ受験したい」「受験したい」「受験先の候補として検討する」のどれかを回答し、かつ「ぜひ入学したい」「入学したい」と回答した人の数

### 「結論②」

入学意向者の更なる確保のため、「入学を検討する」と回答した入学検討者691名の入学見込みの可能性を検証した結果。

i)入学を検討している691名のうち、630名（91.3%）が北海道武蔵女子大学(仮称)の特色を魅力的であると感じている。

ii)入学を検討している691名のうち、236名（37.4%）は希望進路と北海道武蔵女子大学(仮称)の内容が合致している。

iii)希望進路と北海道武蔵女子大学(仮称)の内容が合致しており、かつ北海道武蔵女子大学(仮称)の特色を魅力的であると感じている高校生は218名いる。

i) ii) iii)より、入学検討者のなかでも希望進路と新設大学の内容が合致し、特色への魅力を感じている見込みの高い層が存在するため、高見込み層へのPRを強化することで、結論①以上の入学者数を確保できる可能性がある。

# 人材需要に関する調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 学校法人北海道武蔵女子学園が計画している「北海道武蔵女子大学（仮称）」の卒業生の就職が想定される企業等に対し、北海道武蔵女子大学（仮称）の卒業生への採用意向を調査し、人材需要を把握することを目的とする。

## ▶ 調査対象

- ✓ 北海道所在の企業を中心とした全国の企業にアンケート調査を実施した。
  - 郵送にてアンケート調査票の配布を実施。

## ▶ 調査期間

- ✓ 令和4年7月19日～令和4年8月5日

## ▶ アンケート協力許諾企業数

- ✓ 460企業（許諾率23.64%）
  - 本調査への協力を1,946企業へ依頼し、そのうち460企業が調査票を返送

## ▶ アンケート有効回答数

- ✓ 460企業（有効回答率100.00%）
  - 収集した460件の調査票は、全て有効回答に該当

## ▶ 調査協力企業

| No. | 企業名                       |
|-----|---------------------------|
| 1   | 北いぶき農業協同組合                |
| 2   | 函館市役所                     |
| 3   | 株式会社 I S D                |
| 4   | 札幌制御システム株式会社              |
| 5   | 横浜冷凍株式会社                  |
| 6   | 医療法人新産健会                  |
| 7   | 株式会社ジェイアール東海バスセンター        |
| 8   | 株式会社王将フードサービス             |
| 9   | (株) アルファベットパステル           |
| 10  | 株式会社エムオーテック札幌支店           |
| 11  | 株式会社マツオ                   |
| 12  | 女満別町農業協同組合                |
| 13  | 警視庁                       |
| 14  | 日免オートシステム株式会社             |
| 15  | 株式会社カナモト                  |
| 16  | 三菱商事株式会社北海道支社             |
| 17  | 株式会社ジャパンテックニカルソフトウェア北海道本社 |
| 18  | 北海道グリーン・システム株式会社          |
| 19  | 東京海上日動火災保険株式会社北海道業務支援部    |
| 20  | 株式会社オルゴール堂                |
| 21  | 十勝池田町農業協同組合               |
| 22  | (企業名無し)                   |
| 23  | 株式会社北洋銀行                  |
| 24  | 株式会社エフシーテクノロジー            |
| 25  | インプレックスアンドカンパニー株式会社       |
| 26  | 株式会社グランベルホテル              |
| 27  | シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社     |
| 28  | 留萌信用金庫                    |
| 29  | 北見市役所                     |
| 30  | 株式会社ケアスタッフ                |
| 31  | P H C メディコム株式会社           |
| 32  | 株式会社科学飼料研究所動薬部札幌事業所       |
| 33  | 北ガスサービス株式会社 C-Pro's       |
| 34  | 株式会社宮田自動車商会               |
| 35  | 清里町農業協同組合                 |
| 36  | 株式会社ベストプラクティス             |
| 37  | 今金町農業協同組合                 |
| 38  | 株式会社アミノアップ化学              |
| 39  | ネットヨタ函館株式会社               |
| 40  | 株式会社エルセーヌ・ファクトリー          |
| 41  | 株式会社ホンダカーズ南札幌             |
| 42  | 日鉄セメント株式会社                |
| 43  | きたそらち農業協同組合               |
| 44  | 日高信用金庫                    |
| 45  | 旭川トヨタ自動車株式会社              |
| 46  | 旭川信用金庫                    |
| 47  | ふらの農業協同組合                 |
| 48  | 北門信用金庫                    |
| 49  | 株式会社知床グランドホテル             |
| 50  | 湧別町農業協同組合                 |
| 51  | 北オホーツク農業協同組合              |
| 52  | 釧路トヨタ自動車株式会社              |
| 53  | 社会医療法人蘭友会札幌里塚病院           |
| 54  | 杉原建設株式会社                  |
| 55  | 株式会社あいプラン                 |
| 56  | 株式会社流研                    |
| 57  | ムトーアイテックス株式会社札幌支店         |
| 58  | 株式会社ロジネットジャパン             |
| 59  | 株式会社北海道通信社                |
| 60  | 社会福祉法人悠生会                 |

| No. | 企業名                   |
|-----|-----------------------|
| 61  | 株式会社プライムツーン           |
| 62  | 中央バスビジネスサービス株式会社      |
| 63  | 株式会社ダイイチ              |
| 64  | 北燃商事株式会社              |
| 65  | 札幌市農業協同組合             |
| 66  | 株式会社セコマ               |
| 67  | 網走信用金庫                |
| 68  | 株式会社菅野組               |
| 69  | 佐川印刷株式会社              |
| 70  | 株式会社北海道総合技術研究所        |
| 71  | 晃栄化学工業株式会社            |
| 72  | 北海道農業団体健康保険組合         |
| 73  | 株式会社鈴木商会              |
| 74  | 株式会社フィーリスト            |
| 75  | リンケーサービス株式会社          |
| 76  | トヨタモビリティパーツ株式会社       |
| 77  | 北ガスフレアスト株式会社          |
| 78  | 株式会社電通北海道             |
| 79  | 株式会社大建設               |
| 80  | 株式会社トラスティア            |
| 81  | 北海道建物株式会社             |
| 82  | ぎょれんマリノサポート株式会社       |
| 83  | 北海道ホルスタイン農業協同組合       |
| 84  | ホクレン運輸株式会社            |
| 85  | A L S O K 北海道株式会社     |
| 86  | 防衛省                   |
| 87  | 稚内信用金庫                |
| 88  | 芽室町農業協同組合             |
| 89  | 株式会社 I・T E C ソリューションズ |
| 90  | 大鎮キムラ建設株式会社           |
| 91  | 北海道保証牛乳株式会社           |
| 92  | 門別町農業協同組合             |
| 93  | 株式会社コハタ               |
| 94  | 旭川スズキ販売株式会社           |
| 95  | SMB C 日興証券株式会社        |
| 96  | きょうわ農業協同組合            |
| 97  | きたみらい農業協同組合           |
| 98  | 余市町農業協同組合             |
| 99  | 伊達信用金庫                |
| 100 | ヤンマーアグリジャパン北海道支社      |
| 101 | 株式会社エコテック・ワン          |
| 102 | アサヒ住宅株式会社             |
| 103 | セガサミーゴルフエンタテインメント株式会社 |
| 104 | 日本通運株式会社札幌支店          |
| 105 | 北海道医療健康保険組合           |
| 106 | 中央信用組合                |
| 107 | ダットジャパン株式会社           |
| 108 | 自衛隊                   |
| 109 | 道都化学産業株式会社            |
| 110 | 株式会社モロオ               |
| 111 | 株式会社かんばん生命保険札幌支店      |
| 112 | 道南うみ街信用金庫             |
| 113 | 北空知信用金庫               |
| 114 | 日本メディカルプロダクツ株式会社      |
| 115 | 北海道国民健康保険団体連合会        |
| 116 | 旭川市役所                 |
| 117 | 株式会社三ツ星レストランシステム      |
| 118 | エイジス北海道株式会社           |
| 119 | 株式会社日本経営札幌オフィス        |
| 120 | ANA クアパザ 札幌札幌         |

## ▶ 調査協力企業

| No. | 企業名                    |
|-----|------------------------|
| 121 | ソニー損害保険株式会社札幌コンタクトセンター |
| 122 | 社会福祉法人善光会              |
| 123 | As-meエステール株式会社         |
| 124 | 株式会社夢テクノロジー            |
| 125 | 社会医療法人翔会札幌白石記念病院       |
| 126 | 北海道イシダ株式会社             |
| 127 | ディエスイー株式会社             |
| 128 | 学校法人北海道星槎学園星槎道都大学      |
| 129 | 名鉄観光サービス株式会社           |
| 130 | 株式会社日本旅行北海道            |
| 131 | 社会福祉法人北翔会              |
| 132 | 日比谷総合設備株式会社北海道支店       |
| 133 | 株式会社もりもと               |
| 134 | 創和プロジェクト株式会社           |
| 135 | 札幌ポデー工業株式会社            |
| 136 | 株式会社上越観光開発             |
| 137 | 株式会社きのとや               |
| 138 | 一般社団法人中部産業連盟           |
| 139 | 有限会社ホテルデトラ             |
| 140 | 羅臼漁業協同組合               |
| 141 | たいせつ農業協同組合             |
| 142 | 高砂酒造株式会社               |
| 143 | 株式会社北海道プ               |
| 144 | 津別町農業協同組合              |
| 145 | 北見信用金庫                 |
| 146 | 六花亭製菓株式会社              |
| 147 | ホクレン農業協同組合連合会          |
| 148 | ハミューレ株式会社              |
| 149 | 北海道三菱電機販売株式会社          |
| 150 | 大地みらい信用金庫              |
| 151 | 一般財団法人北海道農業協同組合学校      |
| 152 | 大槻食材株式会社               |
| 153 | 小部産業株式会社               |
| 154 | 株式会社常口アトム              |
| 155 | j. union株式会社           |
| 156 | 廣告社株式会社札幌支社            |
| 157 | タキイ種苗株式会社              |
| 158 | 釧路ガス株式会社               |
| 159 | ランスタッド株式会社札幌オフィス       |
| 160 | 美瑛町農業協同組合              |
| 161 | 新冠町農業協同組合              |
| 162 | 株式会社アスピック              |
| 163 | 大丸株式会社                 |
| 164 | 株式会社トヨタレンタリース新札幌       |
| 165 | 株式会社アラゼン               |
| 166 | 栗林海陸輸送株式会社             |
| 167 | 北海道日産自動車株式会社           |
| 168 | 株式会社北弘電社               |
| 169 | 旭川トヨベツ株式会社             |
| 170 | 永浜クロス株式会社              |
| 171 | 日本都市設計株式会社             |
| 172 | 株式会社ニチレイ・ロジスティクス北海道    |
| 173 | 法務省札幌矯正管区              |
| 174 | 北海道農業信用基金協会            |
| 175 | 全国労働者共済生活協同組合連合会北海道本部  |
| 176 | ネットトヨタ札幌株式会社           |
| 177 | 山藤三陽印刷株式会社             |
| 178 | 株式会社中山組                |
| 179 | 社会福祉法人札幌厚生会            |
| 180 | 株式会社北海道ジェイ・アール商事       |

| No. | 企業名                        |
|-----|----------------------------|
| 181 | ホテルソニア小樽(株)マイステイズホテルマネジメント |
| 182 | 道東あさひ農業協同組合                |
| 183 | 旭東清掃株式会社                   |
| 184 | 株式会社サンドラックプラス              |
| 185 | 熊澤歯科クリニック                  |
| 186 | 十勝清水町農業協同組合                |
| 187 | フラワーヒルズ株式会社                |
| 188 | 株式会社三菱地所設計北海道支店            |
| 189 | トヨタモビリティ釧路株式会社             |
| 190 | 株式会社北一硝子                   |
| 191 | 石狩市役所                      |
| 192 | 株式会社合田観光商事                 |
| 193 | 札幌中央信用組合                   |
| 194 | 札幌アポロ石油株式会社                |
| 195 | 医療法人社団手稲ネフロクリニック           |
| 196 | 十勝三菱自動車販売(株)               |
| 197 | 新砂川農業協同組合                  |
| 198 | 太平洋興産株式会社                  |
| 199 | とうや湖農業協同組合                 |
| 200 | 一般社団法人北海道中小企業家同友会          |
| 201 | 北海道信用農業協同組合連合会             |
| 202 | 株式会社コア北海道カンパニー             |
| 203 | 株式会社ほくやく                   |
| 204 | 株式会社ライセンスアカデミー札幌支社         |
| 205 | 北海道漁業共済組合                  |
| 206 | 岩田地崎建設株式会社                 |
| 207 | 中標津町農業協同組合                 |
| 208 | 東海澱粉株式会社札幌事業所              |
| 209 | 電気技術開発株式会社                 |
| 210 | 株式会社アドヴァンスト・ソフト・エンジニアリング   |
| 211 | 株式会社クリエイティブスポーツ・オバラ        |
| 212 | 中札内村農業協同組合                 |
| 213 | 本別町農業協同組合                  |
| 214 | 釧路信用組合                     |
| 215 | 釧路信用金庫                     |
| 216 | 鶴雅リゾート株式会社                 |
| 217 | 常呂町農業協同組合                  |
| 218 | 佐呂間町農業協同組合                 |
| 219 | ジェイアール北海道エンジニアリング株式会社      |
| 220 | NX機工株式会社                   |
| 221 | 株式会社 HBA                   |
| 222 | オホーツクはまなす農業協同組合            |
| 223 | 株式会社ファイブフォックス              |
| 224 | アストモスガスリテイリング株式会社          |
| 225 | 株式会社札幌オーバーシーズコンサルタント       |
| 226 | 株式会社エーブル                   |
| 227 | 株式会社タカキュー                  |
| 228 | 北海道セキスイハイム工業株式会社           |
| 229 | 株式会社カーブスジャパン               |
| 230 | セントラルスポーツ株式会社              |
| 231 | 帯広市川西農業協同組合                |
| 232 | 公益財団法人北海道結核予防会             |
| 233 | 江別市役所                      |
| 234 | 株式会社エネサンス北海道               |
| 235 | 峰延農業協同組合                   |
| 236 | しずない農業協同組合                 |
| 237 | 株式会社どんぐり                   |
| 238 | 日興通信株式会社                   |
| 239 | 株式会社NTTデータMSE              |
| 240 | シンセメック株式会社                 |

## ▶ 調査協力企業

| No. | 企業名                     |
|-----|-------------------------|
| 241 | 北海道中小企業団体中央会            |
| 242 | 北海道信用金庫                 |
| 243 | 株式会社工コ配                 |
| 244 | 株式会社キャン                 |
| 245 | 日本ハウズイング株式会社            |
| 246 | 株式会社柳月                  |
| 247 | 株式会社ソラチ                 |
| 248 | 株式会社ナイスクラブ              |
| 249 | 株式会社エスネットワークス           |
| 250 | 株式会社GRACIS              |
| 251 | JAびらとり                  |
| 252 | 株式会社魚国総本社               |
| 253 | 株式会社加森観光                |
| 254 | 株式会社れんせい                |
| 255 | 野村證券株式会社札幌支店            |
| 256 | 株式会社ウエス                 |
| 257 | あいおいニッセイ同和損害保険株式会社札幌支店  |
| 258 | 株式会社ハスコムモバイル            |
| 259 | 株式会社光合金製作所              |
| 260 | 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院      |
| 261 | 株式会社アレフ                 |
| 262 | 株式会社図書館流通センター           |
| 263 | 株式会社ゆうちょ銀行北海道エリア本部      |
| 264 | 小野寺燃料株式会社               |
| 265 | 株式会社マルコウ                |
| 266 | 株式会社J A北海道情報センター        |
| 267 | 株式会社豊通マシナリー             |
| 268 | 株式会社中神土木設計事務所           |
| 269 | 岡三証券株式会社                |
| 270 | 北広島市役所                  |
| 271 | 株式会社共立メンテナンス            |
| 272 | 株式会社LAVAI International |
| 273 | ピンネ農業協同組合               |
| 274 | 株式会社みつ葉グループ             |
| 275 | 遠軽信用金庫                  |
| 276 | (株)ベオスアイティールディングス       |
| 277 | 新函館農業協同組合               |
| 278 | 豊頃町農業協同組合               |
| 279 | 帯広大正農業協同組合              |
| 280 | 北星信用金庫                  |
| 281 | 東邦ホールディングス株式会社          |
| 282 | 空知信用金庫                  |
| 283 | 株式会社アイビック               |
| 284 | 千歳市役所                   |
| 285 | 北海道セキスイハイム株式会社          |
| 286 | 秋山興業株式会社                |
| 287 | 株式会社日の丸産業社              |
| 288 | 拓北電業株式会社                |
| 289 | 株式会社ホンダカース札幌中央          |
| 290 | プロテック株式会社               |
| 291 | 北一ミート株式会社               |
| 292 | 株式会社弁釜                  |
| 293 | 株式会社住まいのクワザワ            |
| 294 | 綜合理材株式会社                |
| 295 | 日本建機サービス販売株式会社          |
| 296 | 株式会社道新サービスセンター          |
| 297 | 大栄建設株式会社                |
| 298 | 日精機工株式会社                |
| 299 | 松岡満運輸株式会社               |
| 300 | 株式会社N I C H I J O       |

| No. | 企業名                     |
|-----|-------------------------|
| 301 | 株式会社デンフードサービス           |
| 302 | トーホウリゾート株式会社            |
| 303 | 株式会社三ツ輪商会札幌支社           |
| 304 | 石垣電材株式会社                |
| 305 | ダンロップタイヤ北海道株式会社         |
| 306 | デンカ株式会社札幌支店             |
| 307 | I3・ティ・ティ・システム開発株式会社札幌支店 |
| 308 | 北海道厚生農業協同組合連合会          |
| 309 | 石狩市農業協同組合               |
| 310 | 藤光銅材株式会社                |
| 311 | 札幌駅総合開発株式会社             |
| 312 | 鹿追町農業協同組合               |
| 313 | 根室中標津空港ビル株式会社           |
| 314 | 株式会社J A Lナビア札幌センター      |
| 315 | 東京海上日動事務アウトソーシング株式会社    |
| 316 | ホテルモントレ株式会社             |
| 317 | 三和土質基礎株式会社              |
| 318 | 川田工業株式会社                |
| 319 | 株式会社北海道アルバイト情報社         |
| 320 | 株式会社アジェンダ               |
| 321 | システムデザイン開発株式会社          |
| 322 | 岩崎電子株式会社                |
| 323 | 社会福祉法人札幌報恩会             |
| 324 | 新札幌乳業株式会社               |
| 325 | 渡島信用金庫                  |
| 326 | 株式会社北海道銀行               |
| 327 | 加藤産業株式会社                |
| 328 | 株式会社エイブル                |
| 329 | 北海道農業協同組合中央会            |
| 330 | コスモ建設株式会社               |
| 331 | 北海道中央バス株式会社             |
| 332 | 社会福祉法人北海道社会福祉事業団        |
| 333 | 株式会社北海道新聞社              |
| 334 | 株式会社データベース              |
| 335 | 株式会社ホンダ四輪販売北海道          |
| 336 | 阿部鋼材株式会社                |
| 337 | 医療法人深仁会手稲深仁会病院          |
| 338 | 株式会社テクノラボ               |
| 339 | 株式会社北央情報サービス            |
| 340 | 株式会社東光ストア               |
| 341 | 北海道郵便通送株式会社             |
| 342 | 新太平洋建設株式会社              |
| 343 | 北海道オフィス・マシン株式会社         |
| 344 | 札幌日産自動車株式会社             |
| 345 | 夕張市農業協同組合               |
| 346 | 株式会社北海道キューブシステム         |
| 347 | 渥美工業株式会社                |
| 348 | 株式会社桂和商事                |
| 349 | 今井金商株式会社                |
| 350 | 株式会社岩崎                  |
| 351 | フェリー・ロード協同組合            |
| 352 | 北海道富士電機株式会社             |
| 353 | 公益社団法人北海道勤労者医療協会        |
| 354 | 株式会社ツルハ                 |
| 355 | 株式会社ジョイフルエーカー           |
| 356 | 株式会社マック                 |
| 357 | SATO社会保険労務士法人           |
| 358 | 応用地質株式会社北海道事務所          |
| 359 | 株式会社福本商店                |
| 360 | 東テック北海道株式会社             |

## ▶ 調査協力企業

| No. | 企業名                 |
|-----|---------------------|
| 361 | 株式会社アイティ・コミュニケーションズ |
| 362 | 共栄火災海上保険株式会社札幌支社    |
| 363 | ほくでんサービス株式会社        |
| 364 | 地崎商事株式会社            |
| 365 | ニッポンレンタカー北海道株式会社    |
| 366 | 医療法人麻生整形外科病院        |
| 367 | 株式会社マキシマ            |
| 368 | 株式会社藤井ビル            |
| 369 | 新栄クリエイト株式会社         |
| 370 | サスオール株式会社           |
| 371 | 生活クラブ生活協同組合         |
| 372 | 石狩商工会議所             |
| 373 | フシマン商事株式会社          |
| 374 | 明治安田生命保険相互会社札幌支社    |
| 375 | 東銀リース株式会社札幌支店       |
| 376 | 北海道リース株式会社          |
| 377 | ナラサキスタックス株式会社       |
| 378 | 株式会社スカイ365          |
| 379 | ユーザーサイド株式会社         |
| 380 | 新おたる農業協同組合          |
| 381 | トヨタコーラ札幌株式会社        |
| 382 | 美幌町農業協同組合           |
| 383 | 株式会社ピクルスコーポレーション札幌  |
| 384 | 十勝信用組合              |
| 385 | 幕別町農業協同組合           |
| 386 | 広尾町農業協同組合           |
| 387 | 株式会社ナカジマ薬局          |
| 388 | 札幌トヨベツ株式会社          |
| 389 | 札幌国税局               |
| 390 | 株式会社カルテック           |
| 391 | 株式会社ホーブス            |
| 392 | クリナップソリューション株式会社    |
| 393 | 機械開発北旺株式会社          |
| 394 | 株式会社富士メガネ           |
| 395 | 北海道歯科産業株式会社         |
| 396 | ネットトヨタ道都株式会社        |
| 397 | 生活協同組合コープさっぽろ       |
| 398 | 三協立山株式会社北海道支店       |
| 399 | 長谷川産業株式会社           |
| 400 | 株式会社ホクカン            |
| 401 | 空知商工信用組合            |
| 402 | 株式会社ジュリアヌ           |
| 403 | 社会医療法人北楡会札幌北楡病院     |
| 404 | 株式会社STVラジオ          |
| 405 | 株式会社スズキ自販北海道        |
| 406 | 岩見沢市役所              |
| 407 | オーセントホテルズ株式会社       |
| 408 | 株式会社エムデジ            |
| 409 | ネットトヨタたいせつ株式会社      |
| 410 | 函館商工信用組合            |
| 411 | 津軽海峡フェリー株式会社        |
| 412 | いすゞエンジン製造北海道株式会社    |
| 413 | 株式会社シビテック           |
| 414 | 前澤給装工業株式会社北海道支店     |
| 415 | 新篠津村農業協同組合          |
| 416 | 大学生生活協同組合連合会北海道事業連合 |
| 417 | 室蘭信用金庫              |
| 418 | 有限会社ろまん亭            |
| 419 | エア・ウォーター物流株式会社      |
| 420 | 北海道西濃運輸株式会社         |

| No. | 企業名                         |
|-----|-----------------------------|
| 421 | エア・ウォーター北海道株式会社             |
| 422 | 株式会社日本システムコンサルタント北海道支社      |
| 423 | 北海道信用保証協会                   |
| 424 | 株式会社イトーキ北海道                 |
| 425 | 株式会社寺岡北海道                   |
| 426 | 北雄ラッキー株式会社                  |
| 427 | 株式会社つうげんアクト                 |
| 428 | ホシザキ北海道株式会社                 |
| 429 | コロナセントラルサービス株式会社            |
| 430 | 道央農業協同組合                    |
| 431 | 株式会社 ロクオンシステム               |
| 432 | 平松 遥                        |
| 433 | 株式会社ラルズ                     |
| 434 | 道路建設株式会社                    |
| 435 | (企業名無し)                     |
| 436 | S C S K北海道株式会社              |
| 437 | 北海道建設業信用保証株式会社              |
| 438 | 株式会社キャスト                    |
| 439 | エイ・イー・ピー・ジャパン株式会社メルクール札幌    |
| 440 | リソシアコミュニケーションズ株式会社リソビアパーク千歳 |
| 441 | 株式会社ダイナックス                  |
| 442 | 日本郵便株式会社北海道支社               |
| 443 | 株式会社バーニッシュカンパニー             |
| 444 | エイチ・テー・ビー映像株式会社             |
| 445 | 伊藤組土建株式会社                   |
| 446 | 池田煖房工業株式会社                  |
| 447 | 大陽日酸北海道株式会社                 |
| 448 | 株式会社アクセスアイ                  |
| 449 | 株式会社ブリプレス・センター              |
| 450 | 大樹町農業協同組合                   |
| 451 | 株式会社ザ・ギンザ                   |
| 452 | 株式会社アスクゲート                  |
| 453 | 株式会社マイクロウェーブ                |
| 454 | リンナイ株式会社北海道支店               |
| 455 | 日本ニューホランド株式会社               |
| 456 | 北都システム株式会社                  |
| 457 | 株式会社アンスト                    |
| 458 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会            |
| 459 | 株式会社KSP・EAST                |
| 460 | 株式会社京王プラザホテル札幌              |

北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）の設置計画に関するアンケート

|       |         |
|-------|---------|
| 所属・役職 | 企業(団体)名 |
|-------|---------|

調査結果は統計資料としてのみ用い、学校法人北海道武蔵女子学園が新しい大学「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」の設置を構想する上での基礎資料とするものです。同封のリーフレットを参考にいただき、回答のご協力をお願いいたします。

※リーフレット及びアンケートに記載されている「北海道武蔵女子大学（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、今後、内容が変更になる可能性があります。

Q1. 貴事業所の種類をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

|                     |              |            |
|---------------------|--------------|------------|
| 1. 林業・農業・漁業・鉱業      | 2. 建築業       | 3. 製造業     |
| 4. 卸売・小売業           | 5. IT 関連業    | 6. 通信業     |
| 7. 電気・ガス・熱供給・水道業    | 8. 放送、出版、新聞  | 9. 運輸業、郵便業 |
| 10. 学術研究、専門・技術サービス業 | 11. 卸売業      | 12. 小売業    |
| 13. 不動産業、物品賃貸業      | 14. 金融業、保険業  | 15. 宿泊業    |
| 16. 飲食サービス業         | 17. 教育、学習支援業 | 18. 医療、福祉  |
| 19. 生活関連サービス業、娯楽業   | 20. その他サービス業 | 21. 公務     |
| 22. 複合サービス事業        | 23. その他 ( )  |            |

Q2. 貴事業所の本社所在地をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

|        |        |        |        |        |         |        |         |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|---------|
| 1. 北海道 | 2. 青森  | 3. 岩手  | 4. 宮城  | 5. 秋田  | 6. 山形   | 7. 福島  | 8. 茨城   |
| 9. 栃木  | 10. 群馬 | 11. 埼玉 | 12. 千葉 | 13. 東京 | 14. 神奈川 | 15. 新潟 | 16. 富山  |
| 17. 石川 | 18. 福井 | 19. 山梨 | 20. 長野 | 21. 岐阜 | 22. 静岡  | 23. 愛知 | 24. 三重  |
| 25. 滋賀 | 26. 京都 | 27. 大阪 | 28. 兵庫 | 29. 奈良 | 30. 和歌山 | 31. 鳥取 | 32. 島根  |
| 33. 岡山 | 34. 広島 | 35. 山口 | 36. 徳島 | 37. 香川 | 38. 愛媛  | 39. 高知 | 40. 福岡  |
| 41. 佐賀 | 42. 長崎 | 43. 熊本 | 44. 大分 | 45. 宮崎 | 46. 鹿児島 | 47. 沖縄 | 48. その他 |

Q3. 貴事業所全体の従業員・職員数をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. ~99 人                      2. 100~299 人                      3. 300~499 人  
 4. 500~999 人                      5. 1,000~2,999 人                      6. 3,000~9,999 人  
 7. 10,000 人~

貴事業所の採用状況、女性の活躍推進に関するお考えについてお聞きます。

Q4. 貴事業所全体の、昨年度の全ての新卒採用人数を男性・女性それぞれお答えください。

|    |   |    |   |
|----|---|----|---|
| 男性 | 名 | 女性 | 名 |
|----|---|----|---|

Q5. 今後、女性の人材採用について、どのようにお考えになりますか。お考えに最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

1. 毎年、安定的に採用していく                      2. できれば、毎年安定的に採用したい  
 3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用したい                      4. 増員が必要となった場合に、採用を考える  
 5. 欠員が出た場合に、採用を考える                      6. 当面、採用は行わない

裏面もあります

Q6. 今後の女性の採用数について、どのようにお考えになりますか。  
 次の中からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

1. 増やしていく方針      2. 特に変化なし      3. 減らしていく方針

Q7. 今後の「管理職に占める女性の割合」について、どのようにお考えになりますか。  
 次の中からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

1. 増やしていく方針      2. 特に変化なし      3. 減らしていく方針

現在設置計画中の「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」についてお聞きします  
 ※リーフレットをお読みいただいた後、お答えください。

Q8. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」で養成する人材について、今後の社会でニーズが高いと思われますか。最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

1. ニーズは極めて高い      2. ニーズは高い      3. ニーズはやや高い  
 4. あまりニーズは高くない      5. ニーズは全くない

Q9. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えいただけますか。貴事業所の考え方に最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

1. 採用対象になる  
 2. おそらく採用対象になる  
 3. 採用対象として検討してもよい  
 4. あまり採用対象にはならない  
 5. 採用対象にはならない
- 1、2、3を選択された方にお伺いします  
 1つだけマークして、毎年、何人程度採用したいと考えますか。
- 名

Q10. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」では多くの事業者様との連携を考えております。連携の可能性について、最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

1. 興味があり、連携したい      2. 状況に応じて、連携したい      3. 今は考えていない

Q11. ご意見・ご要望がございましたら、ご記入ください。

アンケートはこれで終了です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

問い合わせ先： 北海道武蔵女子大学設置準備室（担当：権藤）

TEL 011-726-3141      FAX 011-726-3144

2024年4月 北海道武蔵女子大学 開設予定

学校法人北海道武蔵女子学園は、短大とともにこれからの女子教育を支え続けます。

北海道武蔵女子学園について

限らない可能性をもつ北海道の地に、敢断して充実した女子の高等教育を行う短期大学との思いから、東京・武蔵大学の同意有償と地共有権力により、1967年に北海道武蔵女子短期大学が設立。

建学当初から「すぐれた知性、清純な気品、実践への意欲」という「知・情・意」を兼ね備えた教養豊かな現代女性を養成すること、を教育目標とし、少人数教育で学生と教員の人間的交流を大切にされてきました。

そのような目的をコミュニケーションに加え、充実したキャリア教育を通じて社会人としての「礼節」を重んじてきた本学園は、いっしょに「新時代の武蔵」と呼ばれる、社会から高い評価を受けてきました。

10年先を見据えた力を。

女性の就業率や役員数の上昇は、「女性」の生き方の多様化を促しているといわれています。北海道武蔵女子学園は、女性の人生を豊かにするために、四大を開設し、一人ひとりの理想を実現するための教育を展開していきます。

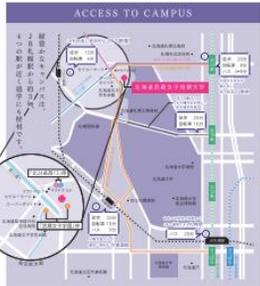


北海道武蔵女子大学 設置概要

|               |                       |
|---------------|-----------------------|
| ● 学部名称：経営学部   | ● 学費【学費】              |
| ● 学 位：学士(経営学) | ● 初年度納入金 1,180,000円   |
| ● 学科名称：経営学科   | (入学金 165,000円を含む)     |
| ● 入学定員：80名    | ● 設置場所：札幌市北区北22条西13丁目 |

同系統の近隣大学学部

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| ● 北海道大学 経済学部 | ● 北星学園大学 経済学部   |
| ● 小樽商科大学 商学部 | ● 札幌学院大学 経済経営学部 |
| ● 北海道大学 経営学部 | ● 札幌大学 地域共創学部   |



MUSASHI WEB CONTENTS

Instagram

学生スタッフブログ

むさしのいろは

YouTube

学校法人北海道武蔵女子学園  
北海道武蔵女子大学 設置準備室

〒001-0022 札幌市北区北22条西13丁目  
TEL. 011-726-3141 MAIL. shomu@hmjc.jp

「女性が活躍できる社会」とは？

北海道武蔵女子大学 経営学部 (仮称)  
2024年4月開設予定 (設置構想中)

誇れる、私に。 北海道武蔵女子短期大学

道内初・女子のための経営学部が、札幌ではじまります。

女性を取り巻く環境

女性の就業率の上昇

女性の管理職採用率の上昇

女性の就業や管理職登用は年々増えている。

2010年からの10年ほどで女性の就業率は18%ポイント、管理職への登用率も年々増進しており、社会を支える存在として期待が高まっています。

「活躍」に対する女性の認識

女性の「活躍」の阻害要因

女性としての活躍や充実、様々な要因が阻害している。

女性の管理職登用が増えればそれ以外の、というそれだけではありません。「活躍」という言葉がイメージする業種は人によって様々ですが、後進的な業種がその実用を担っています。社会全体として女性の参画を推進してはいますが、まだまだ足りないのが日本の実情。だからこそ自ら状況を切り拓く力や、周囲に働きかけの力を発揮することが大切なのです。

なぜ「経営学部」なのか？

設置理念

新たな時代の要請に挑む

これからの社会はSociety5.0といわれ、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)が高度に融合した新たな社会が到来しつつあります。そのような社会では、本学がこれまで目標としてきた「豊かな人間性に加え、ICTの技術を活用し、他者と協働しながら社会課題を解決できる能力を備えた人材が求められています。

経営学 × ICT × デザイン

ビジネスとデジタルを結び、データ分析やデジタル表現を身につける

現在の高情報社会における経営・経済は、インターネットなしには成立することができません。「心理学」、「マーケティング」、「ウェブデザイン」の知識を融合し、ICT機器を活用しながら、経営学を実践的に学びます。

どのように学ぶのか？

短大で培われた教養教育/女子ならではの学生サポート

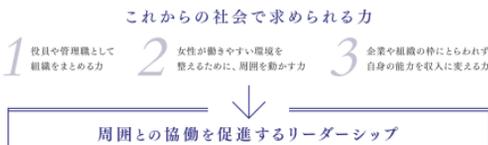
リーダーシッププログラム  
メンバーが互いの専門性・特長性を発揮し、「他者に働きかける力」を養う

情報・データリテラシー  
「デザイン思考」や「デジタルマーケティング」など、ビジネスの現場で役立つ実践的スキルを習得

PBL(プロジェクト型学習)  
課題を見出し、協力・協働しながら課題解決のための「想像力」「協働力」を養う

心理学  
「行動経済学」や「ビジネス心理学」など、消費者の行動を心理学的視点から学ぶ

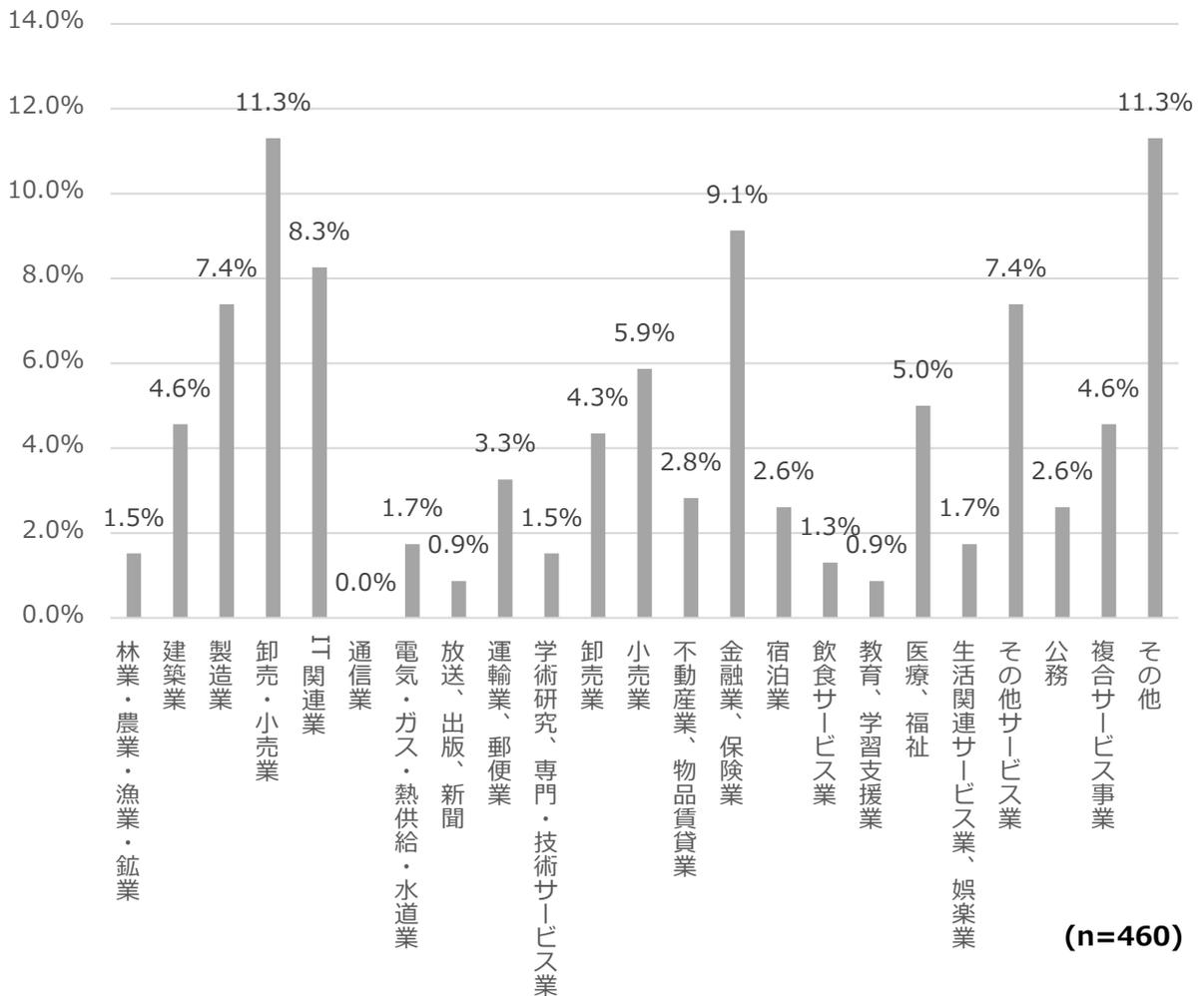
時代に必要とされるスキルや知識を習得しながら、これからの社会をリードする力を身に付けます。



手馴れた環境においても、豊かな想像力、構想力、実践力を持ち、多様な価値観や視点を持つ人々と協働する力で社会を明るくする人材の育成を目指します。

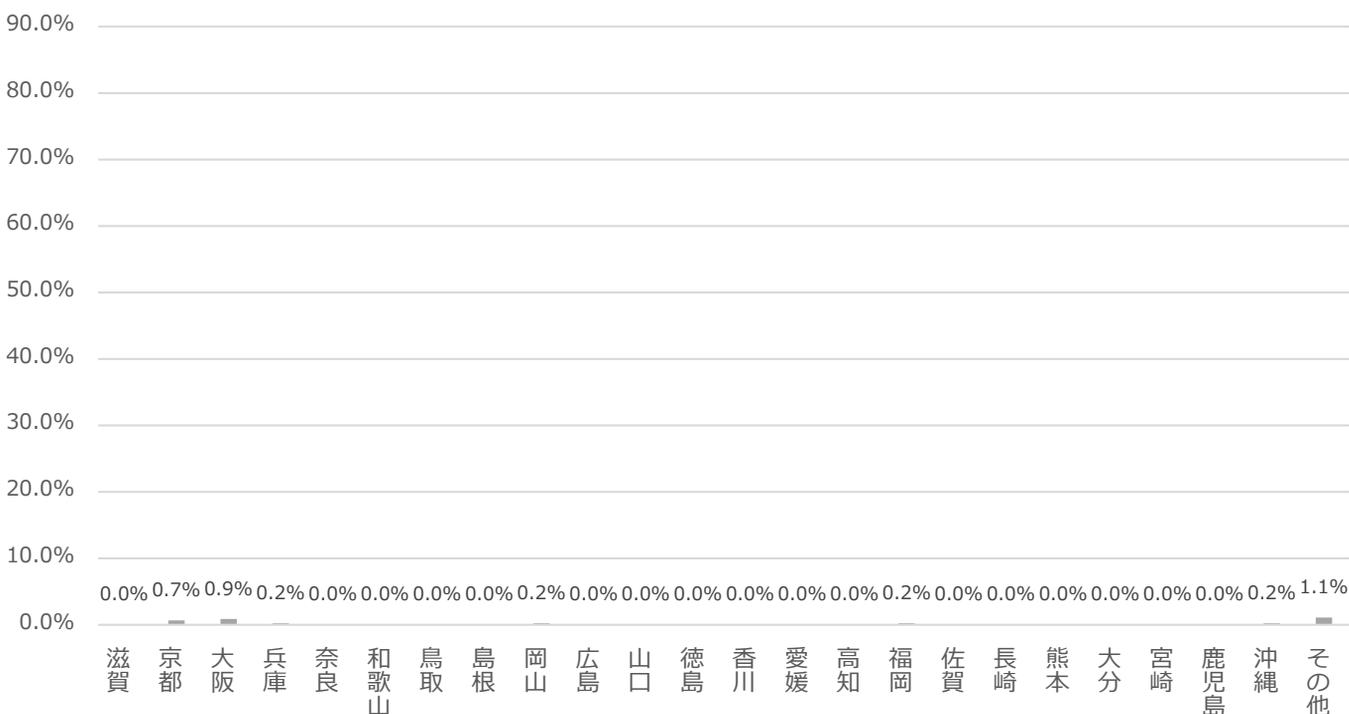
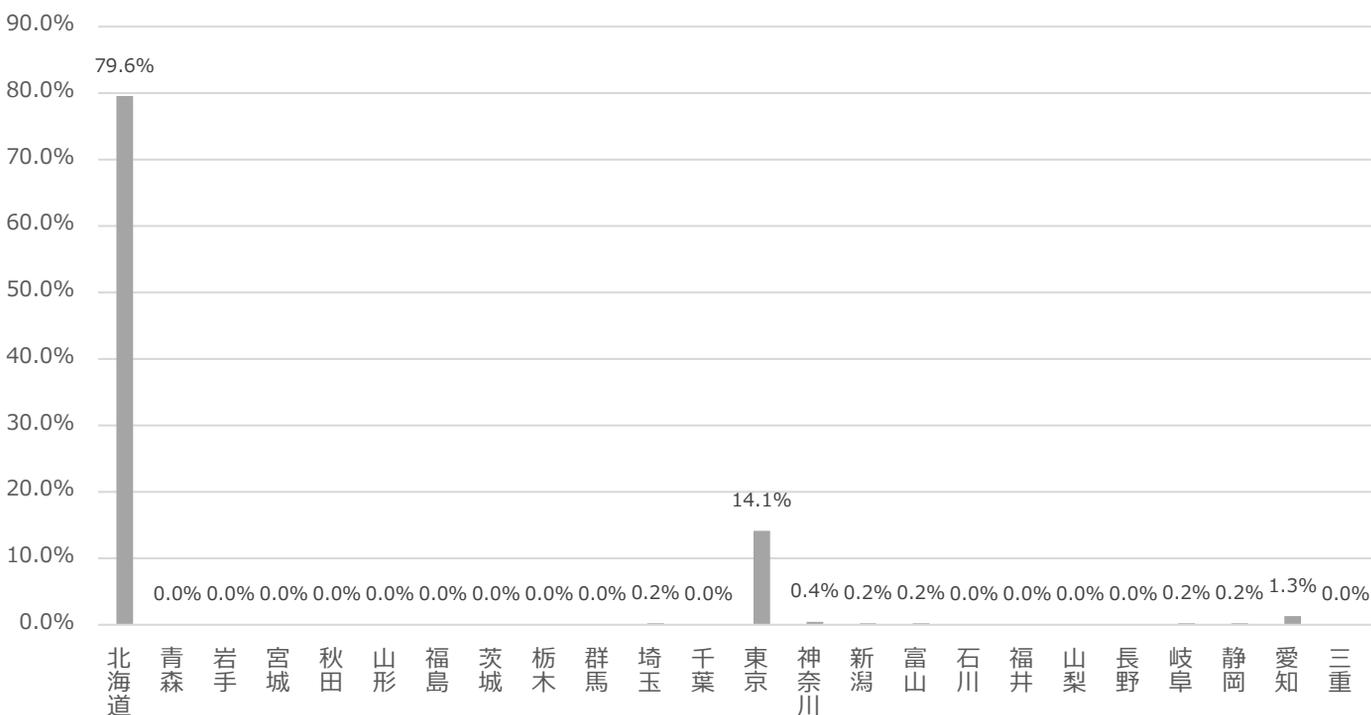
## ◆業種

Q1. 貴事業所の種類をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



## ◆所在地

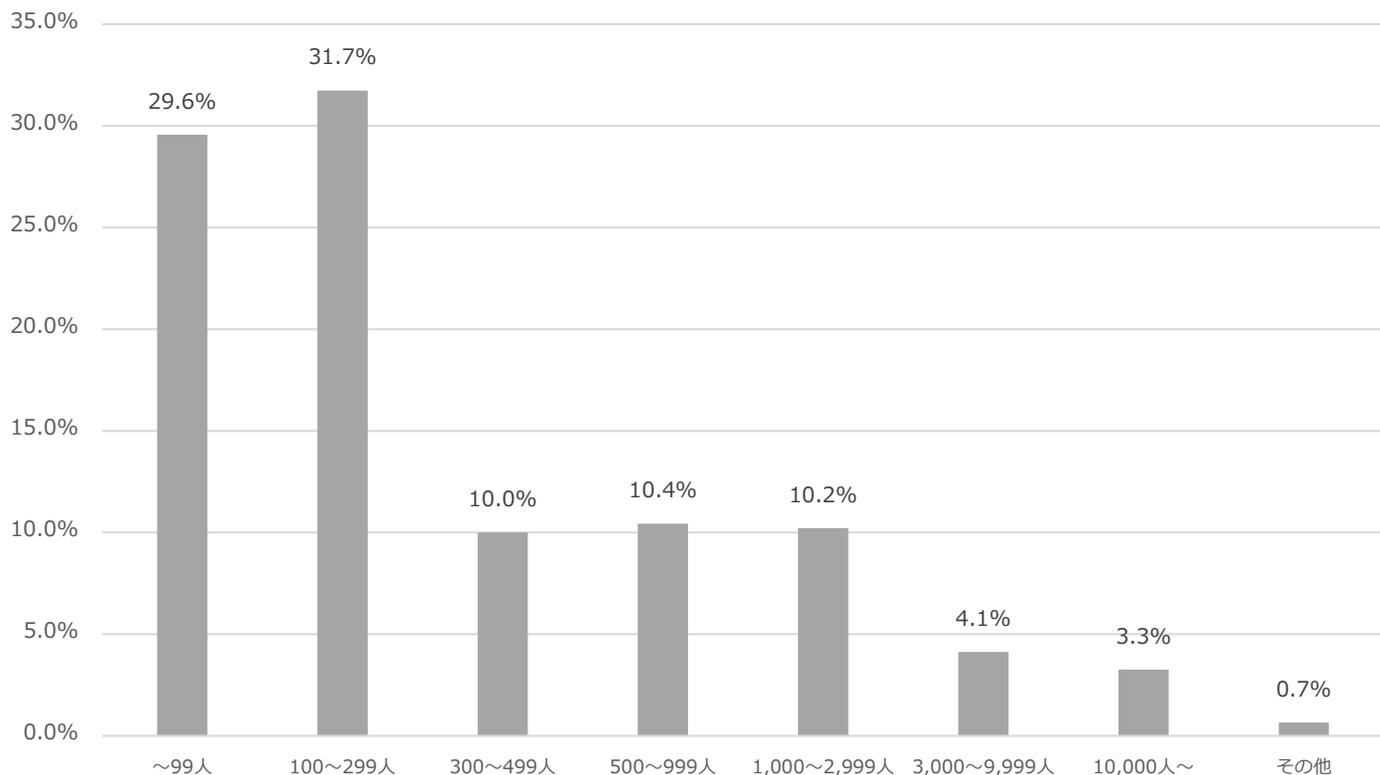
Q2. 貴事業所の本社所在地をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。



(n=460)

## ◆従業員・職員数

Q3. 貴事業所全体の従業員・職員数をお選びください。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

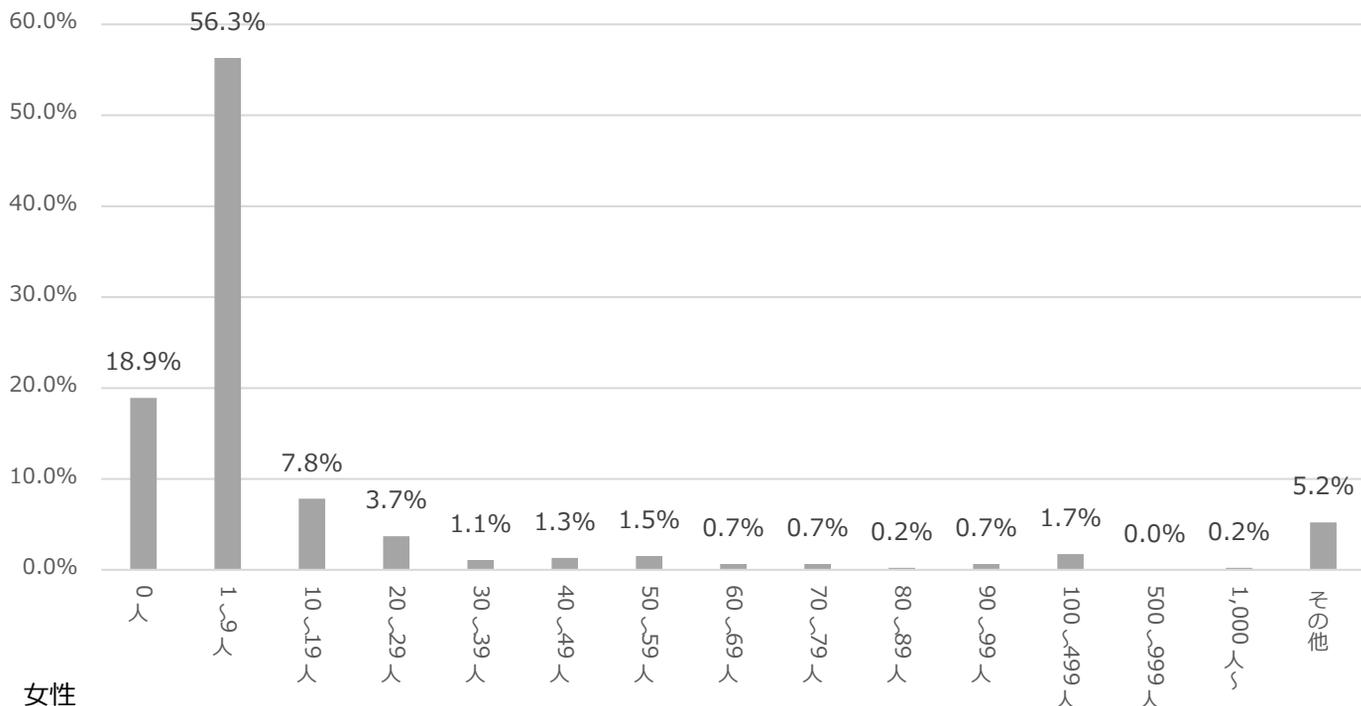


(n=460)

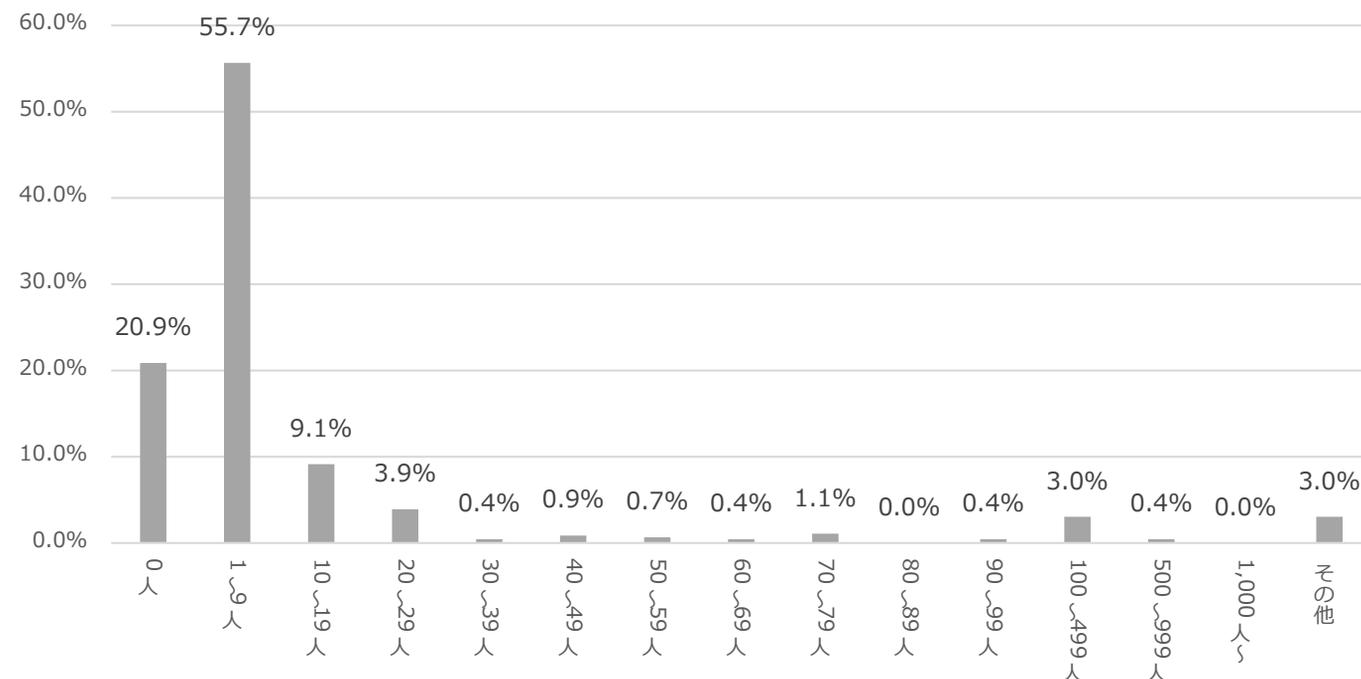
## ◆新卒採用人数

Q4. 貴事業所全体の、昨年度の全ての新卒採用人数を男性・女性それぞれお答えください。

男性



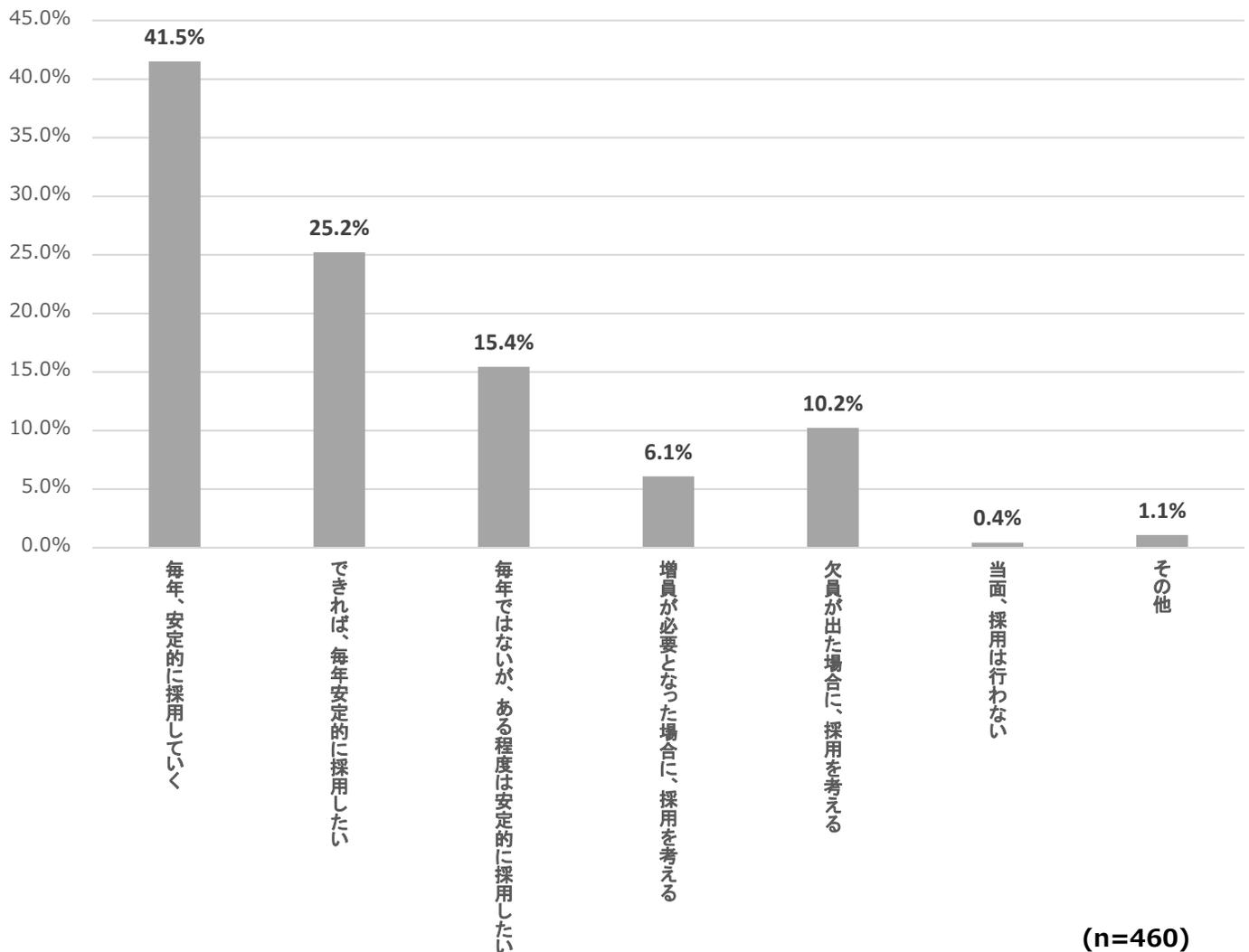
女性



(n=460)

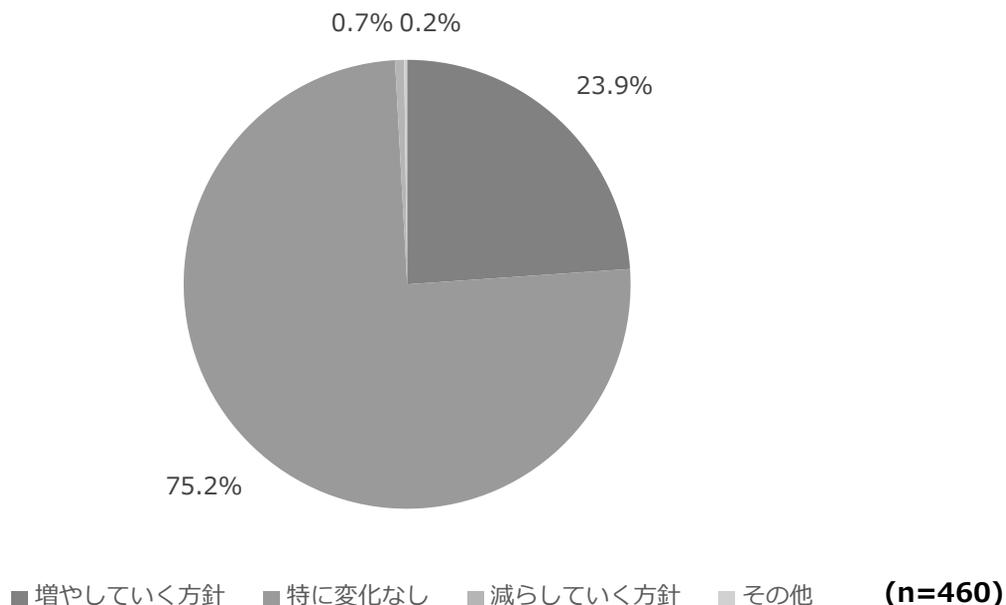
## ◆女性の人材採用に関する考え

Q5. 今後、女性の人材採用について、どのようにお考えになりますか。  
お考えに最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

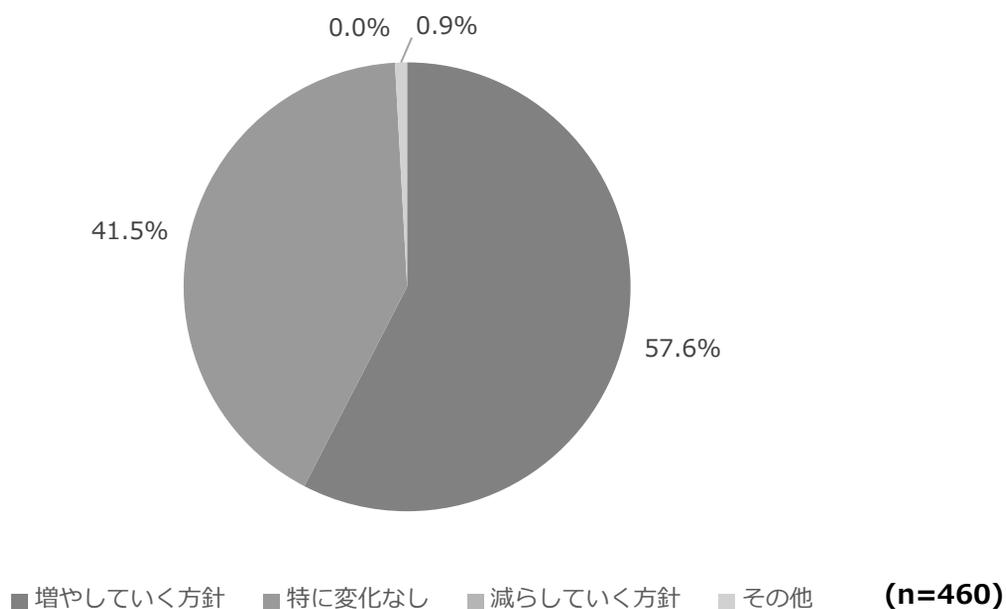


## ◆女性の人材採用に関する考え

Q6. 今後の女性の採用数について、どのようにお考えになりますか。  
次の中からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

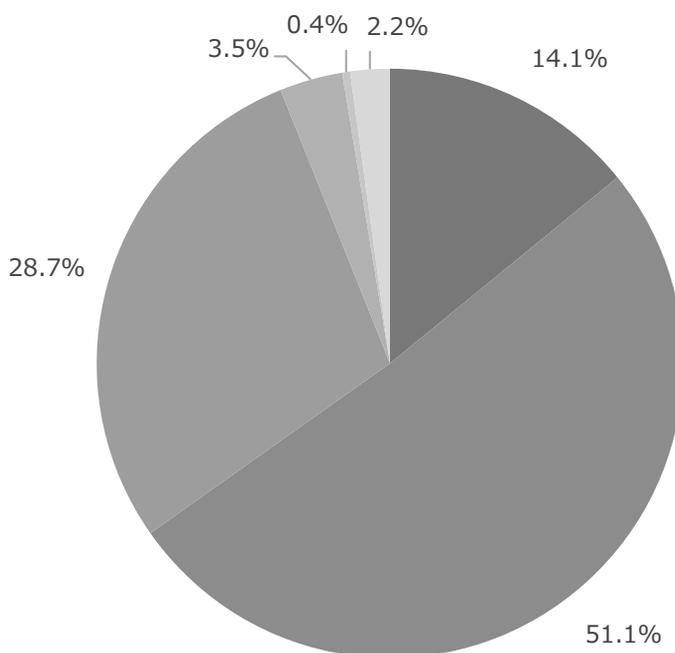


Q7. 今後の「管理職に占める女性の割合」について、どのようにお考えになりますか。  
次の中からあてはまるものを1つ選び、○をつけてください。



## ◆本学への期待度に関する意識調査

Q8. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」で養成する人材について、今後の社会でニーズが高いと思われますか。最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

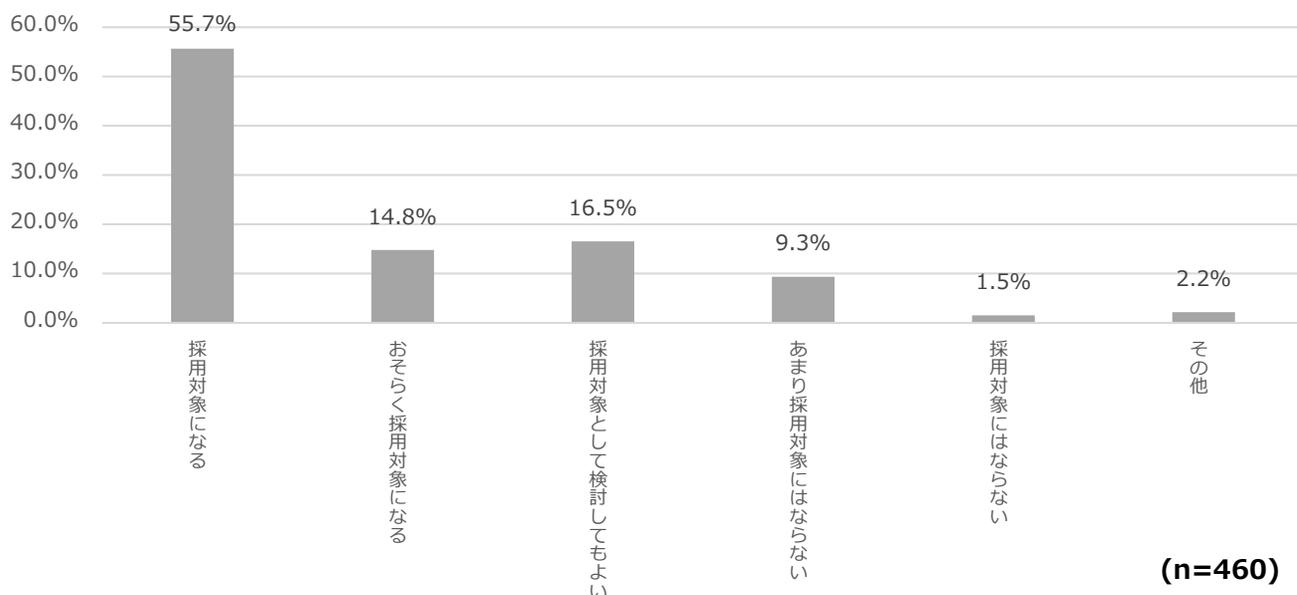


■ ニーズは極めて高い ■ ニーズは高い ■ ニーズはやや高い ■ あまりニーズは高くない ■ ニーズは全くない ■ その他

(n=460)

## ◆卒業生に対する採用意向・採用想定人数

Q9. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」で学んだ学生の新卒採用について、どのようにお考えいただけますか。貴事業所の考え方に最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

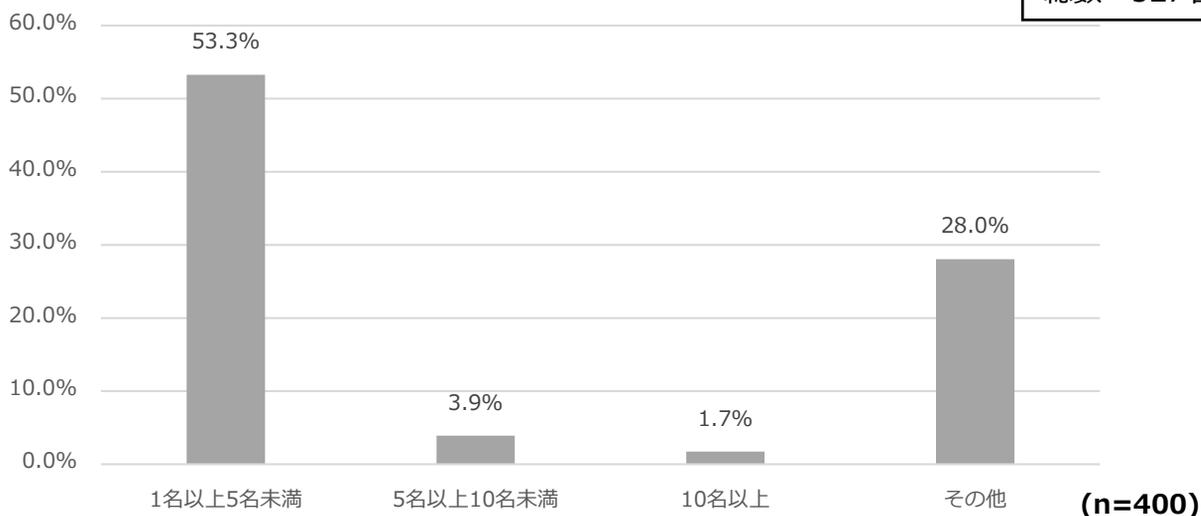


「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」を回答した400事業所を抽出

Q9. 毎年、何人程度採用したいと考えますか

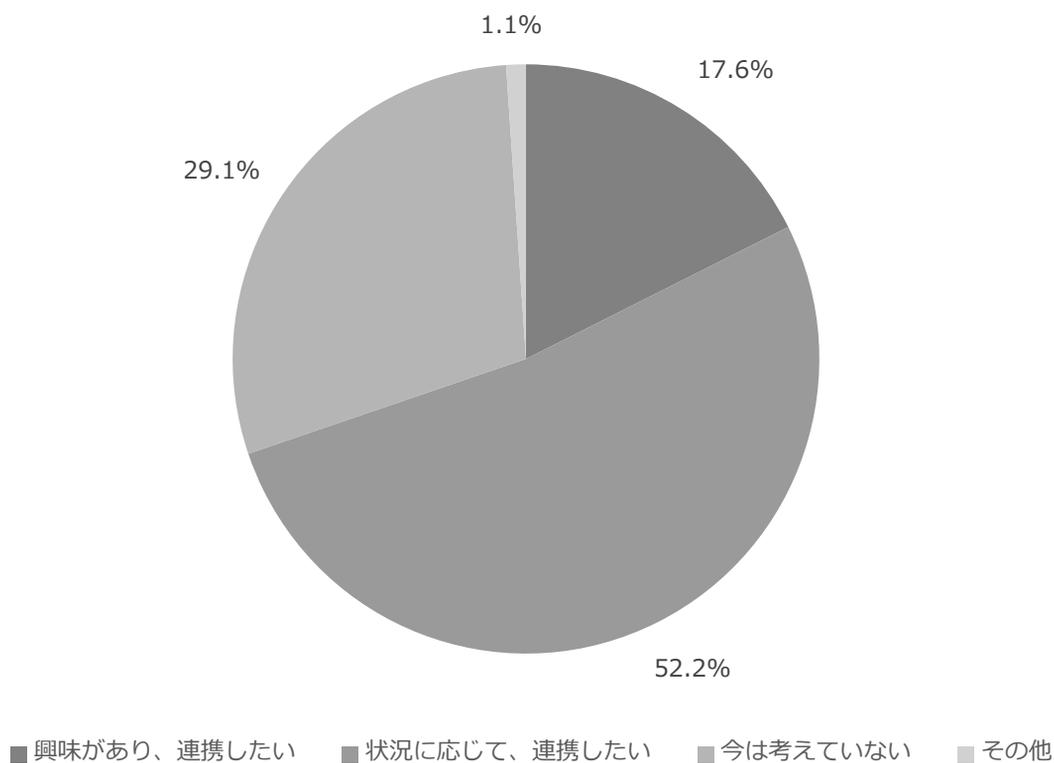
※○～○人という回答の場合は最小人数、「若干名」という回答は1名をカウント

総数 527名



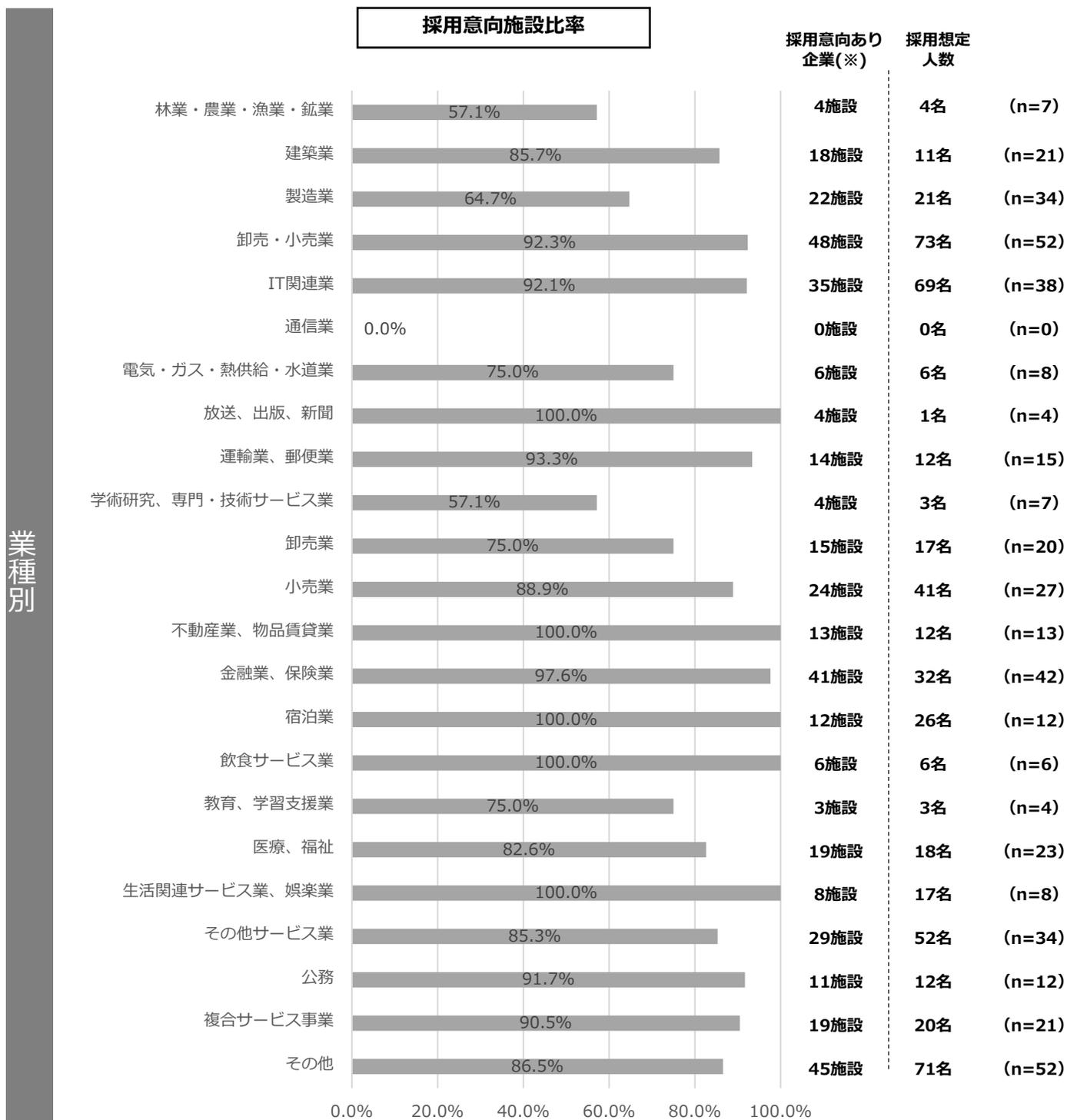
## ◆本学との連携に関する意識調査

Q10. 「北海道武蔵女子大学（仮称）経営学部 経営学科（仮称）」では多くの事業者様との連携を考えております。連携の可能性について、最も近いものを1つ選び、○をつけてください。



(n=460)

## ◆北海道武蔵女子大学(仮称)「経営学部経営学科」への採用意向・採用想定人数<業種別>



(※)採用意向あり企業:Q9で「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」のいずれかを回答した施設

## ◆北海道武蔵女子大学(仮称)「経営学部経営学科」への採用意向・採用想定人数<業種別>

「北海道武蔵女子大学(仮称) 経営学部 経営学科(仮称)」では卒業生の就職先業種・職種について以下を想定している(履修モデルにおいて示された職種)。

|                            |                         |                               |                            |
|----------------------------|-------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| メーカー、営業・<br>企画<br>コンサルティング | 銀行、生命保険、<br>証券、<br>市役所等 | IT・Web、デザイ<br>ン会社<br>IT系サービス職 | 旅行業、航空会社、<br>宿泊業、メーカー<br>系 |
|----------------------------|-------------------------|-------------------------------|----------------------------|



上記に該当する業種の採用想定数は以下である。

|                           |                     |     |               |
|---------------------------|---------------------|-----|---------------|
| メーカー、営業・企画<br>コンサルティング    | 製造業                 | 21名 | } <b>155名</b> |
|                           | 卸売・小売業              | 73名 |               |
|                           | 卸売業                 | 17名 |               |
|                           | 小売業                 | 41名 |               |
|                           | 学術研究、専門・<br>技術サービス業 | 3名  |               |
| 銀行、生命保険、証券、<br>市役所等       | 金融業、保険業             | 32名 | } <b>44名</b>  |
|                           | 公務                  | 12名 |               |
| IT・Web、デザイン会社<br>IT系サービス職 | IT関連業               | 69名 | } <b>69名</b>  |
| 旅行業、航空会社、<br>宿泊業、メーカー系    | 製造業                 | 21名 | } <b>93名</b>  |
|                           | 運送業・郵便業             | 12名 |               |
|                           | 卸売業                 | 17名 |               |
|                           | 宿泊業                 | 26名 |               |
|                           | 生活関連サービス業、娯楽業       | 17名 |               |

入学定員80名に対して、本学で想定している卒業生の就職先業種の企業採用想定人数が計317名になった。本学で想定している卒業生の就職先業種・職種は企業から求められる人材であることが確認できた。

**「調査の目的」**

北海道武蔵女子大学（仮称）の卒業生への採用意向を調査し、人材需要を把握することを目的とする。

**「結論①」**

アンケートの結果では採用意向※1のある企業は400企業あり採用意向のある会社の採用希望人数は527名となった。これは定員80名の6.58倍の値である。

**「北海道武蔵女子大学（仮称）」の卒業生の就職先確保の見通しは高く、企業の人材需要とも合致している。**

※1 採用意向：「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」「採用対象として検討してもよい」のいずれかを回答した企業

**「結論②」**

採用意向のある企業を更に分析した結果

i)メーカー、営業・企画コンサルティングで就職できる可能性のある企業からの採用希望人数は204名

ii)銀行、生命保険、証券、市役所等の業種からの採用希望人数は44名

iii) IT・Web、デザイン会社、IT系サービス職系の業種からの採用希望人数は69名

iv)旅行業、宿泊業、航空会社、メーカー系の企業の採用希望人数は93名

**i) ii) iii)より、「北海道武蔵女子大学（仮称）」が想定している就職先に限定した場合でも、「北海道武蔵女子大学（仮称）」の卒業生の就職先確保の見通しは高い結果となった。**

資料6

| 大学名     | 学部           | 平成29年度 |    |    | 平成30年度 |    |    | 令和元年度 |    |    | 令和2年度 |    |    | 令和3年度 |    |    |
|---------|--------------|--------|----|----|--------|----|----|-------|----|----|-------|----|----|-------|----|----|
|         |              | 受験     | 合格 | 進学 | 受験     | 合格 | 進学 | 受験    | 合格 | 進学 | 受験    | 合格 | 進学 | 受験    | 合格 | 進学 |
| 北海道大学   | 教育学部         | 1      | 1  | 1  | 2      | 2  | 2  | 2     | 2  | 2  | 3     | 0  | 0  | 3     | 0  | 0  |
| 北海道大学   | 経済学部         |        |    |    | 2      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 東北大学    | 経済学部         |        |    |    | 1      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 小樽商科大学  | 商学部          |        |    |    | 2      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 山形大学    | 人文社会科学部      |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 0  | 0  |       |    |    |
| 新潟大学    | 人文学部         |        |    |    | 1      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 福島大学    | 人間発達文化学類     |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 0  | 0  |       |    |    |
| 横浜国立大学  | 経済学部         |        |    |    | 1      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 広島大学    | 経済学部         |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 札幌市立大学  | デザイン学部       | 1      | 1  | 1  |        |    |    |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 名寄市立大学  | 保健福祉学部       |        |    |    |        |    |    |       |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  |
| 北海学園大学  | 法学部1部        |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  | 2     | 2  | 2  |
| 北海学園大学  | 経済学部1部       |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 3     | 3  | 3  | 1     | 1  | 1  |
| 北海学園大学  | 経済学部         | 1      | 1  | 1  |        |    |    |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 北海学園大学  | 経営学部1部       |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  |
| 北海学園大学  | 経営学部1部       |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 北海学園大学  | 経営学部2部       |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  |       |    |    |
| 北海学園大学  | 人文学部         |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 北海学園大学  | 人文学部         |        |    |    |        |    |    | 1     | 1  | 1  | 1     | 1  | 1  |       |    |    |
| 北星学園大学  | 文学部          |        |    |    | 1      | 1  | 1  | 3     | 2  | 2  |       |    |    | 2     | 2  | 2  |
| 北星学園大学  | 文学部          |        |    |    |        |    |    |       |    |    |       |    |    | 2     | 2  | 2  |
| 北星学園大学  | 社会福祉学部       |        |    |    |        |    |    |       |    |    |       |    |    | 1     | 0  | 0  |
| 藤女子大学   | 文学部          |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 0  | 0  |       |    |    |
| 藤女子大学   | 文学部          |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 0  | 0  |       |    |    |
| 北翔大学    | 生涯スポーツ学部     |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 0  |       |    |    |
| 札幌国際大学  | 人文学部         |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 北海道医療大学 | リハビリテーション科学部 |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 弘前学院大学  | 文学部          |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  |       |    |    |
| 東京経済大学  | コミュニケーション学部  |        |    |    |        |    |    | 1     | 1  | 1  |       |    |    | 1     | 1  | 1  |
| お茶の水大学  | 文教育学部        |        |    |    | 1      | 0  | 0  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
| 京都女子大学  | 文学部          |        |    |    |        |    |    | 1     | 1  | 1  |       |    |    | 2     | 2  | 2  |
| 京都女子大学  | 文学部          |        |    |    |        |    |    |       |    |    | 1     | 1  | 1  | 1     | 1  | 1  |
| 関西外国語大学 | 外国語学部        |        |    |    | 1      | 1  | 1  |       |    |    |       |    |    |       |    |    |
|         |              | 3      | 3  | 3  | 18     | 10 | 10 | 8     | 7  | 7  | 16    | 9  | 8  | 17    | 13 | 13 |

経営系学部5か年実績

|    |    |    |
|----|----|----|
| 受験 | 合格 | 進学 |
| 16 | 10 | 10 |

平均

|      |     |     |
|------|-----|-----|
| 受験   | 合格  | 進学  |
| 12.4 | 8.4 | 8.2 |

北海道武蔵女子大学（仮称）の進学需要に関する調査結果】

学校法人北海道武蔵女子学園 御中



北海道武蔵女子大学（仮称）の  
進学需要に関する調査結果

2023年 3月



## ■ 進学需要に関する調査

調査概要

調査範囲

調査書

提示資料

調査結果①（質問別の集計結果）

調査結果②（クロス集計の結果）

結論

## 進学需要に関する調査

## ▶ 調査目的

- ✓ 学校法人北海道武蔵女子学園が計画している「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置について、北海道内の高等学校に在籍する高校2年生に興味度・進学意向等の調査を実施、「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置構想がどの程度高校2年生の進学需要に合致するか、どの程度入学意向者が確保できるか調査した。
- ✓ アンケート回答者には男性も含まれていたが女性のみを対象として抽出した。

## ▶ 調査対象

- ✓ 北海道内にある高等学校に在籍する高校2年生
  - Webアンケート案内または調査票（紙媒体）を送付。
  - ホームルームなどでWebアンケートへの回答、調査票の配布・回収。

## ▶ 調査期間

- ✓ 令和5年1月27日～令和5年2月17日

## ▶ 依頼校数

- ✓ 214校

## ▶ 協力許諾校数（依頼枚数）

- ✓ 199校（26,518枚）
- ※ Webアンケート179校（調査票23,878枚）
- ※ 紙アンケート20校（調査票2,640枚）

## ▶ 回収校数（アンケート回収数）

- ✓ 171校（16,685枚）
- ※ Webアンケート152校（14,471枚）
- ※ 紙アンケート19校（2,214枚）

## ▶ 有効回答数

- ✓ 9,016人※女性のみ抽出
- ※ Webアンケート152校（7,737人）
- ※ 紙アンケート19校（1,279人）

## ▶ アンケートを回収した学校一覧

| No. | 高校一覧      |
|-----|-----------|
| 1   | 北海道旭川永嶺   |
| 2   | 旭川実業      |
| 3   | 旭川大学      |
| 4   | 旭川藤星      |
| 5   | 北海道旭川西    |
| 6   | 北海道旭川東    |
| 7   | 北海道旭川南    |
| 8   | 旭川明成      |
| 9   | 北海道芦別     |
| 10  | 北海道足寄     |
| 11  | 北海道厚岸翔洋   |
| 12  | 北海道網走南ヶ丘  |
| 13  | 遺愛女子      |
| 14  | 北海道池田     |
| 15  | 北海道石狩翔陽   |
| 16  | 北海道岩内     |
| 17  | 北海道岩見沢西   |
| 18  | 北海道岩見沢農業  |
| 19  | 北海道岩見沢東   |
| 20  | 北海道岩見沢緑陵  |
| 21  | 北海道浦河     |
| 22  | 北海道江差     |
| 23  | 北海道枝幸     |
| 24  | 北海道恵庭北    |
| 25  | 北海道恵庭南    |
| 26  | 北海道江別     |
| 27  | 北海道えりも    |
| 28  | 北海道遠軽     |
| 29  | 北海道雄武     |
| 30  | 北海道大麻     |
| 31  | 北海道奥尻     |
| 32  | 北海道興部     |
| 33  | 小樽双葉      |
| 34  | 北海道小樽未来創造 |
| 35  | 小樽明峰      |
| 36  | 北海道音更     |
| 37  | 帯広北       |
| 38  | 北海道帯広三条   |
| 39  | 北海道帯広農業   |
| 40  | 北海道帯広柏葉   |
| 41  | 北海道帯広南商業  |
| 42  | 海星学院      |
| 43  | 北海道上士幌    |

| No. | 高校一覧      |
|-----|-----------|
| 44  | 北海道上ノ国    |
| 45  | 北海道北広島    |
| 46  | 北海道北広島西   |
| 47  | 北海道北見商業   |
| 48  | 北海道北見柏陽   |
| 49  | 北見藤       |
| 50  | 北海道北見北斗   |
| 51  | 北海道北見緑陵   |
| 52  | 北海道清里     |
| 53  | 北海道釧路湖陵   |
| 54  | 北海道釧路商業   |
| 55  | 北海道釧路東    |
| 56  | 北海道釧路北陽   |
| 57  | 北海道釧路明輝   |
| 58  | 北海道栗山     |
| 59  | 市立札幌旭丘    |
| 60  | 北海道札幌あすかぜ |
| 61  | 北海道札幌厚別   |
| 62  | 北海道札幌英藍   |
| 63  | 札幌大谷      |
| 64  | 市立札幌大通    |
| 65  | 北海道札幌丘珠   |
| 66  | 市立札幌清田    |
| 67  | 市立札幌啓北商業  |
| 68  | 札幌光星      |
| 69  | 北海道札幌国際情報 |
| 70  | 北海道札幌白石   |
| 71  | 北海道札幌真栄   |
| 72  | 市立札幌新川    |
| 73  | 札幌新陽      |
| 74  | 札幌静修      |
| 75  | 札幌聖心女子学院  |
| 76  | 北海道札幌西陵   |
| 77  | 札幌創成      |
| 78  | 北海道札幌月寒   |
| 79  | 北海道札幌稲雲   |
| 80  | 北海道札幌東豊   |
| 81  | 北海道札幌東陵   |
| 82  | 北海道札幌南陵   |
| 83  | 北海道札幌西    |
| 84  | 札幌日本大学    |
| 85  | 北海道札幌東商業  |
| 86  | 北海道札幌平岡   |

## ▶ アンケートを回収した学校一覧

| No. | 高校一覧           |
|-----|----------------|
| 87  | 市立札幌平岸         |
| 88  | 札幌北斗           |
| 89  | 北海道札幌北陵        |
| 90  | 市立札幌藻岩         |
| 91  | 札幌山の手          |
| 92  | 札幌龍谷学園         |
| 93  | 北海道佐呂間         |
| 94  | 北海道鹿追          |
| 95  | 北海道静内          |
| 96  | 北海道標茶          |
| 97  | 北海道標津          |
| 98  | 北海道下川商業        |
| 99  | 北海道斜里          |
| 100 | 白樺学園           |
| 101 | 北海道白糠          |
| 102 | 北海道知内          |
| 103 | 市立函館           |
| 104 | 北海道寿都          |
| 105 | 北海道砂川          |
| 106 | 北海道大樹          |
| 107 | 北海道鷹栖          |
| 108 | 北海道滝川          |
| 109 | 北海道滝川西         |
| 110 | 北海道伊達開来        |
| 111 | 北海道千歳          |
| 112 | 北海道千歳北陽        |
| 113 | 北海道天塩          |
| 114 | 北海道弟子屈         |
| 115 | 東海大学付属札幌       |
| 116 | 北海道当別          |
| 117 | 北海道苫小牧総合経済     |
| 118 | 北海道苫小牧東        |
| 119 | 北海道富川          |
| 120 | 北海道豊富          |
| 121 | 酪農学園大学附属とわの森三愛 |
| 122 | 北海道中標津         |
| 123 | 北海道長沼          |
| 124 | 北海道七飯          |
| 125 | 北海道名寄          |
| 126 | 北海道根室          |
| 127 | 北海道野幌          |
| 128 | 北海道登別青嶺        |
| 129 | 函館大谷           |

| No. | 高校一覧      |
|-----|-----------|
| 130 | 函館大妻      |
| 131 | 北海道函館商業   |
| 132 | 函館白百合学園   |
| 133 | 函館大学付属柏稜  |
| 134 | 北海道函館中部   |
| 135 | 北海道函館西    |
| 136 | 北海道羽幌     |
| 137 | 北海道浜頓別    |
| 138 | 北海道美瑛     |
| 139 | 北海道東川     |
| 140 | 北海道美唄尚栄   |
| 141 | 北海道美幌     |
| 142 | 北海道平取     |
| 143 | 北海道広尾     |
| 144 | 北海道深川西    |
| 145 | 藤女子       |
| 146 | 北海道富良野    |
| 147 | 北海道富良野緑峰  |
| 148 | 北海道別海     |
| 149 | 北星学園女子    |
| 150 | 北星学園大学附属  |
| 151 | 北海学園札幌    |
| 152 | 北海道文教大学附属 |
| 153 | 北海道科学大学   |
| 154 | 北海道本別     |
| 155 | 北海道幕別清陵   |
| 156 | 北海道三笠     |
| 157 | 北海道鶴川     |
| 158 | 北海道室蘭清水丘  |
| 159 | 北海道紋別     |
| 160 | 北海道八雲     |
| 161 | 北海道夕張     |
| 162 | 北海道湧別     |
| 163 | 北海道余市紅志   |
| 164 | 北海道羅臼     |
| 165 | 北海道蘭越     |
| 166 | 北海道利尻     |
| 167 | 北海道留辺蘂    |
| 168 | 北海道留萌     |
| 169 | 稚内大谷      |
| No. | 中等教育学校一覧  |
| 1   | 市立札幌開成    |
| 2   | 北海道登別明日   |

## 2024年4月開学予定

## 北海道武蔵女子大学 経営学部（設置認可申請中）に関するアンケート

このアンケートは、道内の高校2年生の皆さんから、現時点における進路意向等をお聞かせいただき、私ども北海道武蔵女子学園が新たに開設する4年制大学の運営上の参考とすることを目的として行うものです。ぜひ回答のご協力をお願いいたします。

※調査結果は統計資料としてのみ用い、関係者以外の人に見せたりすることはありません。

※リーフレット及びアンケートに記載されている事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

Q1. 高校名を書いてください

高等学校

Q2. 性別を選んでください（○をつけてください）

1. 女性

2. 男性

Q3. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか？以下の中からあてはまる選択肢を全て選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

1. 大学
2. 短期大学
3. 専門職大学・専門職短期大学
4. 専門学校
5. 就職
6. 未定
7. その他（                      ）

Q4. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか？以下の中から興味のある分野を全て選んで番号に○をつけてください。（複数回答可）

- |                    |                                 |
|--------------------|---------------------------------|
| 1. 経営学、経済学、商学、ビジネス | 7. 数学、物理学                       |
| 2. 社会学、心理学、教育学     | 8. 工学、化学                        |
| 3. 国際・語学           | 9. 生物学、農学                       |
| 4. 法学、政治学          | 10. 医・歯・薬学、看護学                  |
| 5. 情報学、コンピューティング   | 11. 健康・スポーツ科学、生活科学              |
| 6. 哲学、文学、歴史学、文化人類学 | 12. その他（                      ） |

裏面もあります

ここからは、現在設置申請中の「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」についてお聞きします。  
 配付した資料（リーフレット）をお読みいただいた後、お答えください。

- Q 5. 「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」の教育課程は、企業からの意見も参考にしながら編成されています。下記の a～f の教育等の特色について魅力的であるかお答えください。（a～f それぞれについて、あてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。）

※ 男子生徒の皆さんは、男女共学の大学を想定してご回答ください。

| 「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」の特色 |  | (A)<br>魅力的である | (B)<br>魅力的でない | (C)<br>どちらでもない |
|--------------------------|--|---------------|---------------|----------------|
| a                        | 少人数ゼミナール、アクティブラーニングと PBL（課題解決型学習）など、学生が中心となる主体的な学び | 1             | 2             | 3              |
| b                        | チームの連携・協働を促進し成果を生み出す、新しいリーダーシップ教育                  | 1             | 2             | 3              |
| c                        | 心理学やマーケティングと経営学を融合した学び                             | 1             | 2             | 3              |
| d                        | デザイン系科目や AI、ICT、データサイエンスなどの新しい情報系科目による学び           | 1             | 2             | 3              |
| e                        | 繰り返し学んで習熟度を UP させる映像配信型授業                          | 1             | 2             | 3              |
| f                        | 社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」ブランドと徹底した就活サポート    | 1             | 2             | 3              |

※ 男子生徒の皆さんは Q 8 に進んでください。

【Q 6 と Q 7 は女子生徒のみご回答ください】

- Q 6. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」が開設された場合、受験してみたいと思いますか。  
 あてはまる選択肢を一つ選んで番号に○をつけてください。

1. 受験したいと思う      2. 受験したくないと思う      3. 受験を検討したいと思う

- Q 7. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。  
 あてはまる選択肢を一つ選んで番号に○をつけてください。

1. 入学したいと思う      2. 入学したくないと思う      3. 入学を検討したいと思う

【Q 8 は男子生徒のみご回答ください】

- Q 8. 北海道武蔵女子大学の教育課程・教育内容が男女共学の大学で展開されていたとしたら、あなたは受験してみたいと思いますか。あてはまる選択肢を一つ選んで番号に○をつけてください。

1. 受験したいと思う      2. 受験したくないと思う      3. 受験を検討したいと思う

アンケートはこれで終了です。ご協力いただきありがとうございました。

問い合わせ先：北海道武蔵女子大学設置準備室（担当：絹川）

TEL 011-726-3141      FAX 011-726-3144

2024年4月 北海道武蔵女子大学 開設予定 (設置認可申請中)

学校法人 北海道武蔵女子学園は、  
短大と共にこれからの女子教育を支え続けます。

北海道武蔵女子学園について

数にない実業の発展もつ北海道の地に、  
新設して充実した女子の高等教育を行う  
短大法人としての思いから、武蔵女子学園の  
実業専攻と短大専攻により、1977年に  
北海道武蔵女子短期大学が開設されました。  
人間的文化を重んじてきました。

10年先を見据えた力を。

女性の活躍が社会の発展に、一次で女性の社会進出を促進しているというところであります。北海道武蔵女子学園は、女性の活躍  
を支援するために、4年制大学を開設し、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす教育を実施していきます。



札幌駅を中心とした商業地に近く、  
充実した大学生活を  
楽しめるキャンパスです。



学校法人 北海道武蔵女子学園  
北海道武蔵女子大学 設置準備室  
〒001-0022 札幌市中央区南2条西13丁目  
TEL. 011-729-4111 MAIL: jushu@hms.ac.jp

4年制大学 経営学部 2024年4月 開設予定 (設置認可申請中)

北海道武蔵女子大学

北海道に  
新しい

伝統的に女性の活躍を推進することは必須となっています。  
企業人からも「女性の活躍」に期待の声があがっています。

選択肢を

その期待に応える人材を輩出するために、  
北海道に新しい女子大学を開設します。

つくりま

従来からある経営学部の学びの領域に、  
データサイエンス、DX、AI、SNS、デザイン思考、マーケティング、心理など、  
次代の企業経営を支える分野を加え、社会における実践力が発揮できる教育を企画します。

つくりま

北海道の女性の未来のために、「道内初」の経営学部が始まります。

道内初 女子のための  
経営学部  
2024年4月  
新大学  
開設予定  
(設置認可申請中)

これからの時代に必要とされる  
“チカラ”とは？

**変化に対応する力**  
新事業を次々と生み出しています。  
株式会社 サイバーエージェント | 専任講師 中野 優菜 さん

**共創する力**  
新しい事業を推進させます。  
株式会社 アナールデザイン | 専任講師 藤原 純 さん

**相手を想う気持ちや挑戦する姿勢が、  
事業の発展につながります。**  
株式会社 アインホールディングス | 専任講師 木村 望穂 さん

**現状の課題を解決する力、  
商品やサービスに伝える力が必要。**  
株式会社 クレイン企業戦略開発 | 専任講師 岩田 健治 さん

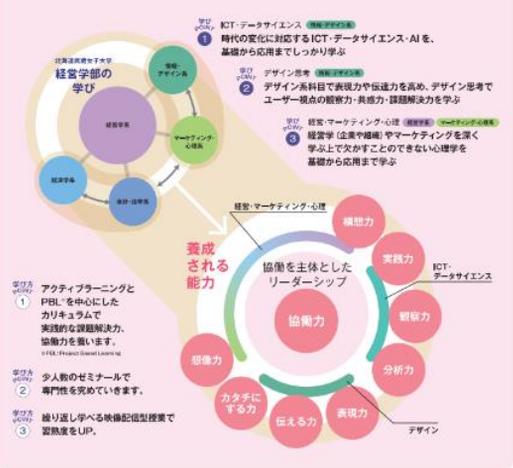
**DXを推進するほど、使いやすさを考慮した  
デザイン思考での解決が求められるでしょう。**  
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス | 専任講師 塩原 基孝 さん

**自ら考え行動する力が  
事業展開に大きな実感をもたらします。**  
株式会社 AIRDO | 専任講師 池田 勇樹 さん

**データを活用しながら、高品質な商品を  
真心を込めてお客様にお届けすることが大切です。**  
株式会社 イズエクスポート | 専任講師 大塚 誠司 さん

**想像力、実践力が  
北海道の未来を切り拓きます。**  
株式会社 北洋銀行 | 専任講師 中後 佳穂 さん

新たな視点を持った、これまではない経営学部の学びで、  
真に社会から求められ、活躍する女性を養成します。

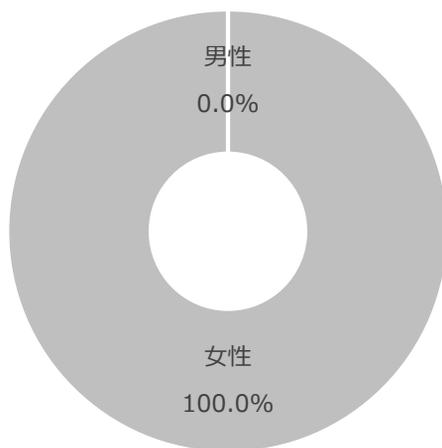


“学び”と“学び方”で  
チカラをつける

一貫した経営学と「ビジネス」の学びの枠組みを突破し、様々な分野の学びを取り、学び、実践する価値  
を創ります。また、道内初となる経済学部のICT、デザイン、企業経営学部からのマーケティング  
の分野も加え、企業・団体の需要に即した実践的な教育を構築します。本学が主眼としている、まごの教育で  
グループワークを取り入れ、実践と学生、学生と学生がコミュニケーションを取りながら、他者と連携をつくる  
ことと自立して生きる力を養いながら、就職活動へとつながります。



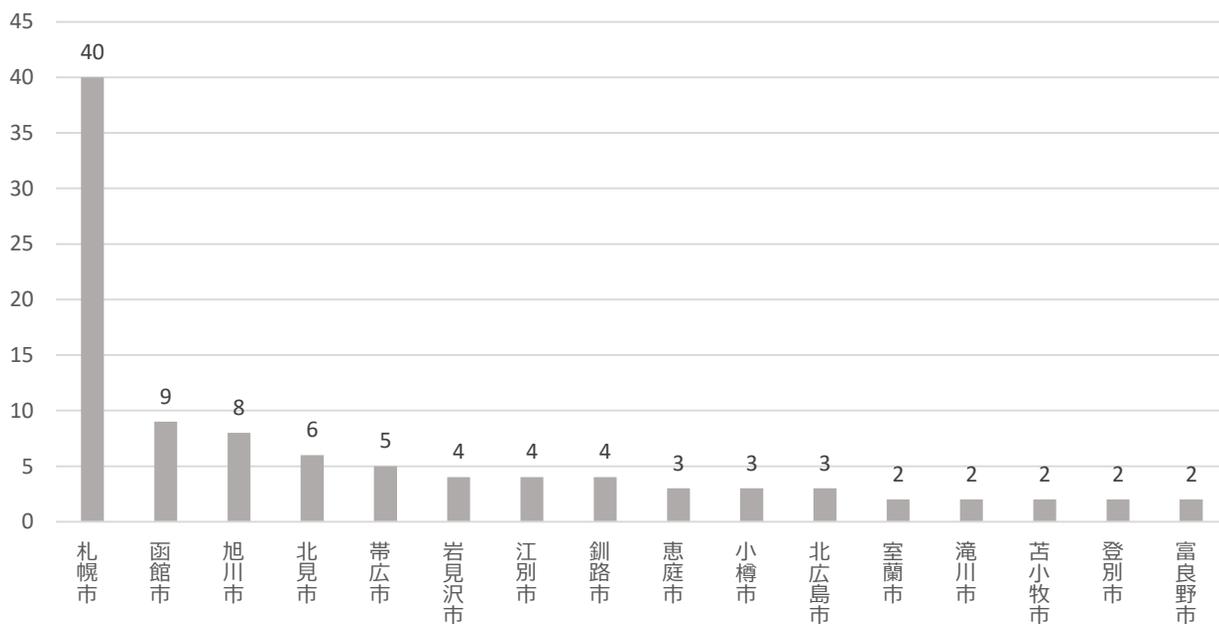
## ◆性別



(n=9,016)

## ◆高校所在地

(単位：校)

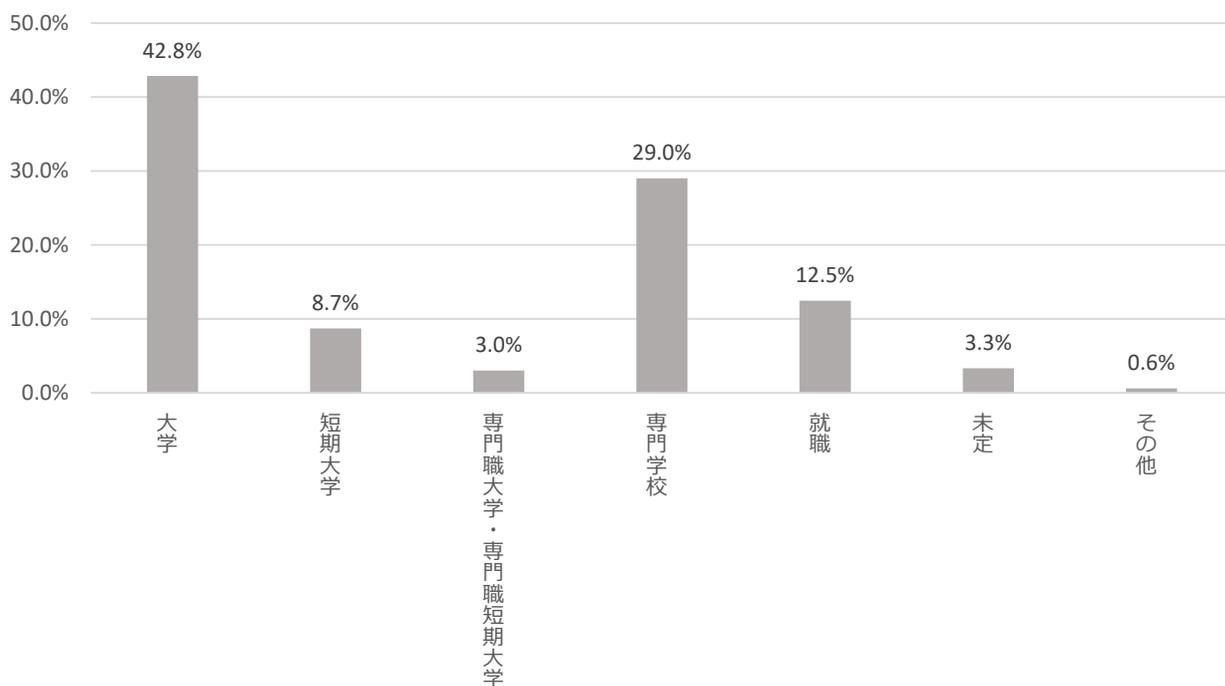


※上記グラフは複数校の回答があった市区町村の抜粋であり、他72市区町村から各1校ずつ回答を回収している。

(n=171)

## ◆ 高校卒業後の希望進路

Q3. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか？  
以下の中からあてはまる選択肢を全て選んでください。(複数回答可)

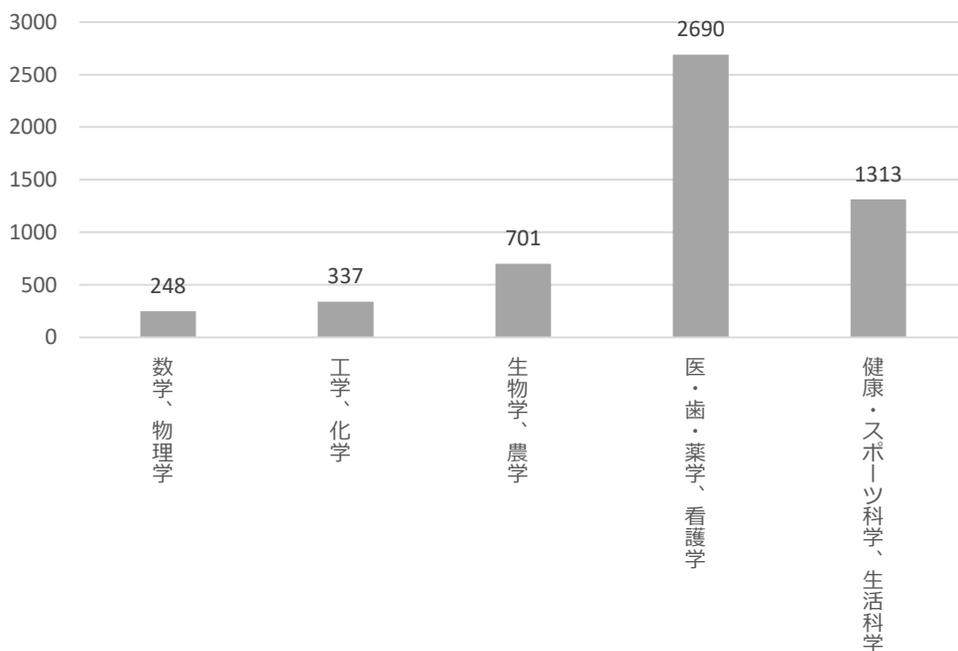
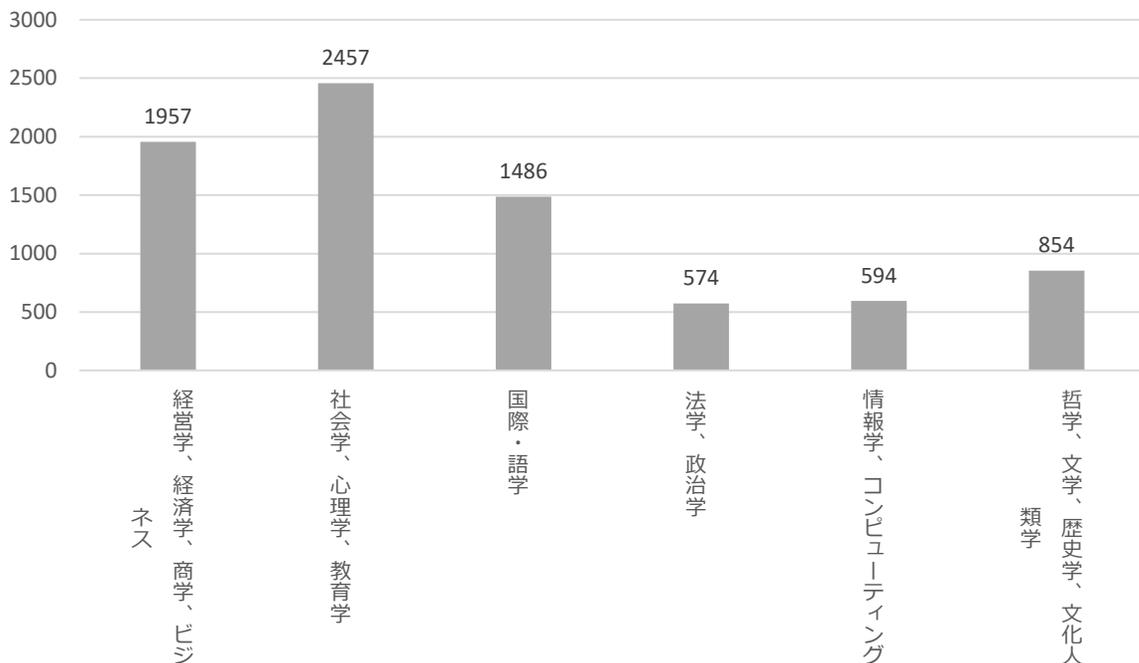


(n=9,016)

## ◆希望する学問系統

Q4. あなたはどのような学びの分野に興味がありますか？  
以下の中から興味のある分野を全て選んでください。(複数回答可)

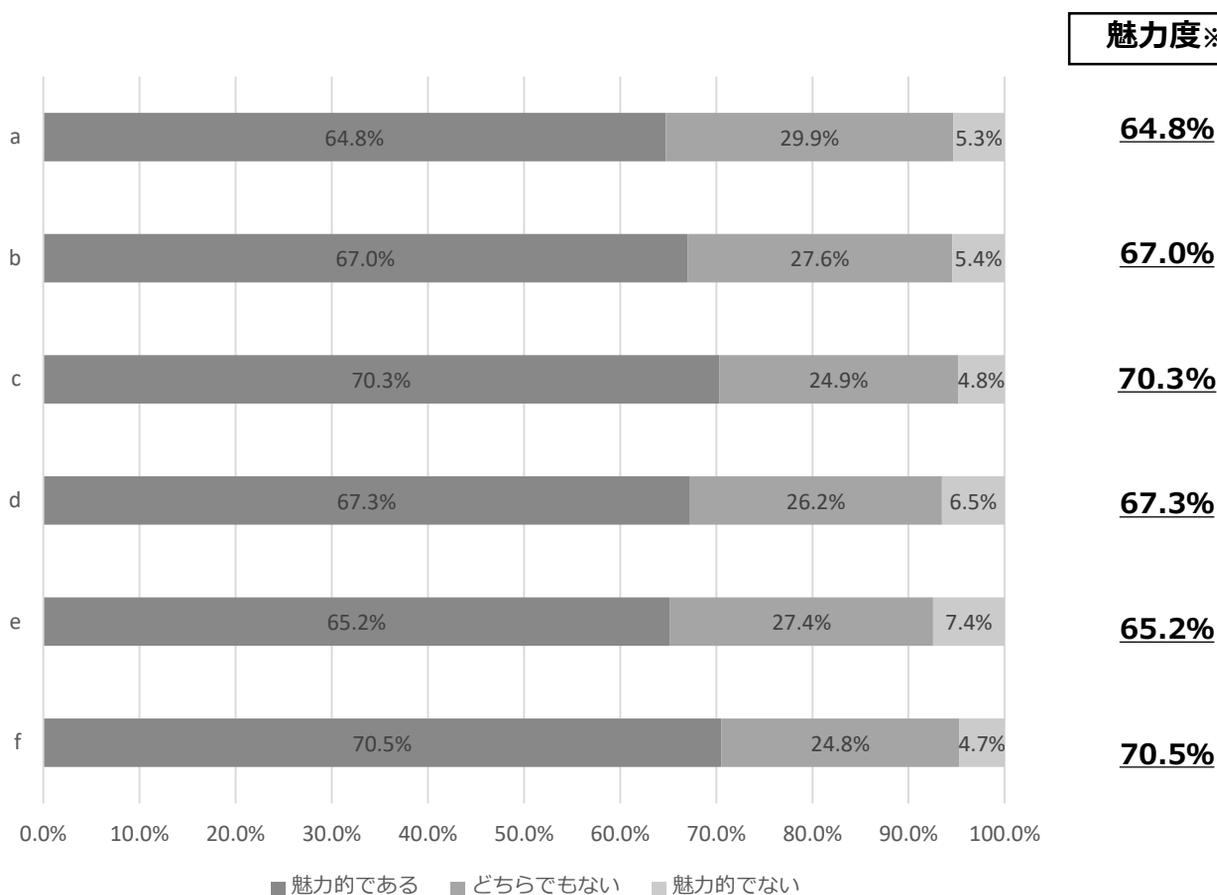
(単位：人)



(n=9,016)

## ◆特色に対する魅力調査

Q5. 「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」の教育課程は、企業からの意見も参考にしながら編成されています。下記のa～fの教育等の特色について魅力的であるかお答えください。(a～fそれぞれについて、あてはまる番号を一つ選んで○をつけてください。)



(各n=9,016)

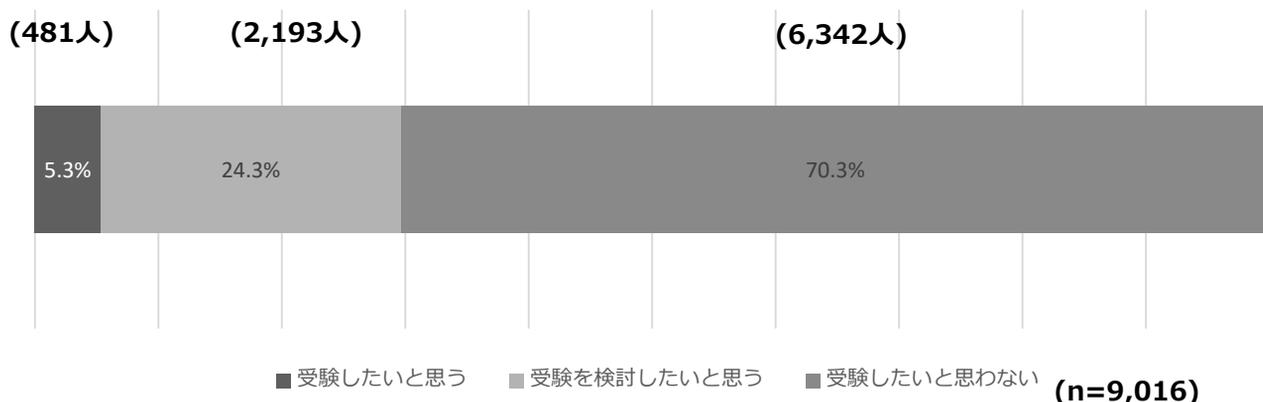
(※)魅力度は「魅力的である」と特色に対して肯定的な回答した割合  
特色内容については次頁参照

## ◆特色一覧

| 北海道武蔵女子大学経営学部経営学科の特色 |   |
|----------------------|---|
| a                    | 少人数ゼミナール、アクティブラーニングとPBL（課題解決型学習）など、学生が中心となる主体的な学び |
| b                    | チームの連携・協働を促進し成果を生み出す、新しいリーダーシップ教育                 |
| c                    | 心理学やマーケティングと経営学を融合した学び                            |
| d                    | デザイン系科目やAI、ICT、データサイエンスなどの新しい情報系科目による学び           |
| e                    | 繰り返し学んで習熟度をUPさせる映像配信型授業                           |
| f                    | 社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」ブランドと徹底した就活サポート   |

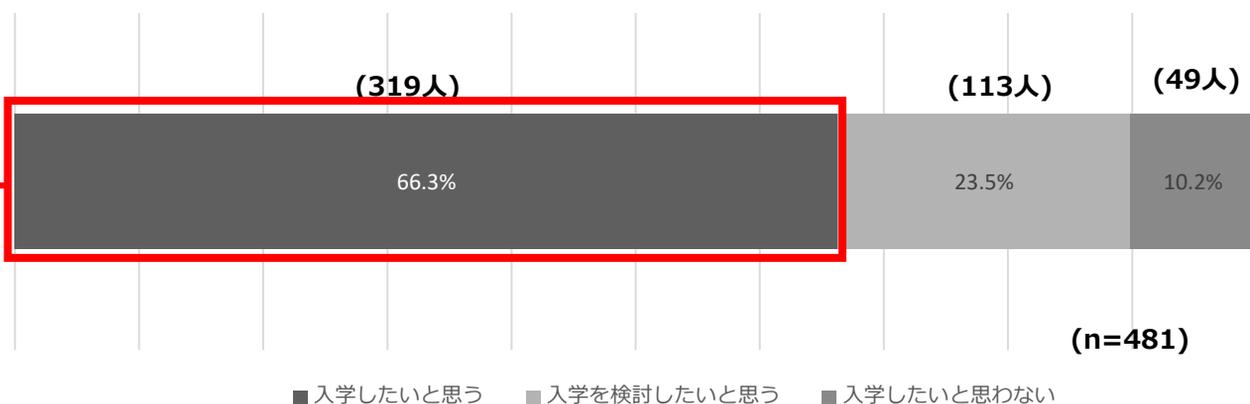
## ◆北海道武蔵女子大学(仮称)「経営学部経営学科」への受験意向/入学意向

Q6. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」が開設された場合、受験してみたいと思いますか。



「受験したいと思う」を回答した481名を抽出

Q7. あなたは、「北海道武蔵女子大学 経営学部 経営学科」を受験して合格した場合、入学したいと思いますか。



**319名が「入学したいと思う」 113名が「入学を検討したいと思う」と回答。(以降「入学意向者」とする) 定員80名の3.99倍である319名の入学意向者が確認できた。**

## ◆ターゲットの特定

### Q3.希望進路とQ4.興味のある学びの分野でクロス集計を実施

|  | 経営・経済・商学・ビジネスの<br>学びに興味がある<br>(Q4にて「経営・経済・商学・ビジネス」<br>を選択) | 経営・経済・商学・ビジネス<br>の学びに興味がない<br>(Q4にて「経営・経済・商学・ビジネス」<br>を選択していない) | 合計    |
|--|--|---|-------|
| 4年制大学に<br>進学を希望する<br>(Q3にて「大学」を選<br>択)     | <b>1,136</b><br><small>※新設大学と希望進路が合致</small>               | 3,637   | 4,773 |
| 4年制大学に<br>進学を希望しない<br>(Q3にて「大学」を選<br>択しない) | 821  | 3,422   | 4,243 |
| 合計   | 1,957  | 7,059   | 9,016 |

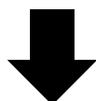
アンケート回答者9,016名のうち、希望進路にて「大学」・興味のある学びの分野にて「経営・経済・商学・ビジネス」と回答した者、つまり本学のメインターゲットとなる高校生は1,136名確認された。

※1,136名について次頁にて詳細分析を実施

## ◆入学意向者確保の可能性検証 (1/2)

「Q3.進路希望」、「Q4.興味のある学問分野」  
が本学と一致している回答者  
(本学のメインターゲット)

# 1,136名



Q6.受験意向とQ7.入学意向  
でクロス集計を実施

メインターゲットのうち、本学への  
受験意向・入学意向のある者  
**103名**

|             | 受験したいと思う | 受験したいと思わない | 受験を検討したいと思う | 合計    |
|-------------|----------|------------|-------------|-------|
| 入学したいと思う    | 103      | 29         | 70          | 202   |
| 入学したいと思わない  | 5        | 312        | 20          | 337   |
| 入学を検討したいと思う | 39       | 159        | 399         | 597   |
| 合計          | 147      | 500        | 489         | 1,136 |

入学意向者に次いで、入学の可能性が高い層

## 39名

検討段階であり、広報による魅力訴求によって入学の可能性のある層

## 469名

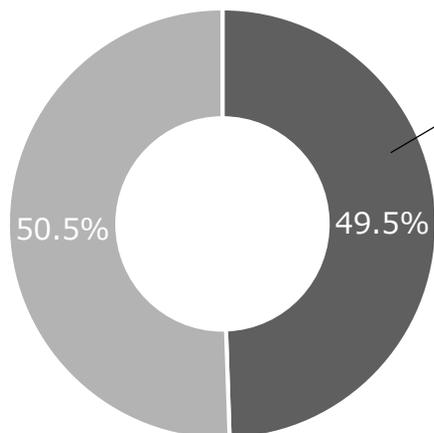
※469名について詳細分析を実施

## ◆入学意向者確保の可能性検証 (2/2)

「Q3.進路希望」、「Q4.興味のある学問分野」  
が本学と一致している  
かつ  
「受験を検討したいと思う」と回答、  
「入学したいと思う」「入学を検討したいと思う」  
と回答した者

# 469名

検討中であると想定される469名が北海道武蔵女子大学（仮称）の特徴に対し  
て、  
どの程度魅力的に感じているのか、Q5の回答の結果により確認した



新設大学の特色6つ全てに  
「魅力的である」を回答した高校生

# 232名 (49.5%)

■ 6つ全てに「魅力的である」と回答 ■ その他 (n=469)

| 北海道武蔵女子大学経営学部経営学科の特色 |   | (n=469)<br>魅力的であると<br>回答した者の割合 |
|----------------------|---|--------------------------------|
| a                    | 少人数ゼミナール、アクティブラーニングとPBL（課題解決型学習）など、<br>学生が中心となる主体的な学び | 77.4%                          |
| b                    | チームの連携・協働を促進し成果を生み出す、新しいリーダーシップ教育                     | 79.7%                          |
| c                    | 心理学やマーケティングと経営学を融合した学び                                | 88.9%                          |
| d                    | デザイン系科目やAI、ICT、データサイエンスなどの新しい情報系科目による学び               | 75.7%                          |
| e                    | 繰り返し学んで習熟度をUPさせる映像配信型授業                               | 73.8%                          |
| f                    | 社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」ブランドと徹底<br>した就活サポート   | 86.4%                          |

→特色の「c」や「f」に対して魅力的であると回答した割合が特に高い

## 「調査の目的」

「北海道武蔵女子大学（仮称）」の設置構想がどの程度高校2年生の進学需要に合致するかどうかの程度入学意向者が確保できるか調査した。

## 「結論①」

アンケートの結果では319名の高校生から入学意向※1を確認できた、これは定員80名の3.99倍の値である。

この入学意向者のうち、進路希望と興味のある学問分野が本学と一致している者が103名確認でき、これは定員80名の1.29倍の値である。

**よって、「北海道武蔵女子大学（仮称）」の学生確保の見通しは高い。**

※1 入学意向者：「受験したいと思う」を回答し、かつ「入学したいと思う」と回答した人の数

## 「結論②」

進路希望と興味のある学問分野が本学と一致している者のうち、「受験したいと思う」かつ「入学を検討したいと思う」と回答した者が39名確認された。この層は、入学意向者について本学への入学の可能性が高い層であり、**本学のPRによって入学意向へとつながる可能性も十分考えられ、103名に加え、更なる入学意向者の確保の可能性は高い。**

## 「結論③」

進路希望と興味のある学問分野が本学と一致している者のうち、「受験を検討したいと思う」かつ「入学したいと思う」「入学を検討したいと思う」と回答した者が469名確認され、この層からの入学意向者の確保の可能性について検証した結果。

i) 469名のうち、232名（49.5%）が北海道武蔵女子大学(仮称)の特色すべてに対して魅力的であると感じている。

ii) 北海道武蔵女子大学(仮称)の特色のうち、特に「心理学やマーケティングと経営学を融合した学び（88.9%）」「社会のニーズに応えることで高い就職実績をあげてきた「就職の武蔵」「ブランドと徹底した就活サポート（86.4%）」に対して、より多くの魅力的であるという回答があった。

i)ii)より、現時点で検討している段階であると想定される469名のうち、49.5%は新設大学の特色全てを魅力的であると捉え、各特色に対して70%以上の魅力的であると回答があることから、新設大学は検討者層のニーズと合致しており、**現時点で検討している高校2年生に対しても、高い評価を得た2つの特色を中心に更にPRを強化することで、より多くの入学意向者を確保できる可能性がある。**